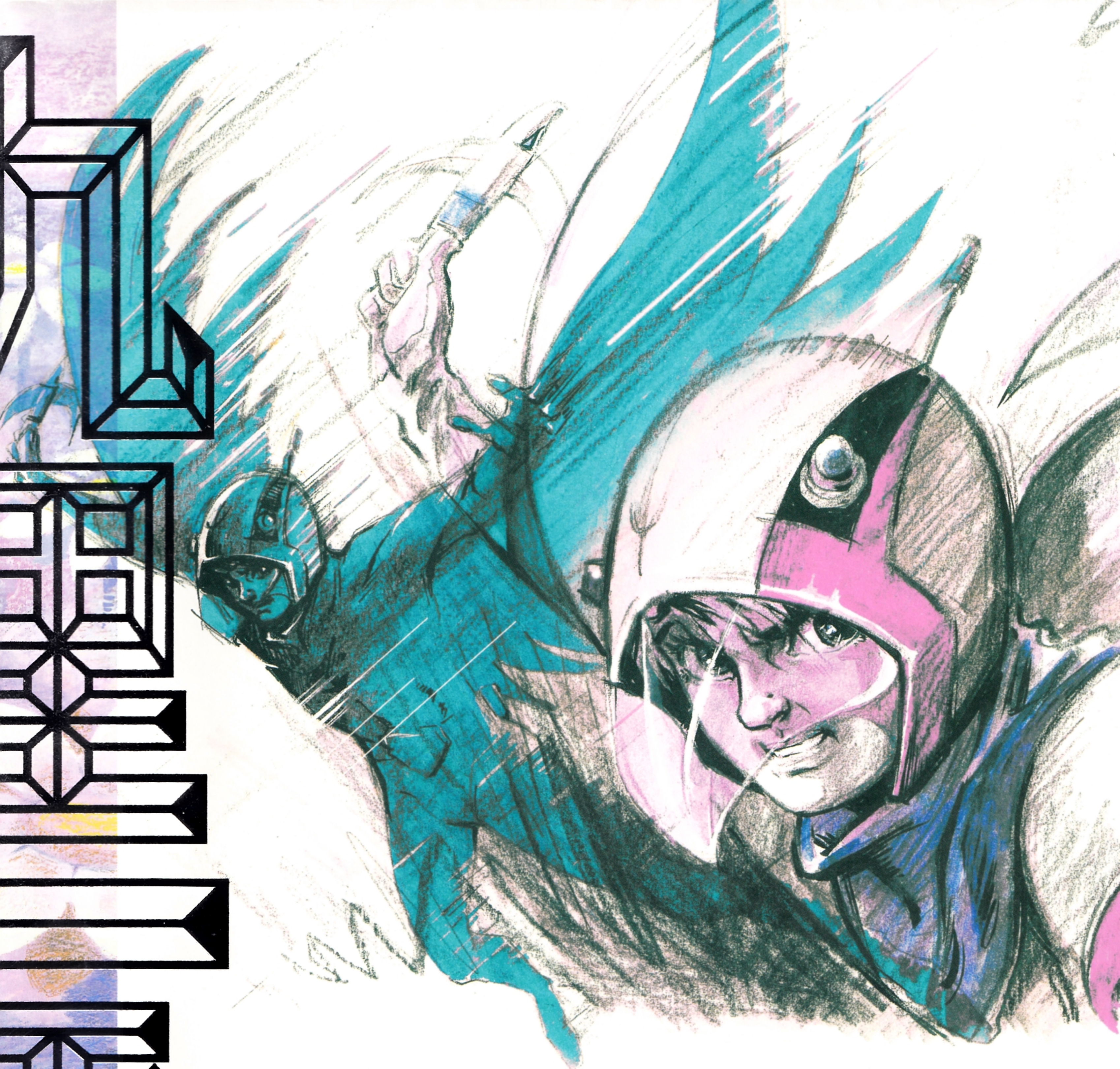
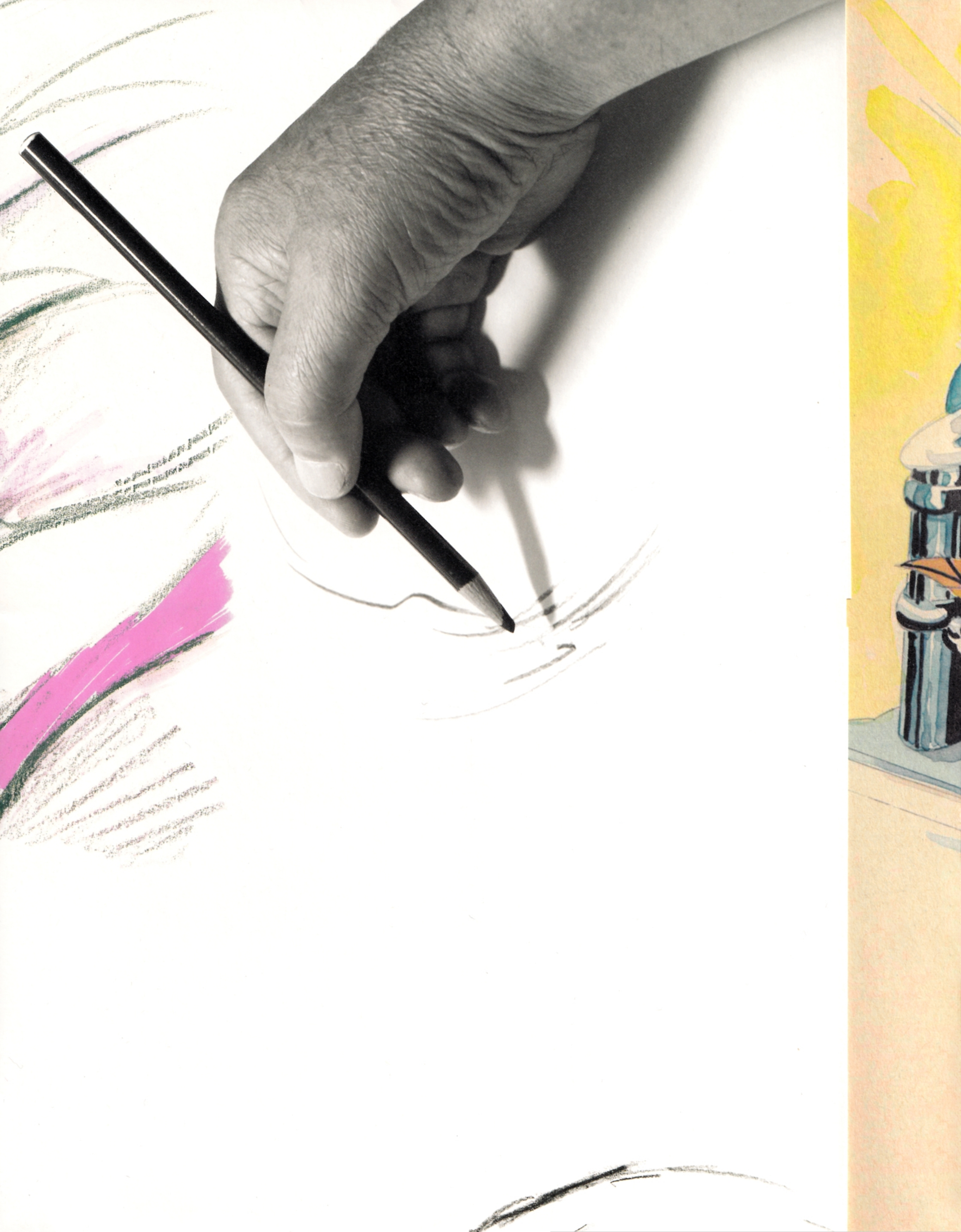


九里一平 作品集

クリ・イッペイ

求龍堂



IPPEIKURI
九里一平

僕は10代で人気漫画家になった。
20代、兄弟三人でアニメ制作を手探りで始めた。
それは戦後、日本がやっと立ち直った頃、
アニメが子どもたちに夢や希望を与えた時代。

それからずっと描いている。
まだ満足できない。
描いてみたいものがいろいろある。

僕は生涯、
画描きなんだよ…

九里一平

クリ・イッペイ

作品集

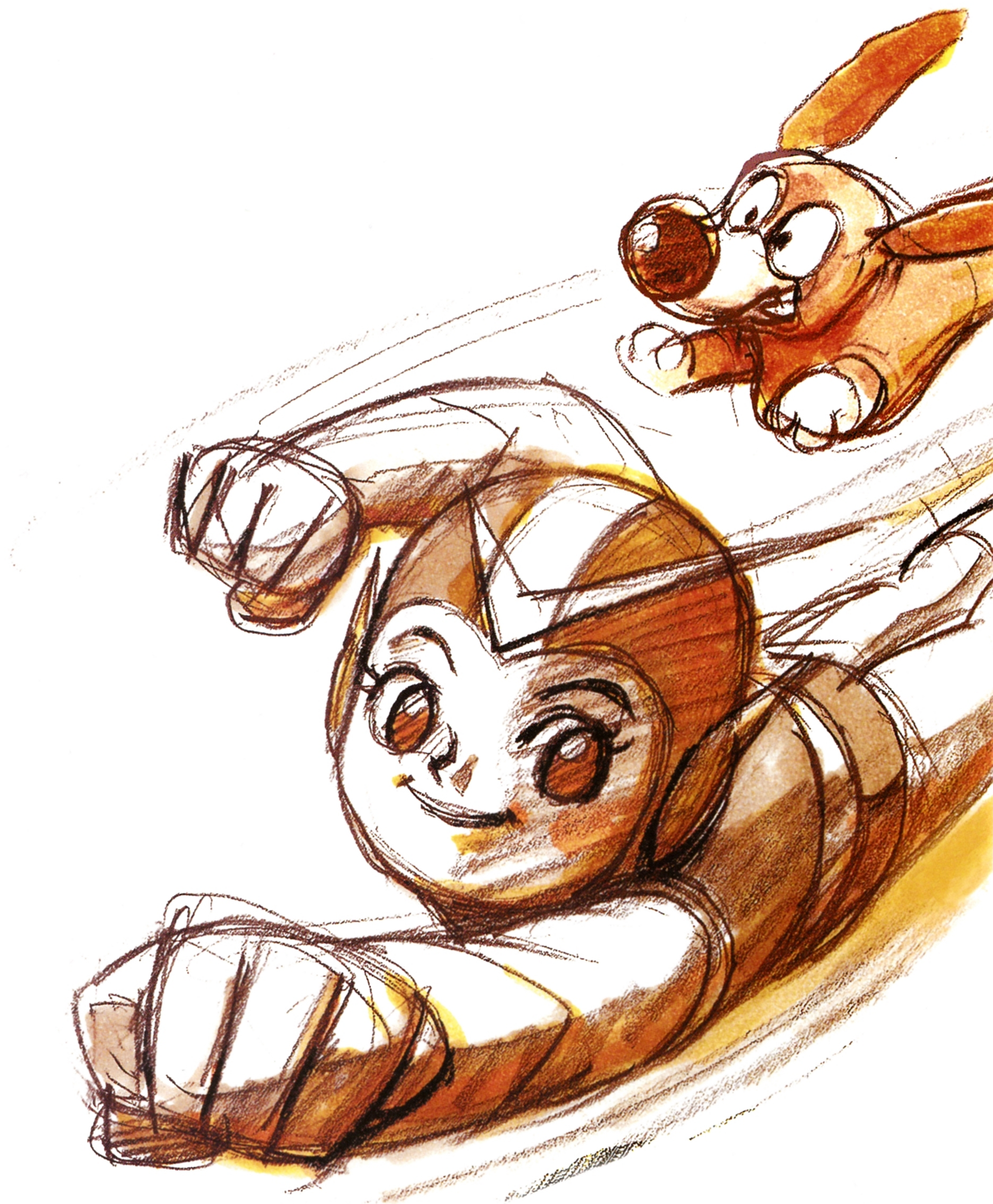
求龍堂

もくじ

九里一平
クリ・イッペイ
作品集

宇宙エース 1965

▲2 ▸3



◂5

▲6

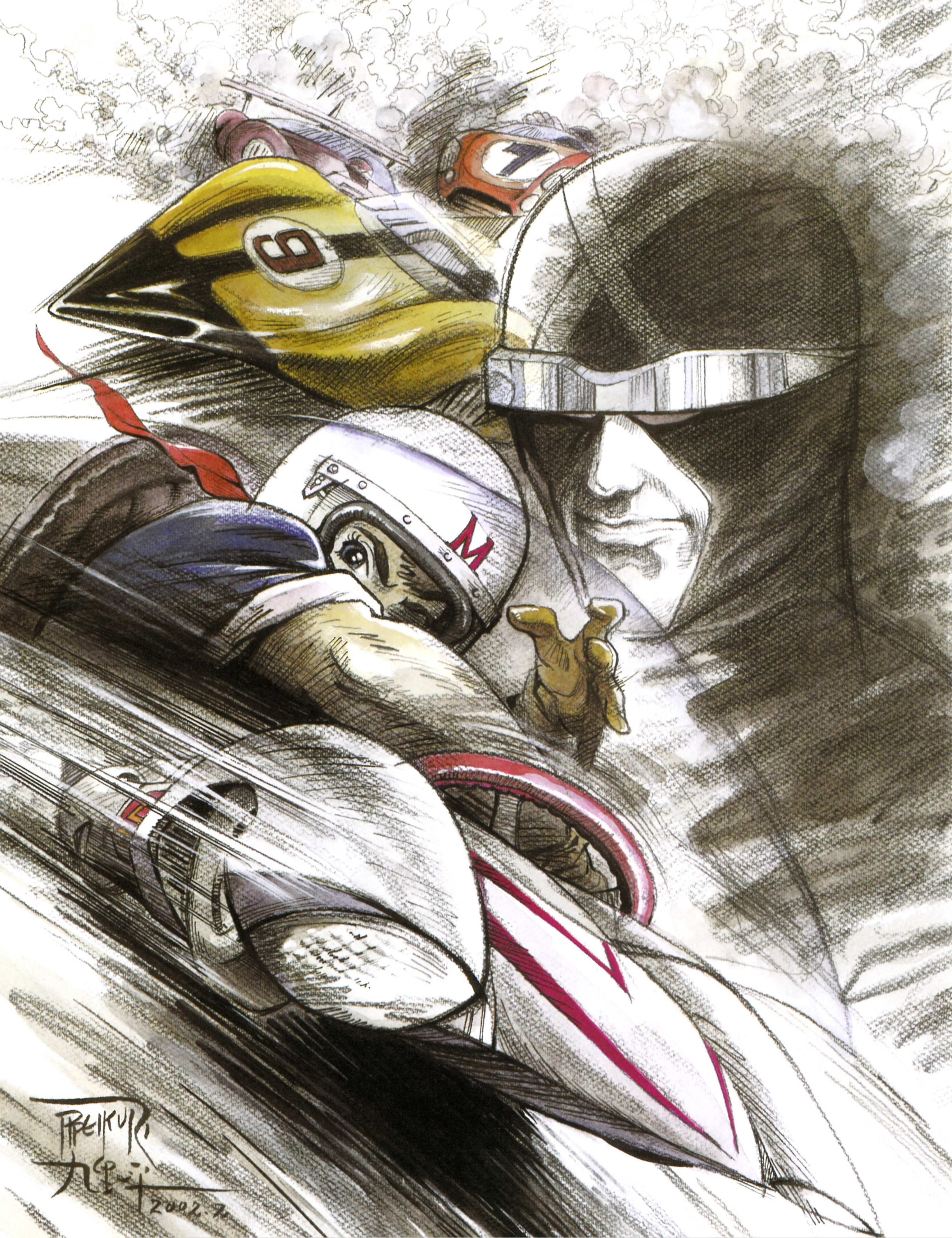
▲7

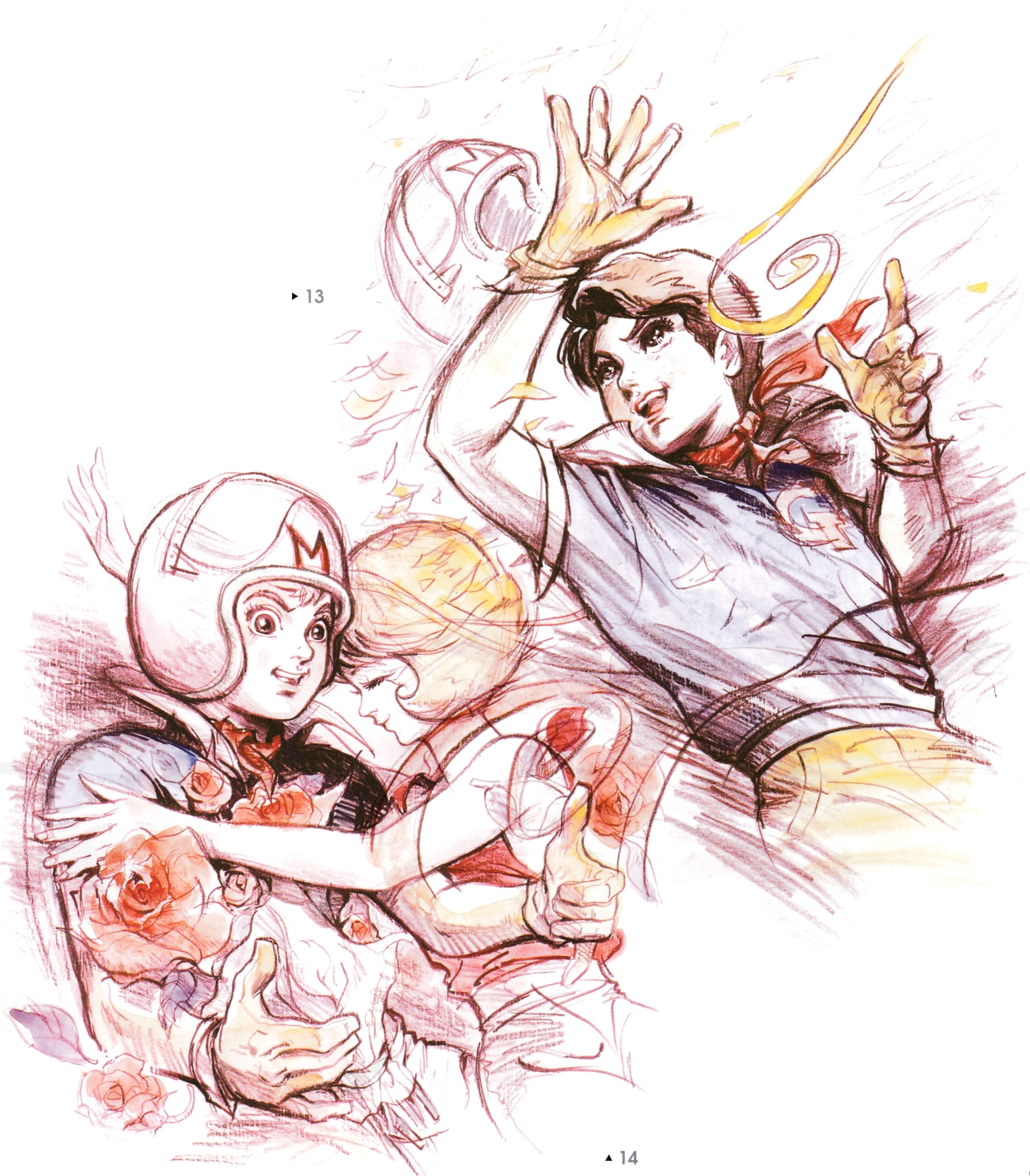
マッハGoGoGo 1967

▲9

▶10

2002.


9
7
M
2002.7



▸ 13

▴ 14

◂ 12

▲ 15

◀ 16

▶ 17

紅三四郎 1969

▸ 19

◂ 18-a

◂ 18-b

◂ 21-24

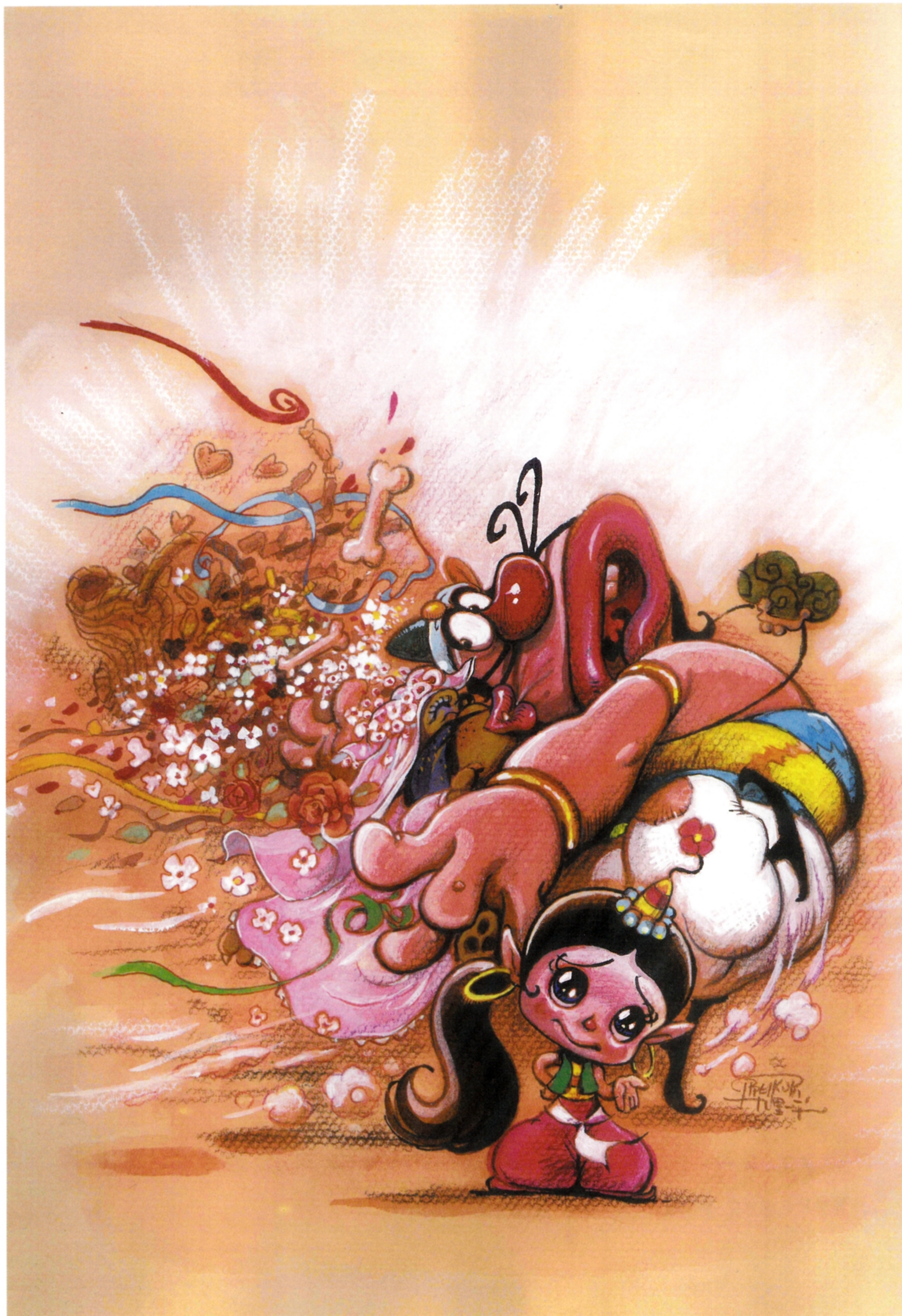
▴ 25

ハクション大魔王 1969

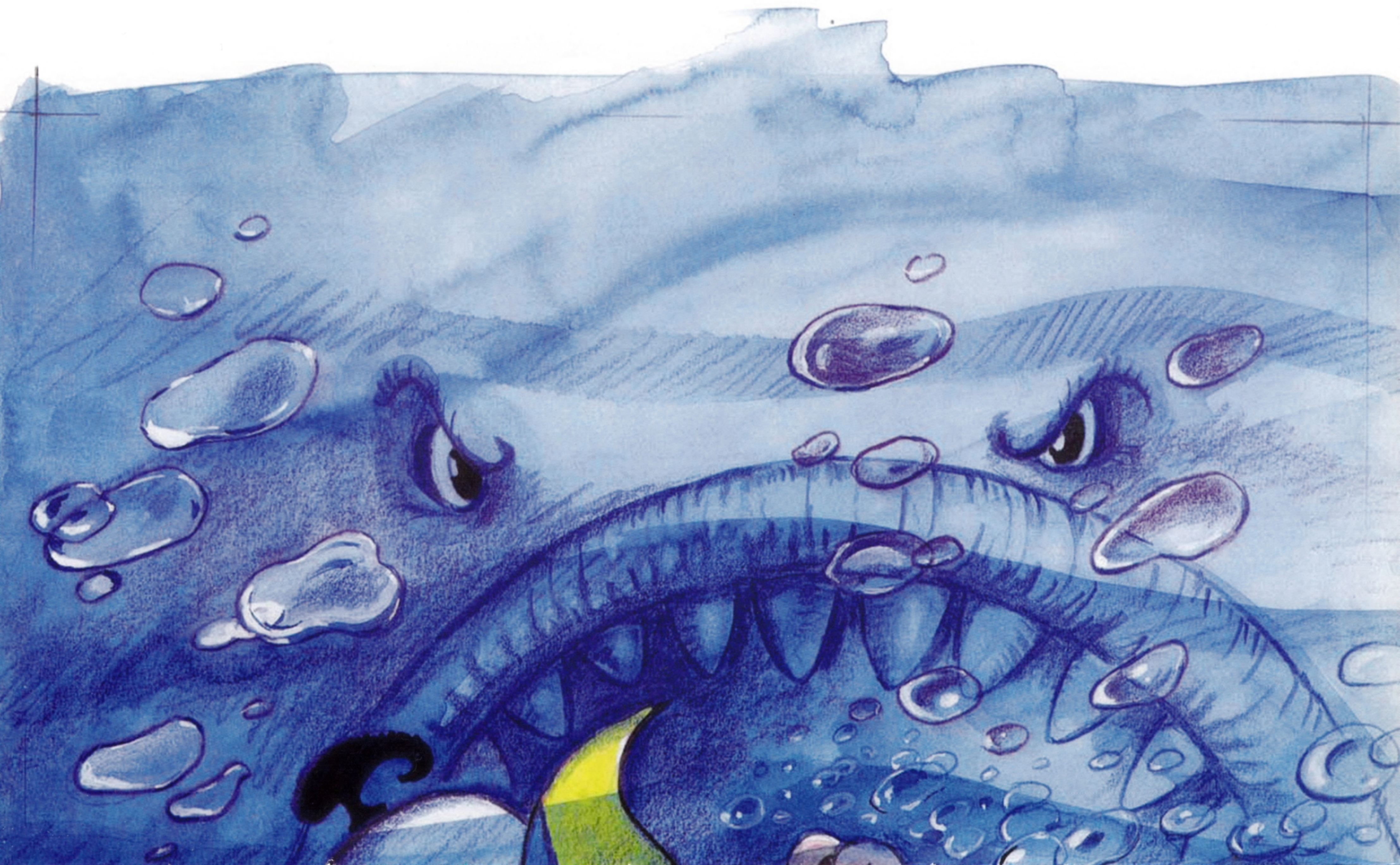
◀ 26

▲ 27

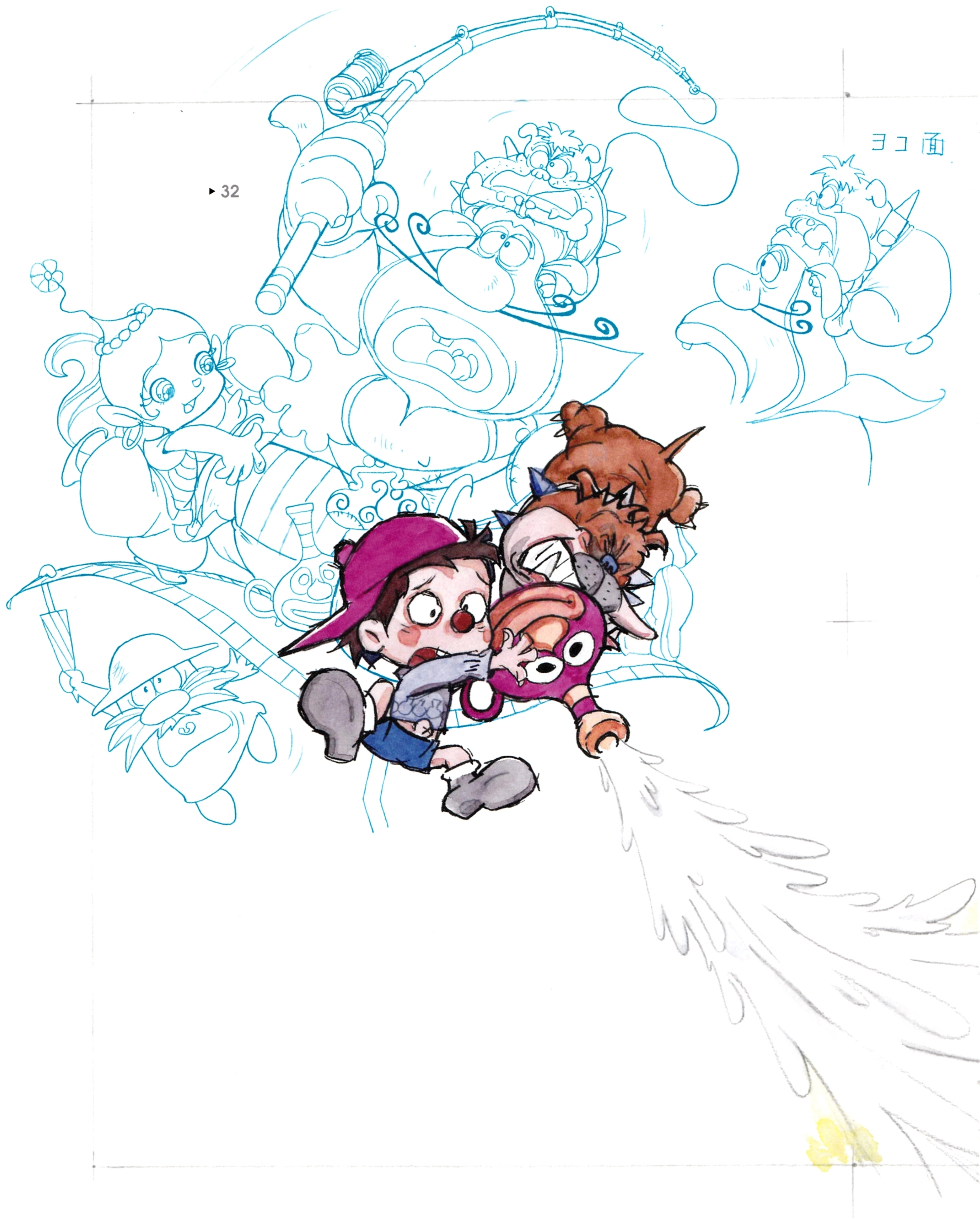
▲ 28

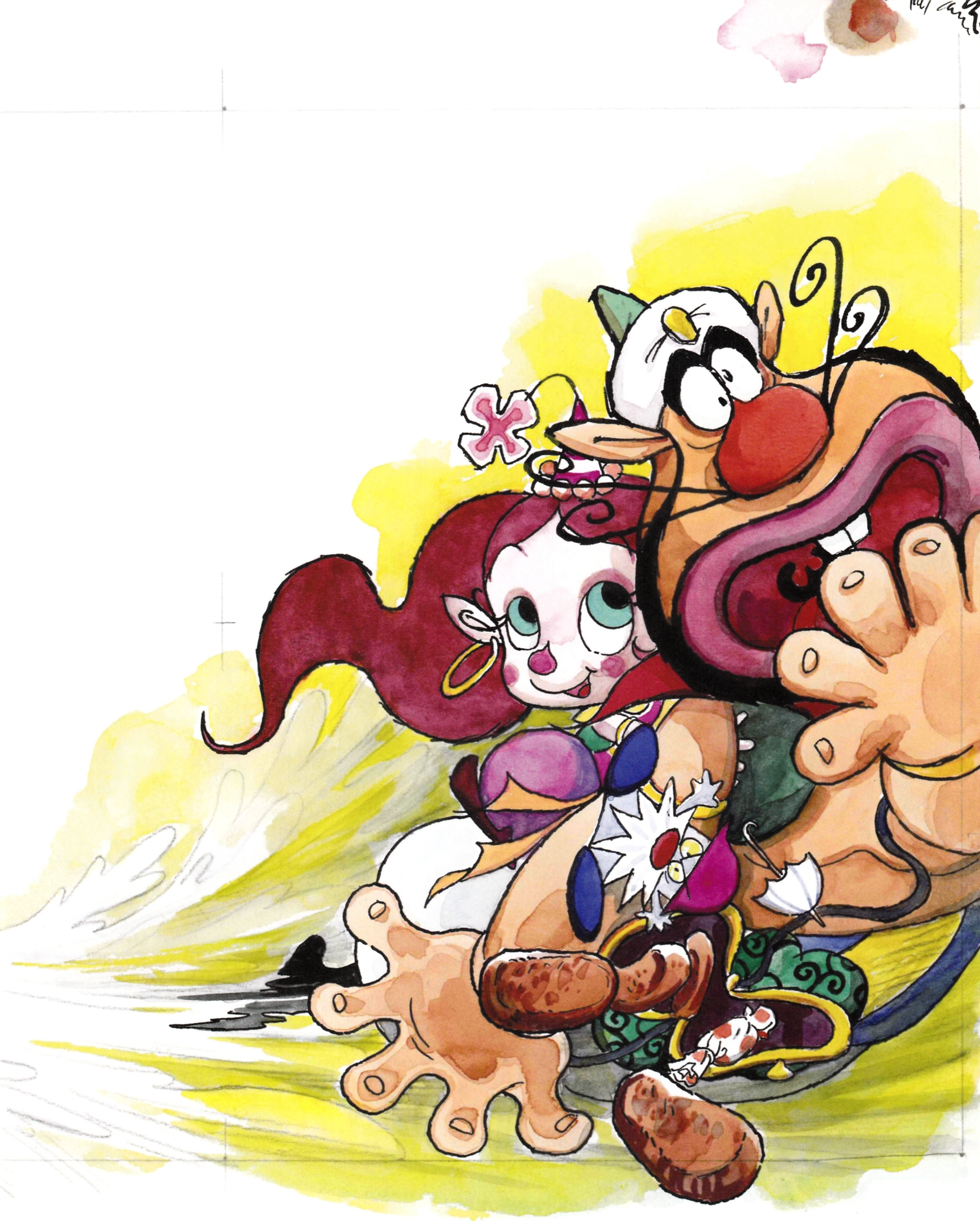


ハクション大魔王



▸ 32





昆虫物語 みなしごハッチ 1970

▲35

2002

昆虫物語
みなしごハッチ誕生

▲41

かれこれ6、7年前のことだ。

僕が、竜の子プロの社長を退任したころ、東京JR線の吉祥寺から京王井の頭線の急行でひとつ目、久我山のマンションにアトリエをかまえた。居心地もよく、しばらくは隠れ家のごとく静かに、そこで過ごすつもりだった。が、3ヶ月もしないうちに、同じマンションに住むご婦人から、通路ですれ違いざま、「おたく九里一平さんでしょ?」と、いきなり声をかけられ、正直戸惑った。アトリエとして移り住んで以後、本名の吉田を名乗っていたはずなのに……。「娘が大のアニメファンで、とくにタツノコプロの作品は大好きだから、お母さん確かめてよといわれた」と、その方は矢継ぎ早に話しかけてきた。僕が表情明るく「そうですか、それは、それは」と言葉を返すやいなや、目をパチクリさせ「ハッチ、あのみなしごハッチはよかったですねぇ。私が中学生のころ、家族で見て、テレビの前で泣かされましたよ。あの小さなミツバチのハッチがねぇ」。僕はその瞬間、あのころを思い返し、すごく幸せを感じたことを覚えている。

その日僕はアトリエに戻り、しみじみと思い出に浸った。あの小さな昆虫ミツバチを主人公にして大丈夫だろうか?という不安な気持ちと、ヒットまちがいなし! の思いが入りまじり、でもやはり不安な気持ちのほうが大きくて、なんとも言葉にできない心境だった。今でも思えることは、僕たちの信念を押し通した、タツノコ企画部の大いなる絆の賜物だった、ということだ。

当時、日本の社会は、昭和43年にはGNP世界第2位という経済大国に成長しつつあり、一方では、猪突猛進で物質文明に向かって走り続けようとする社会でいいのだろうか、という疑問も芽生えていた。工業生産が急速に拡大しつづけ、マイカーブームにより都会にスモークの暗雲がたちこめ、公害が問題になっていた。企画部内でこのことを議題にし、世の中のために一石を投じることができないものかと話し合った。

このころテレビでは、スポーツ根性アニメが各局の目玉として放送されていた。こういう時代にメルヘンはどうだろうか、いや、こういう時代だからこそメルヘンがよいのでは……。そして第1稿の企画を代理店に提出した。思った通り、「みなしごハッチ」の原案は採用されなかった。

僕たちはあきらめきれず、この局面をどう乗り切るか、どうすればよいかを考えた。昆虫の生態や命について考え、人間におきかえてみた。擬人化して根性ドラマに仕立てて進めてみたら、人間ドラマとはちがったストーリーが次々と生まれてくるではないか! 僕たちは「これは、いける」と確信を得た。いよいよハッチ最後の企画書を作成し、愛と勇気とどこまでもあきらめない根性物『昆虫物語みなしごハッチ』を仕上げ、ついにテレビ局にOK採用を言わしめたのだった。

当時のテレビアニメの分野に前例のない昆虫物語を登場させるのは、一か八かの大勝負だった。だが幸いにも、1970年4月、フジテレビ系全国ネットでの放映が決定されたのだ。オンエア第1回目が放送されたとき、ドラマの感動と今までの苦労が、何重にも僕の頭の中を駆け巡った。こみ上げる涙を懸命にこらえたことや、いっしょに見たスタッフたちの横顔に涙がにじんでいたことを、今でも、昨日のことのように覚えている。

放映後、予想以上に子どもたちやお母さんたちのあいだで人気が上昇していった。ひとりぼっちの小指にも満たない小さな「ハッチ」が、悩み苦しみながらも希望を失わず、ママを訪ねて旅をつづけるその姿が、まるでわがことのように、人々の心に同情と感動を呼んだのではと思う。

◉**作品受賞歴**…1970年6月、中央児童福祉審議会推薦、フジテレビジョンより表彰状受賞。同年12月、日本視聴者会より表彰。1971年4月、第2回富士フィルム技術賞受賞。同年5月、児童福祉文化賞、奨励賞受賞。1972年1月、日本コロムビアレコードゴールデン賞(デスク賞、ヒット賞)受賞。同年3月、第17回小学館漫画賞受賞。同年5月、第12回日本放送作家協会賞(優秀番組賞)受賞。

樫の木モック 1972

◀ 42

▶ 43

科学忍者隊ガッチャマン 1972

▲44

◂ 45

46 ▸

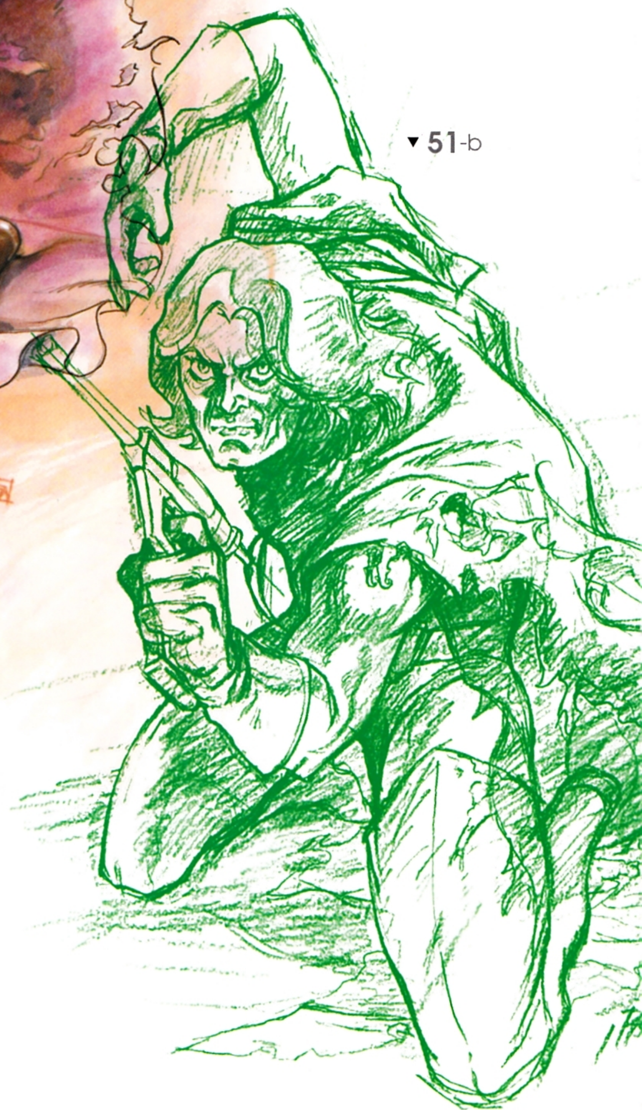
◂ 47

▲48

◀49

◀50

▼51-b

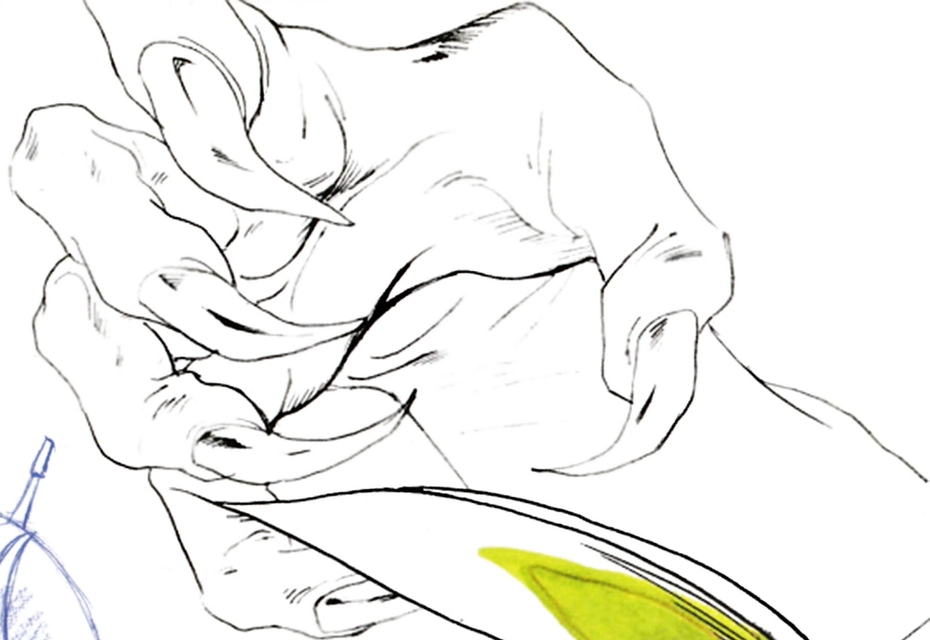


▲51-a

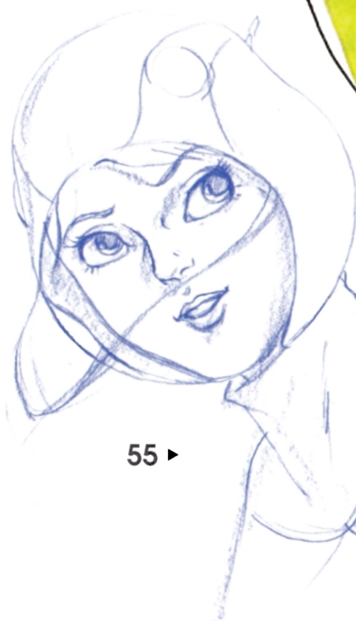
46·47

科学忍者隊 ガッチャマン

53 ▸



▴ 54



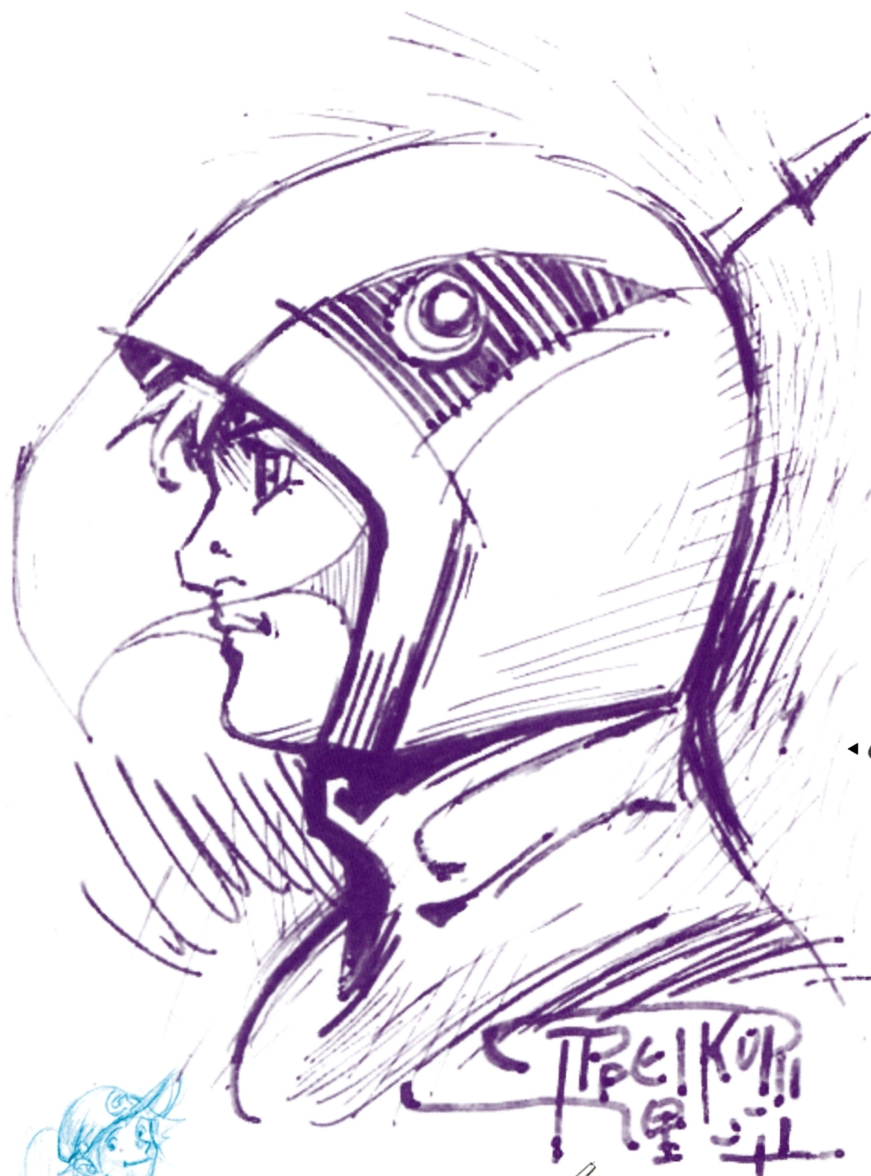
55 ▸

56 ▸

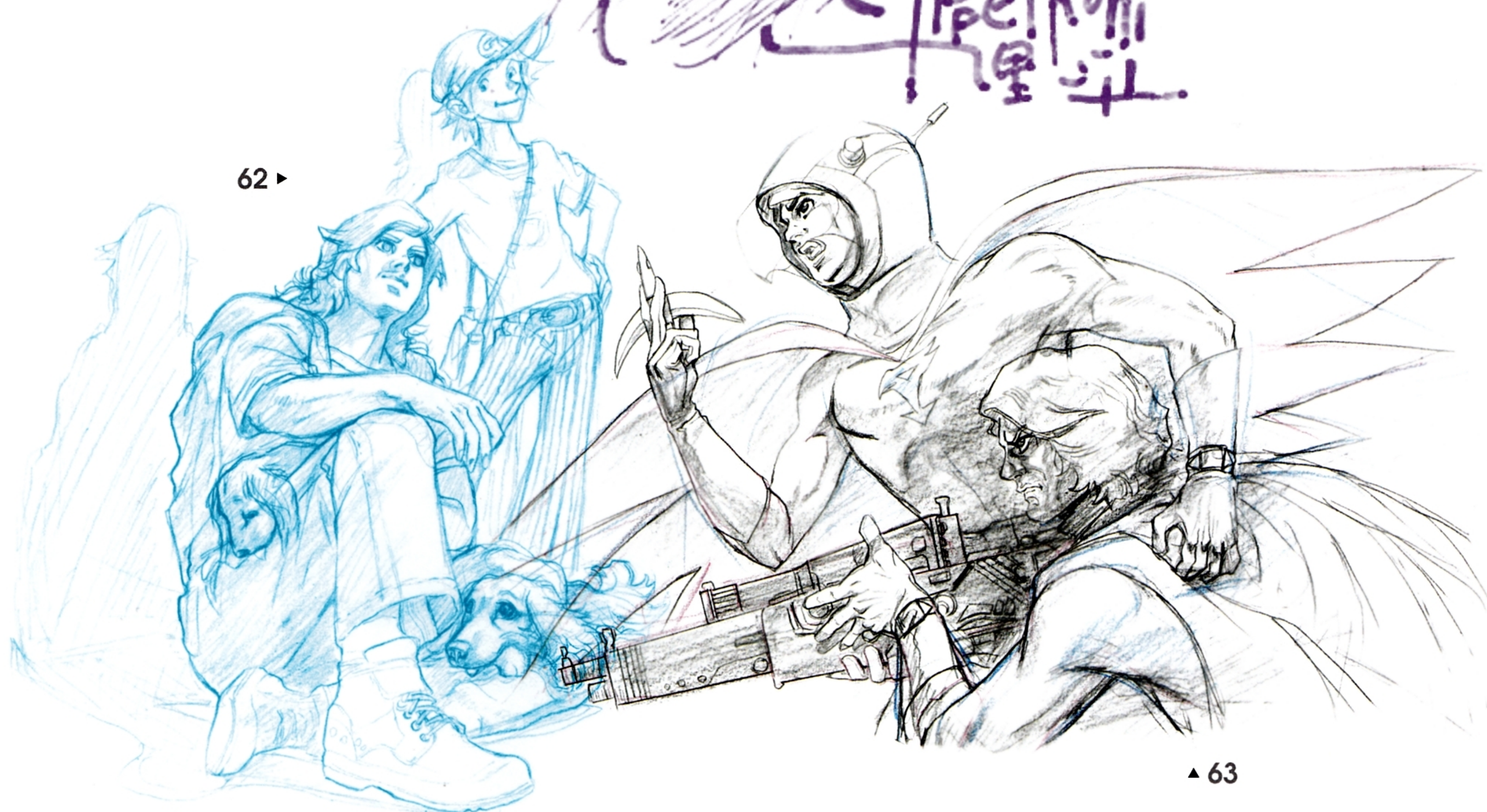
59 ▸

57 ▸

▴ 58



61

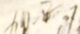


62

63

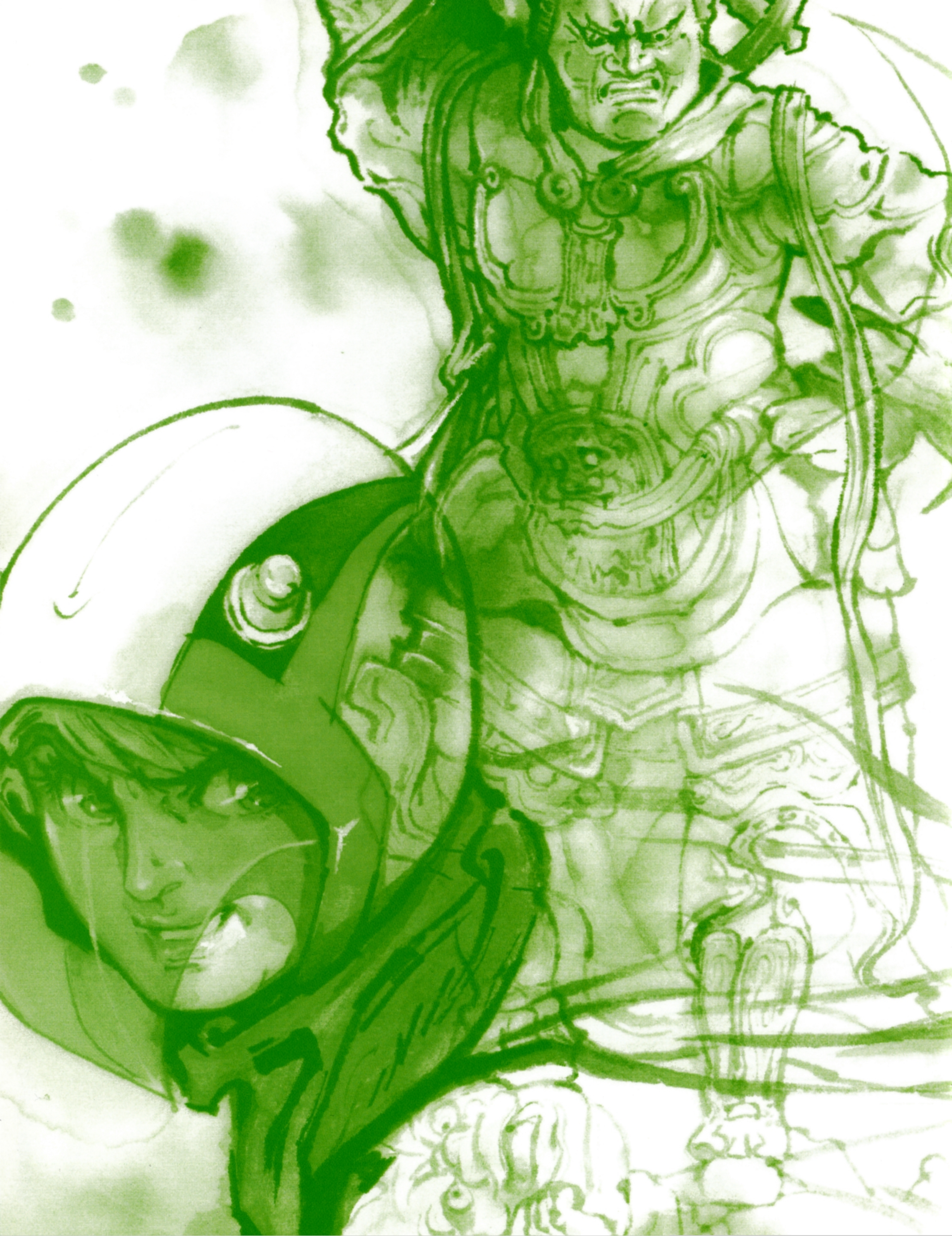
64 ▸

65-70 ▸



▲72

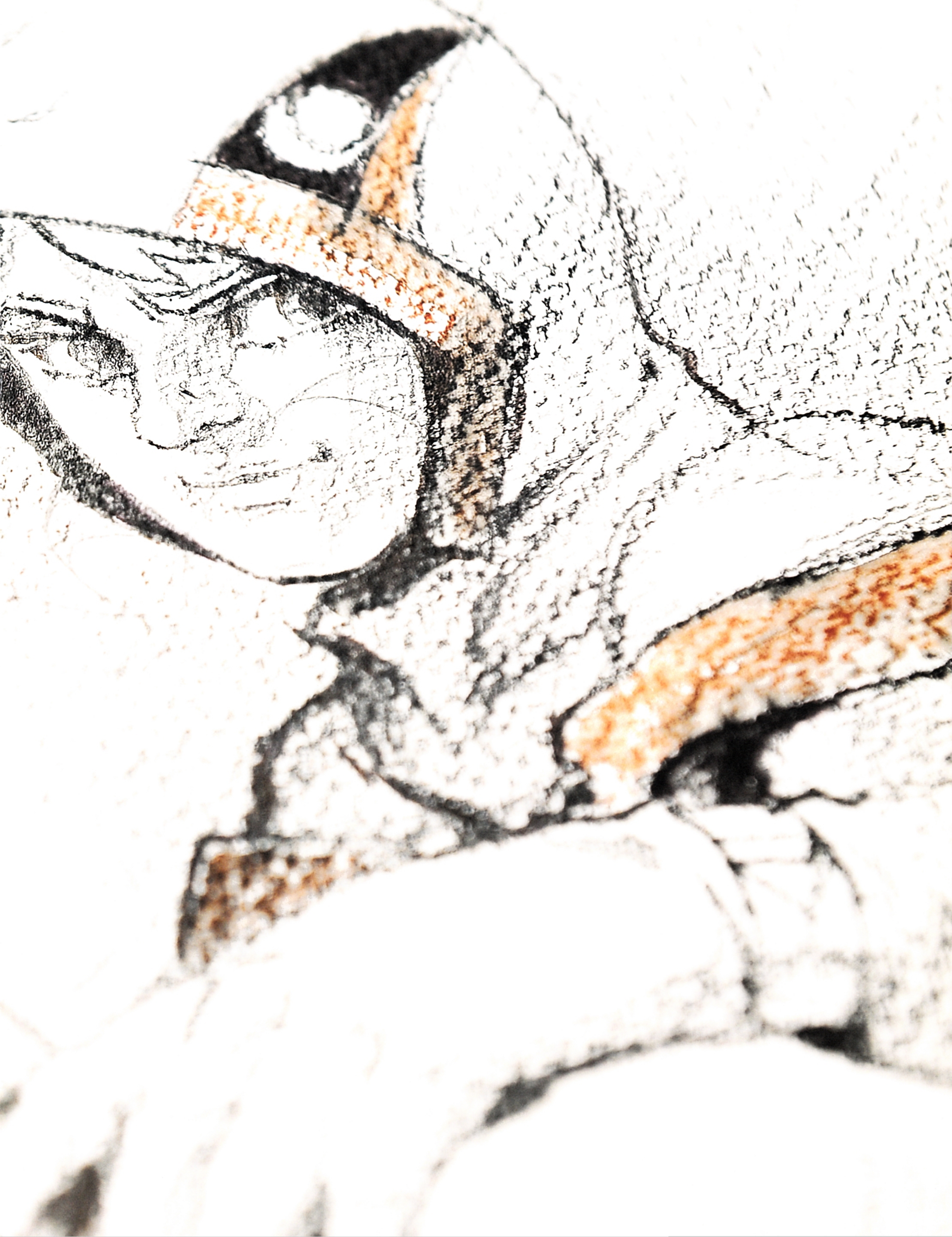
▲71



73▲

75 ▸

▲76



▲78

IPPEIKURI

ガッチャマンへの想いと僕にとってのヒーロー

タツノコ作品の中で一番思い入れが深いのは、なんといっても『科学忍者隊ガッチャマン』だと思っている。理由は僕の生い立ちに起因する。

母は僕が生まれてすぐに他界した。父は戦争で満州に送られ、捕虜となり、戦後4年ほどしてやつれ果てて帰国したが、その後まもなく、父も母を追うようにして鬼籍に入った。僕たちは祖母に引き取られたが、みなしご同然に、貧しい暮らしの中を生き抜いてきた。みなしごハッチもそうだが、ガッチャマンも同じようにみなしご同志の集まりである。そのみなしごたちに魂を吹き込むことが、作品制作にかける僕の夢であった。

当時は高度成長の時代で、公害問題が意識の中にあり、公害をまき散らす悪を撲滅するヒーローの物語を企画したかった。ちょうど代理店からSFの依頼があり、ガッチャマンが誕生したというわけである。当時のテレビアニメのSFといえば、SFにこだわるばかりに、人間性を深く描くドラマに欠けるところがあったように思われる。それだけに、戦いの中にあって血を分けた兄弟以上に愛し合い助け合う、人間の生き方そのものに心を注ぎたかったのだ。その意味では当時主流だったファンタジックなアニメとは、かなり趣の異なるSFアクションドラマになったと自負している。

しかし僕は、キャラクターは画いたものの、当時、経営者という立場とプロデューサーという立場から、すべてに目を通すどころか、予算やアニメーター確保に追われた記憶のほうが多い。だが、たとえ赤字になろうと、この作品では絵コンテの枚数を削ることは決してしなかった。結果、ガッチャマンは多くのファンの人気を得ることができたことを誇りに思っている。

僕が何故に、この作品にいまだ熱い想いを抱き続けているかといえば、この作品が、兄(吉田竜夫)との思い出につながっているからだろう。今まで誰にも語らず、心にしまっていた想いを、この場を借りて語りたい。

あれは「ガッチャマン」「キャシャーン」が高視聴率のうちに終了して半年ほどの頃だったろうか、新しい企画会議が招集された日のことだ。兄は風邪をこじらせており、体調を崩して会議を早々に引きあげた。眼のまわりは黒く、肝臓を悪くしていたのが気がかりだった。僕は数日寝込んでいる兄が心配で、強引に病院に連れて行ったのである。

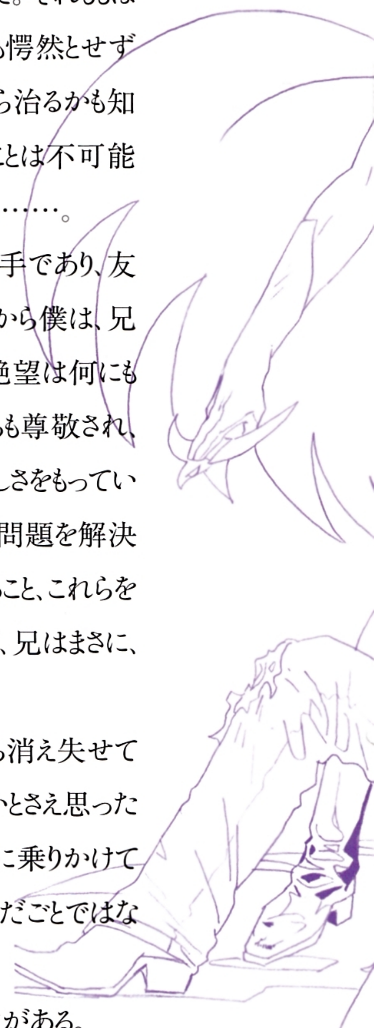
医師は、過労で肝臓が弱っているから、肝炎に進行しないように半月ほどゆっくり休養するよう兄に進言。僕も大事に至らず一旦は安心したものの、その後、兄の容態は回復するどころか悪くなる一方だった。ただごとではないと感じた僕は、兄を説得して大学病院に連れて行ったところ、突然緊急入院を言い渡されることになってしまった。僕と次兄(健二)は院長に呼び出され、兄が肝臓癌であることを告げられた。それももはや手遅れだというではないか。僕も次兄の健二も愕然とせずにはいられなかった。現在であればひょっとしたら治るかも知れない病も、当時は手術しても進展をくい止めることは不可能だった。兄の竜夫は40歳半ば。しかも余命1年……。

僕にとって兄は、父親代わりであり、よき話し相手であり、友人でもあり、師匠ともいえる存在だった。幼いころから僕は、兄だけを頼りに絵を学んできた。それだけに、その絶望は何にも形容しがたいものだった。兄は、人としても誰からも尊敬され、愛される、カリスマ的な人間だった。超越した優しさをもっていること、単純明快なこと、神様のようにあっという間に問題を解決してくれること、笑顔でやすやすと人を助けてくれること、これらを兼ね備えた人物が僕にとってのヒーロー像だが、兄はまさに、僕のヒーローだった。

涙が溢れ会社や将来のことも、一瞬念頭から消え失せていた。兄が助かるものなら僕の命と交換してもよいとさえ思ったくらいである。竜の子プロも順風満帆、ようやく波に乗りかけてきた時期だっただけに、僕たち兄弟の動揺はただごとではなかった。

兄の死に至る経過を長々と語ったのには理由がある。

そのとき、僕の脳裏に浮かんだのが「ガッチャマン」の最終回。地球を救うため、自ら身を投じ壮絶な最期をとげたコンド



▸81

◂82

◂80

ルのジョーのストーリーである。貧しく苦しい生活の中、漫画家の夢を抱き、僕たち弟を支え、血の滲む苦労を惜しまず、竜の子プロを育て上げ、夢半ばにして倒れた兄の無念さを思うとき、恥ずかしながらも僕は、ジョーの最期と兄の死を重ねて思い描いていたのだった。

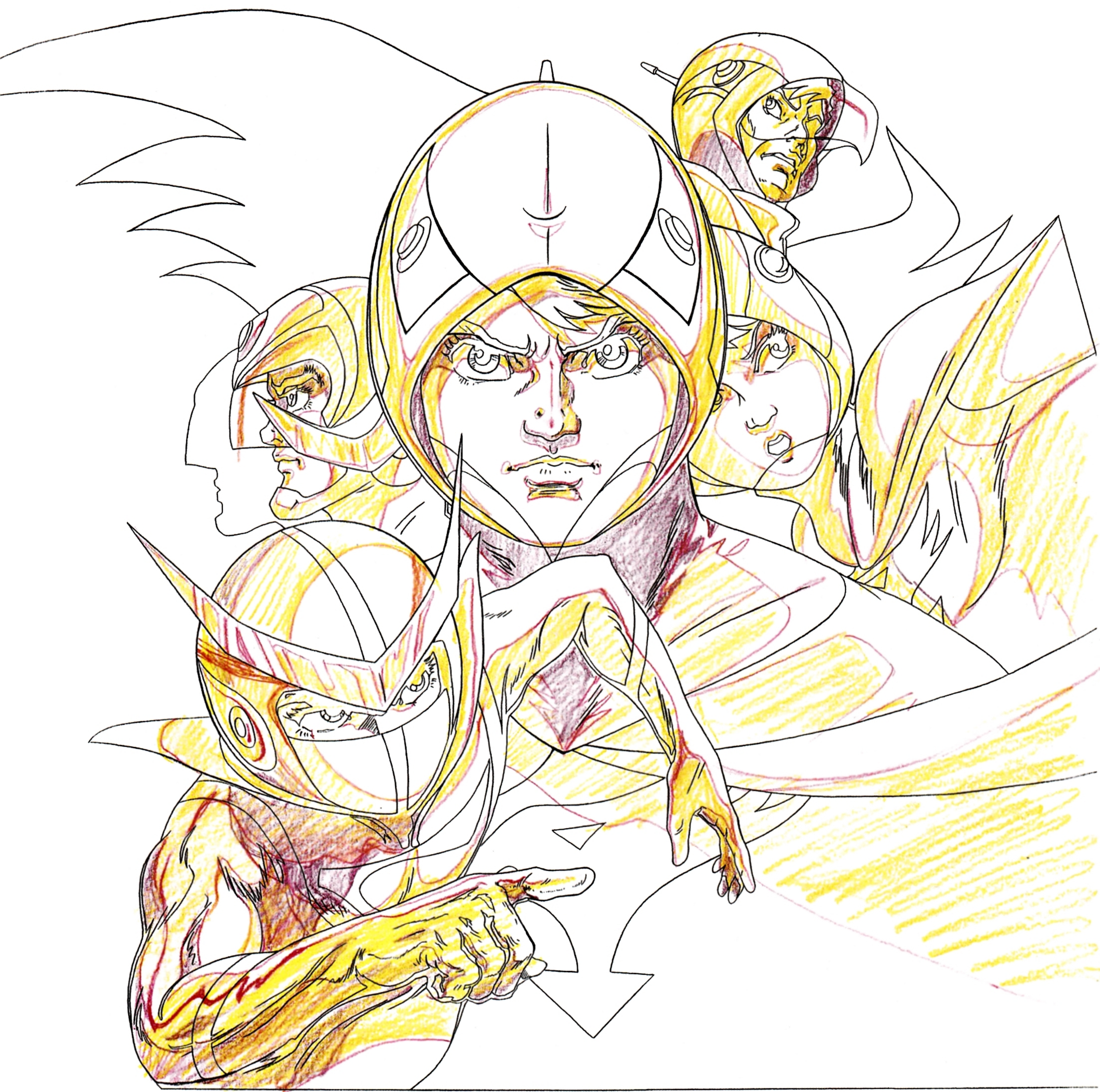
兄は医師の宣告より3日長く生きたものの、病と闘いながら、親族に看取られ、天国へと旅立った。「兄貴！ 死なないでくれ！」何度も叫んだ僕の声は、仲間を必死に支えて息絶えたジョーを慕うガッチャマンたちの心の叫びと共鳴していた。

あのラストシーン、ジョーを守ろうとする健たちと、死を覚悟して仲間を救おうとするジョーの姿……。僕は今でも、あの瞬間のジョーと仲間の真心を描き続けている。「ジョー！ 死なないでくれ！」その言葉は同時に、「兄貴！ 死なないでくれ！」と号泣する自分の姿と重なって、胸が苦しくなるのだ。

ジョーと健が並ぶ構図（No.51、52、63）を、僕は何点も描いている。この画で、あのシーンの表現は満足できるものなのか、これでよいのか……。「いやいや、まだまだ」と天国の兄が言っているようだ。どうしてもいまだに兄に認めてもらえないようで、それが悔しくて、これからも、このラストシーンを描き続けていくことだろう。

僕が数あるタツノコ作品の中で、『科学忍者隊ガッチャマン』を、いまだに熱く心に刻んでいる理由はそこにあり、中でも、ジョーは忘れようとしても決して忘れられないキャラクターであることが、これでおわかりになったことと思う。

だから、コンドルのジョーは僕にとって「ヒーローの中のヒーロー」なのである。



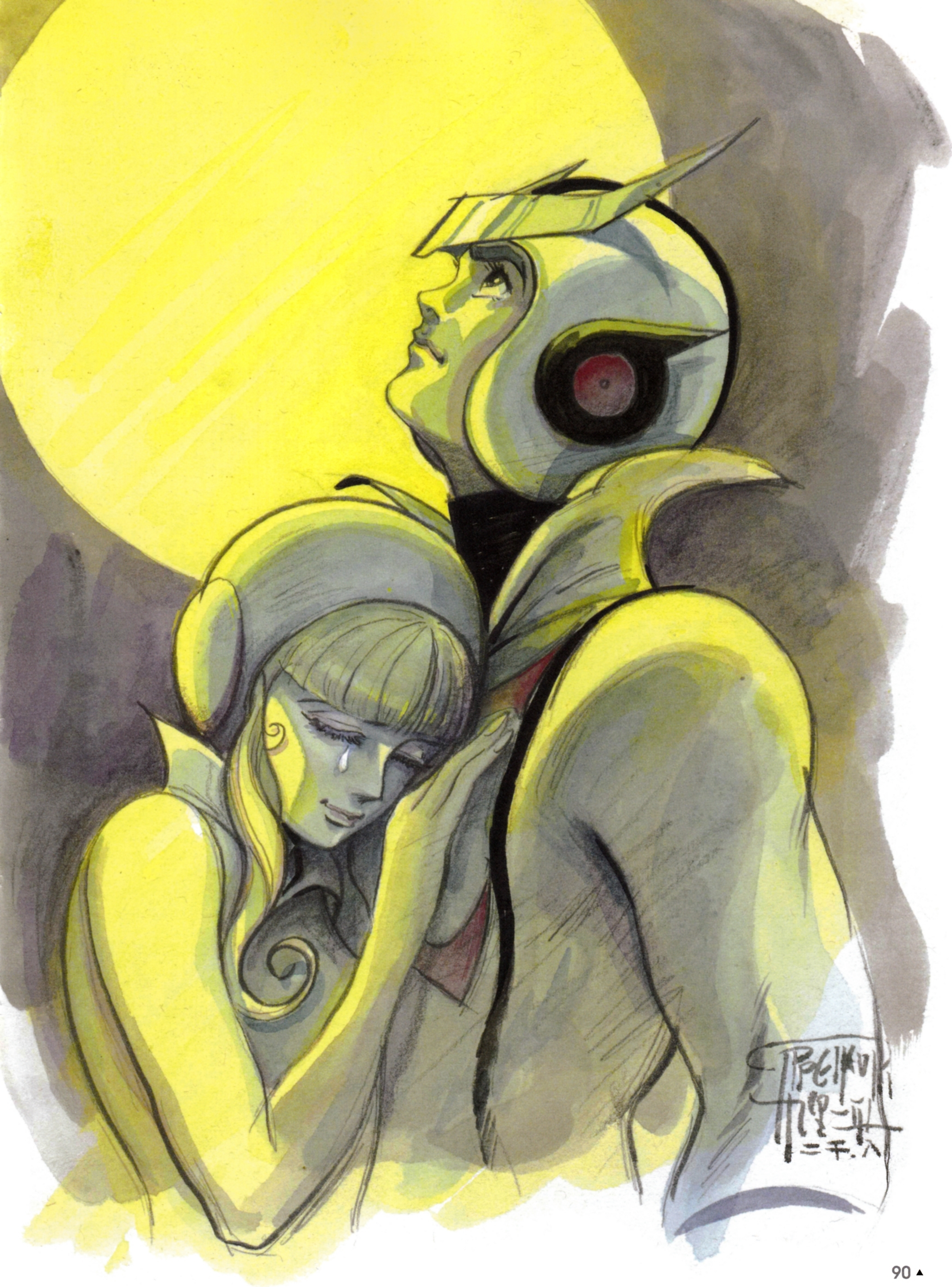
けろっこデメタン 1973

IPPEIKURI
九里一平 2004

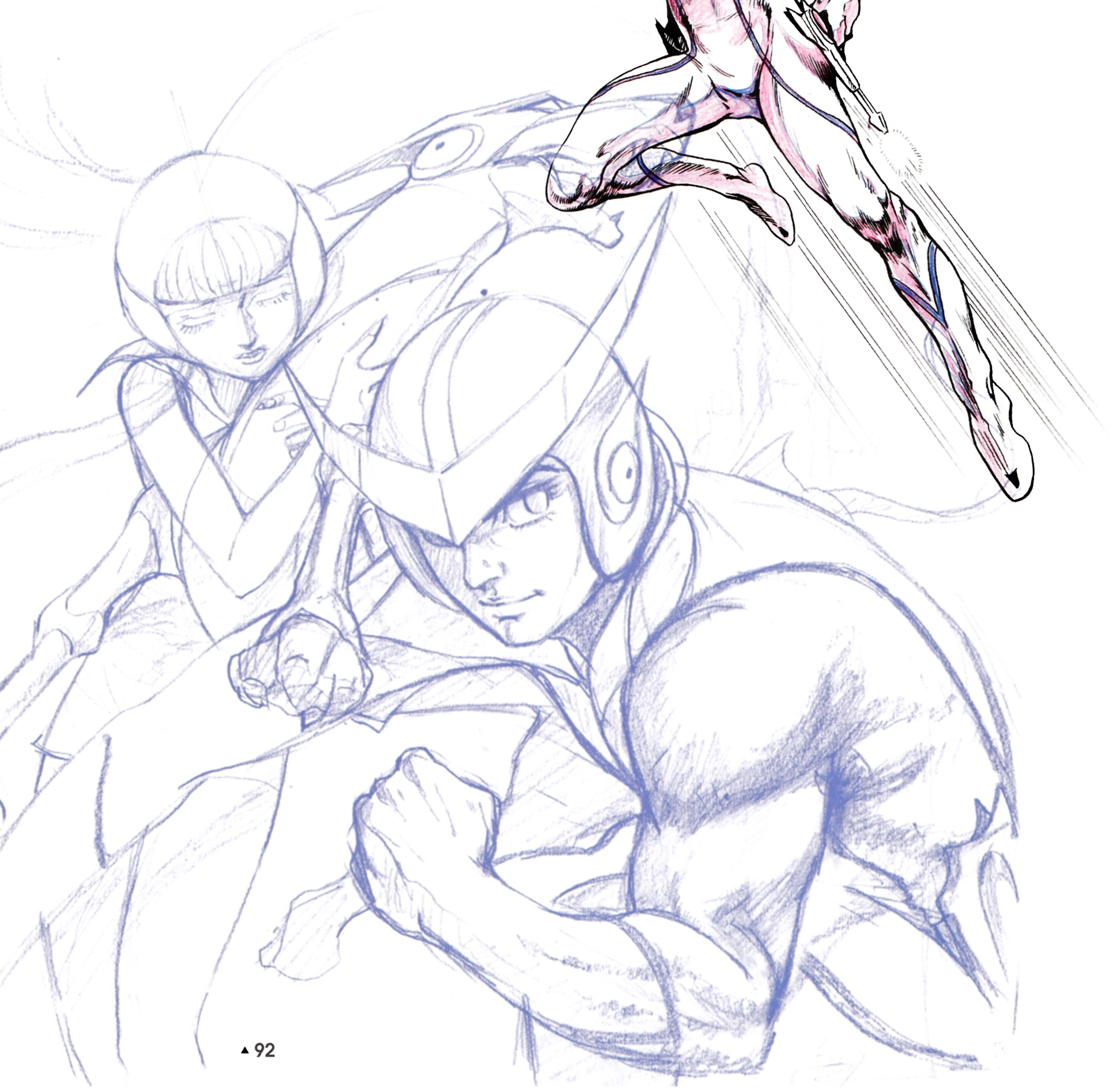
▲ 87

九里一平

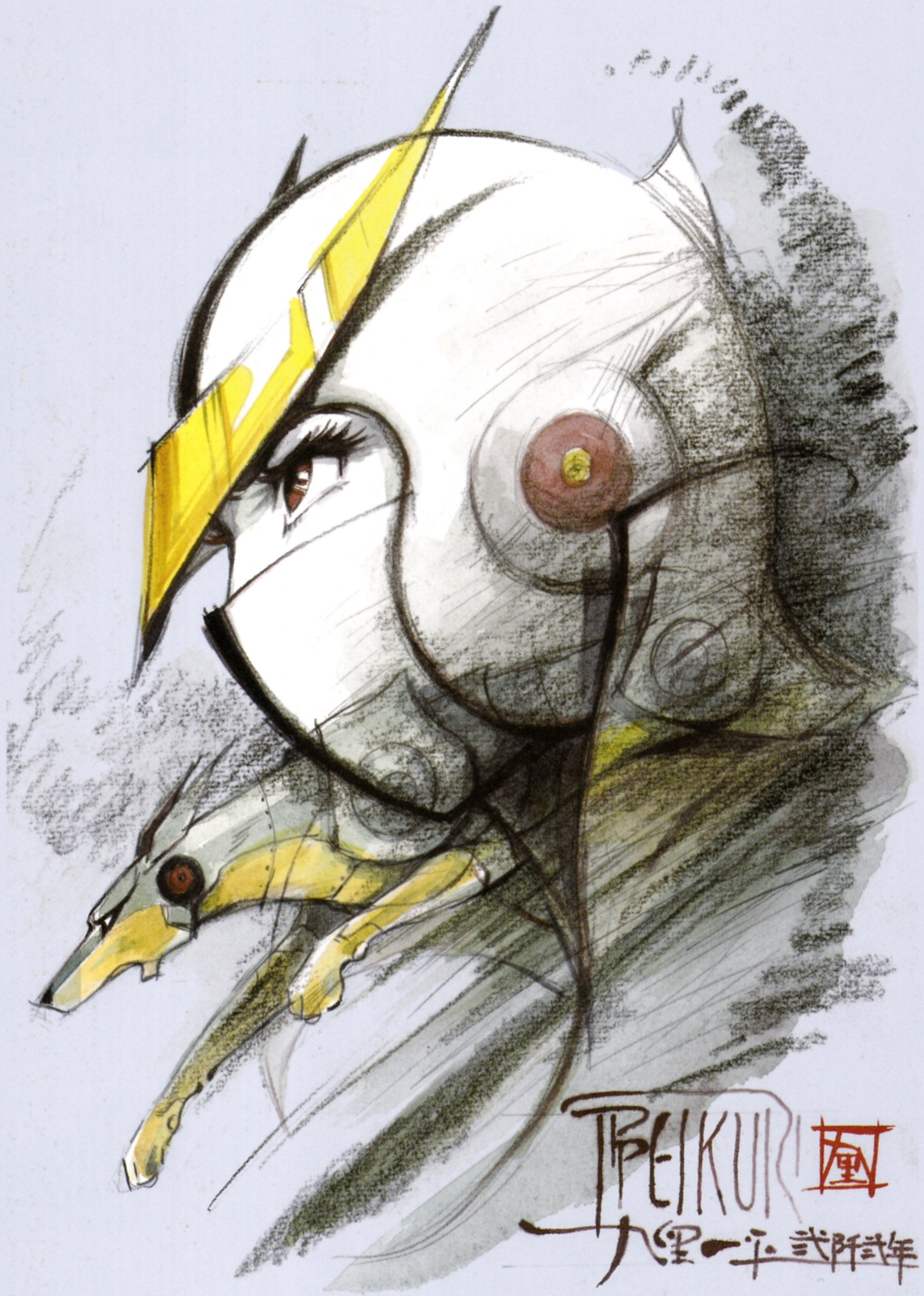
新造人間キャシャーン 1973

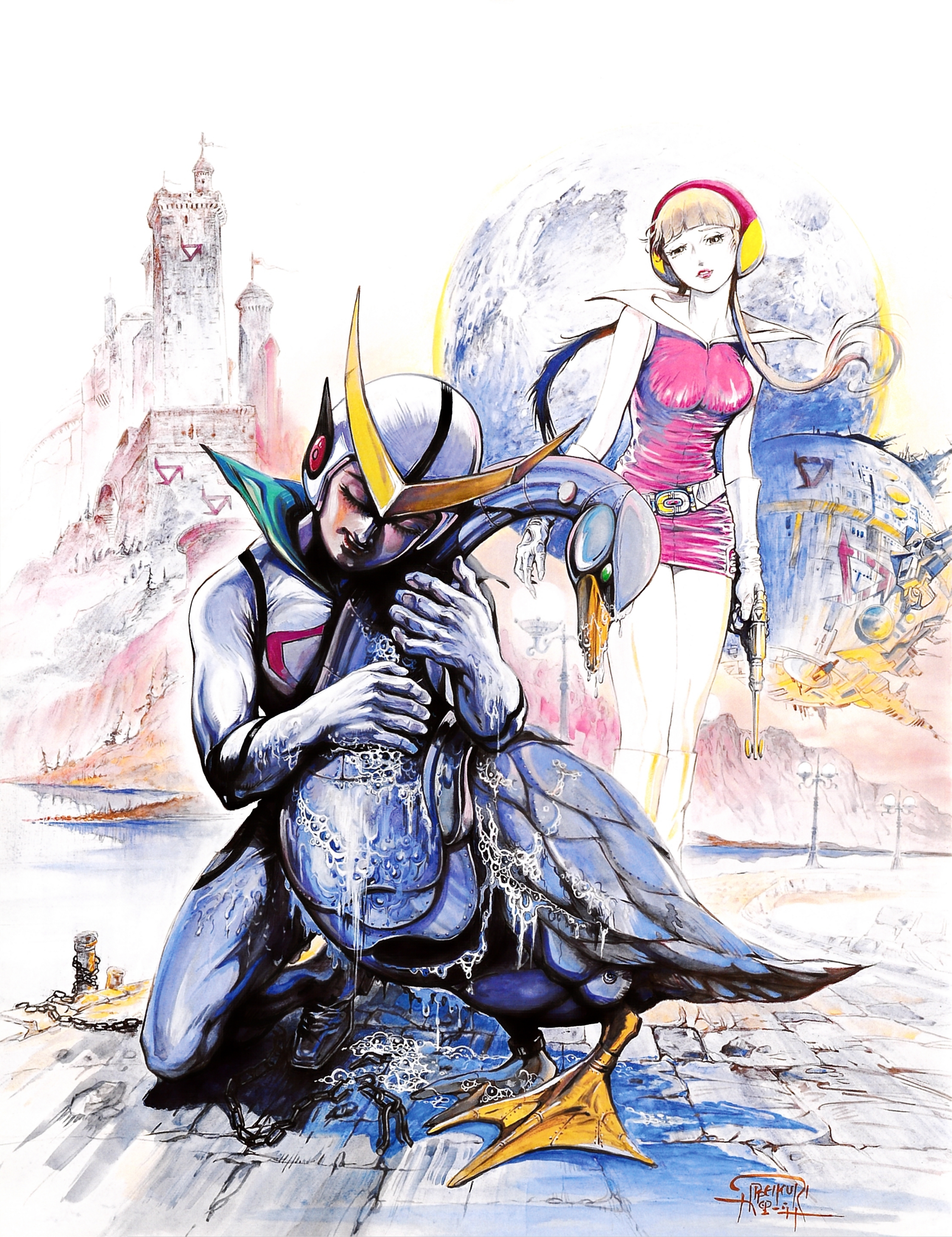


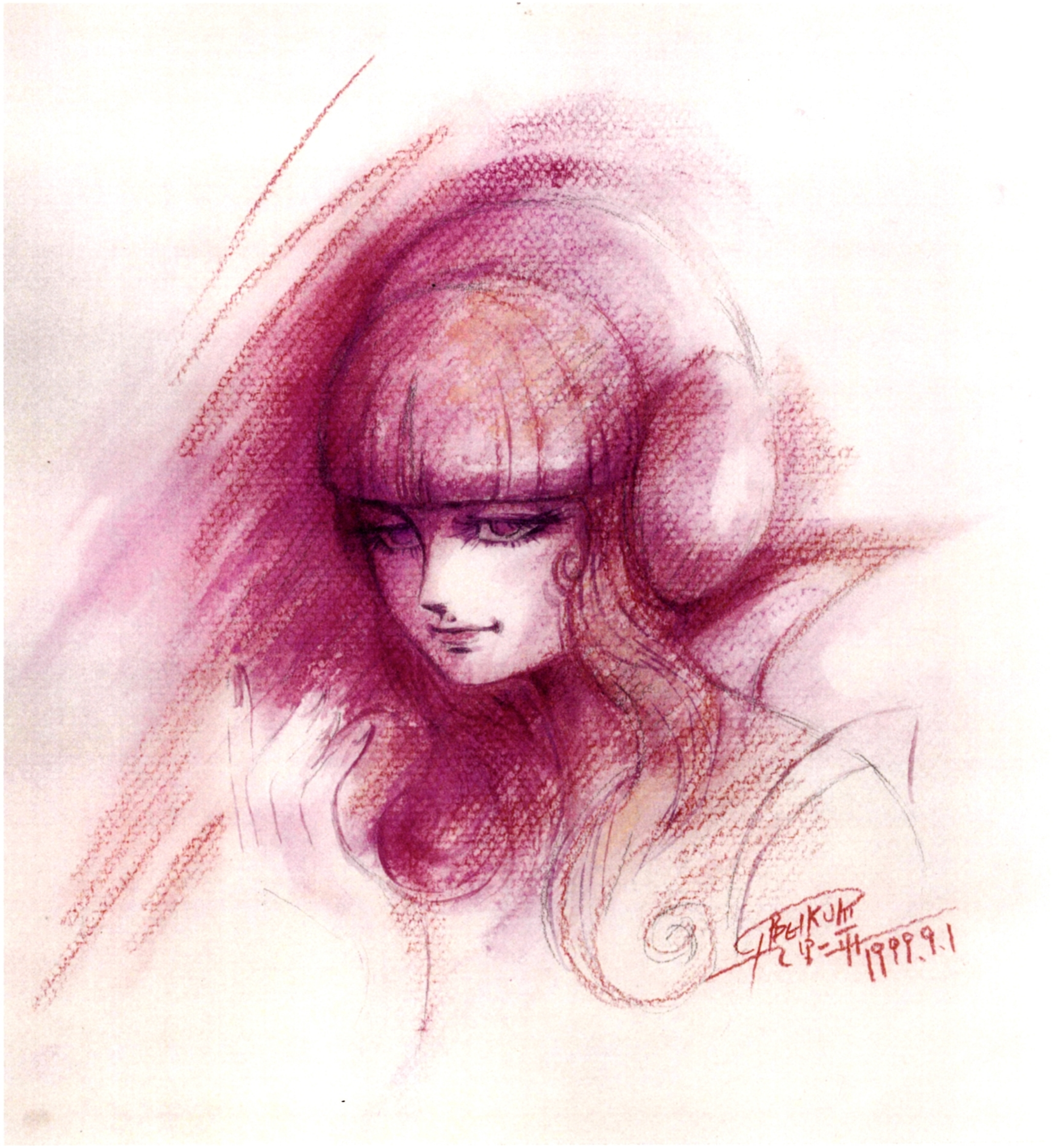
91 ▸



▴ 92


PEIKURI
画
九里一平 弐阡弐年

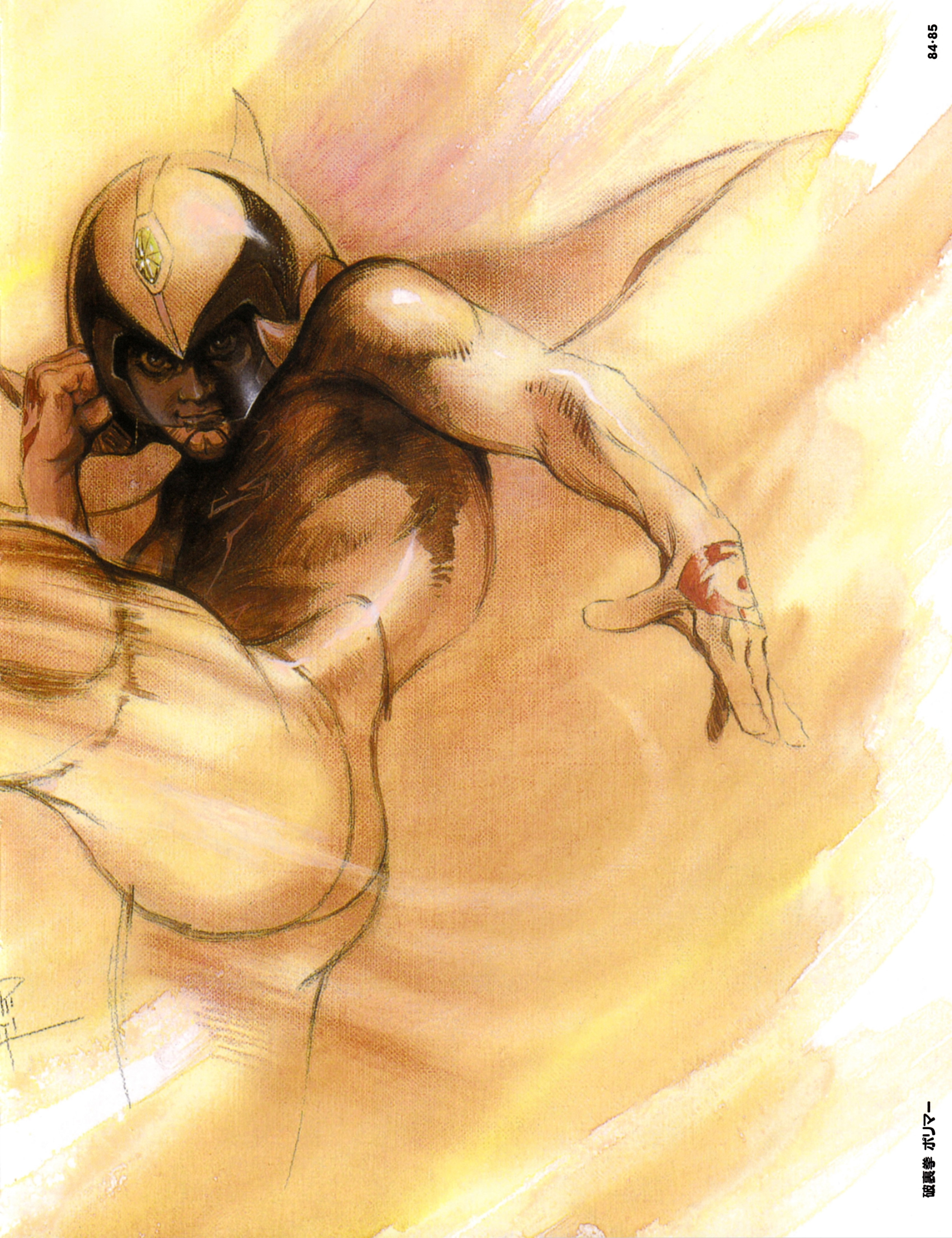




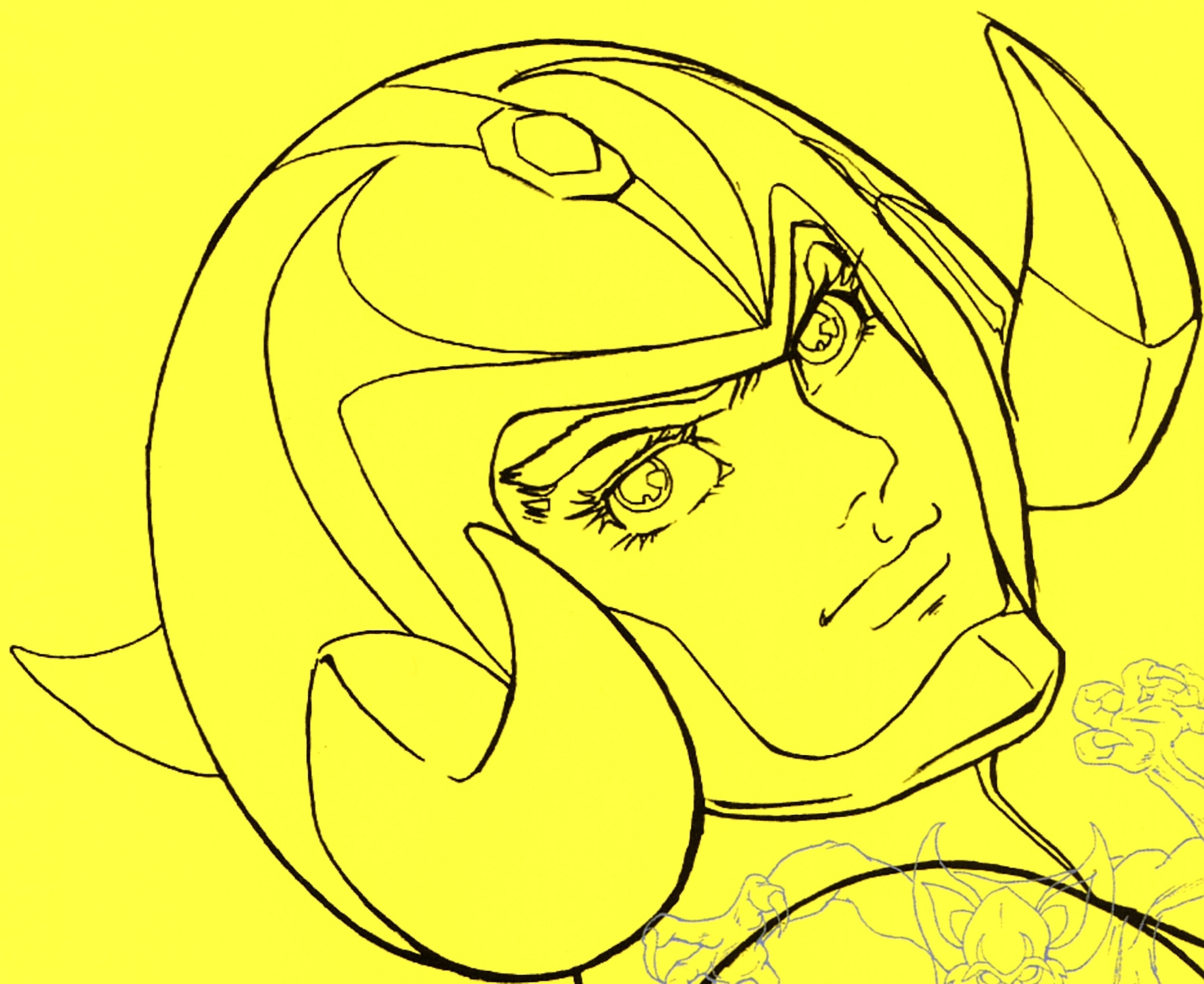
▲95

◀94

破裏拳ポリマー 1974

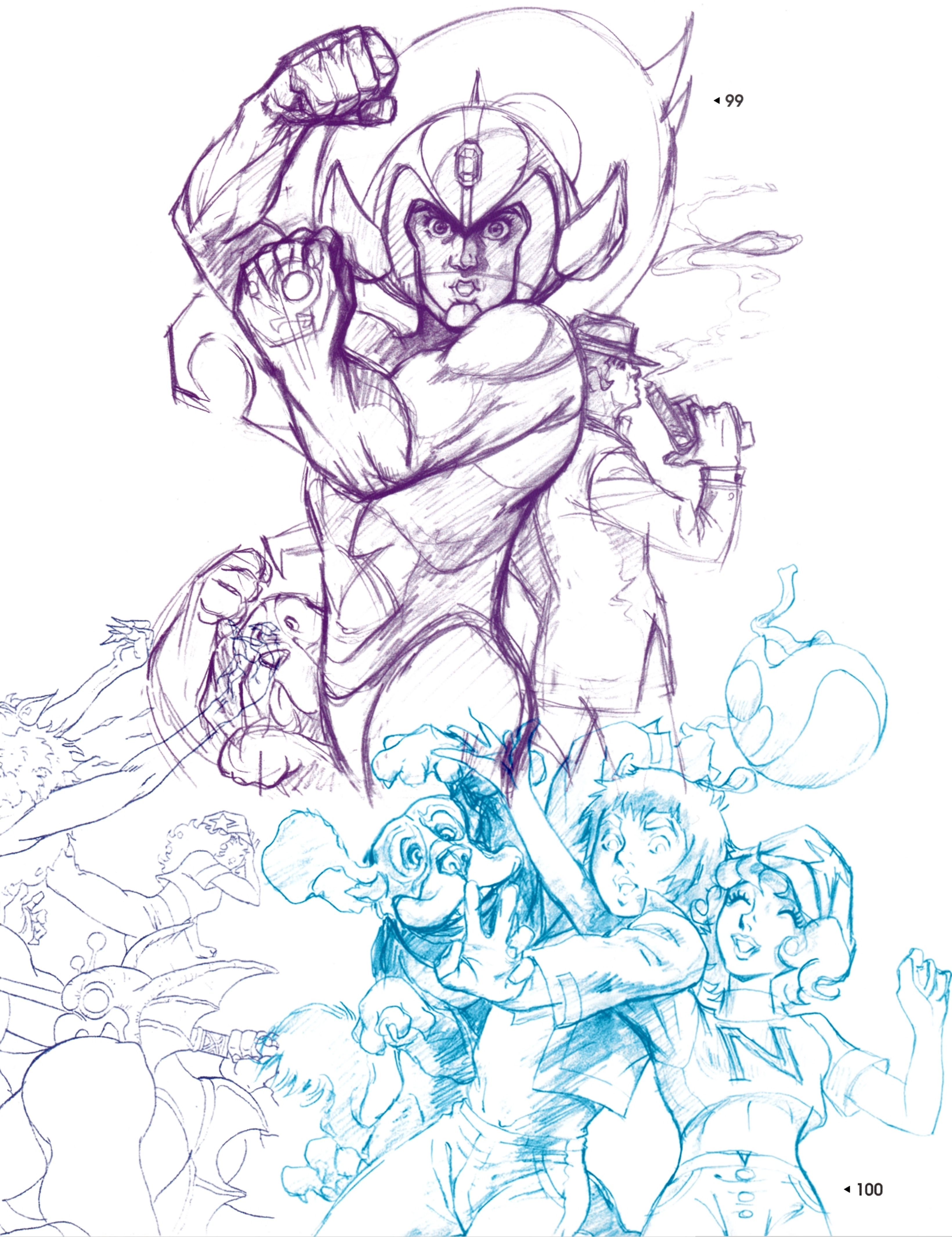


破裏拳 ポリマー



◀ 97

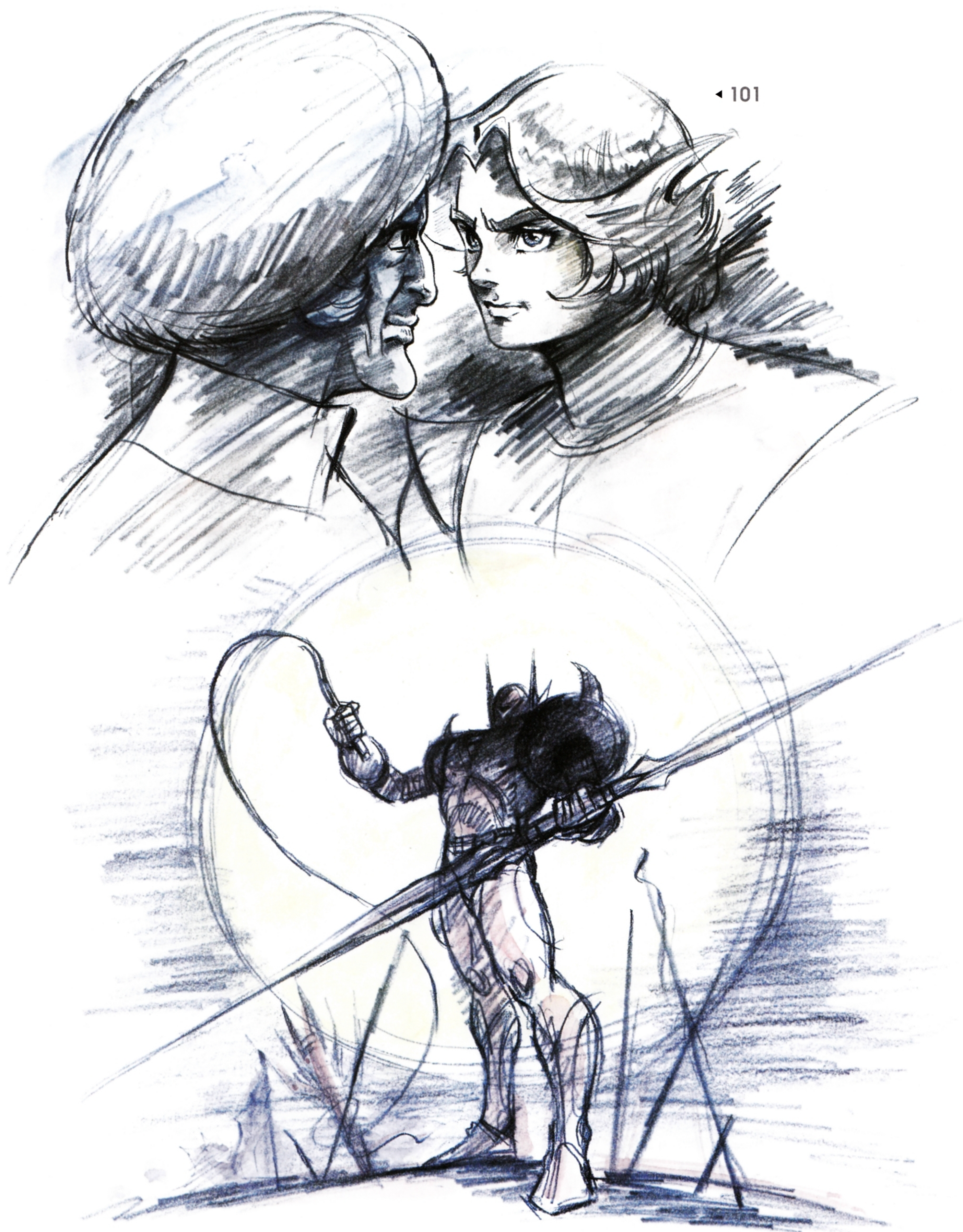
▼ 98



◂ 99

◂ 100

宇宙の騎士テッカマン 1975



◀ 101

▲ 102

103 ▸

▴ 104

▲ 105

106 ▸

IPPEI KUKI
1981

タイムボカン 1975

▲108-b

◀ 109-a

▲ 109-c

▲ 109-b

▲ 110

ポールのミラクル大作戦 1976

◂ 111-a

▴ 111-b

タイムボカンシリーズ ヤッターマン 1977

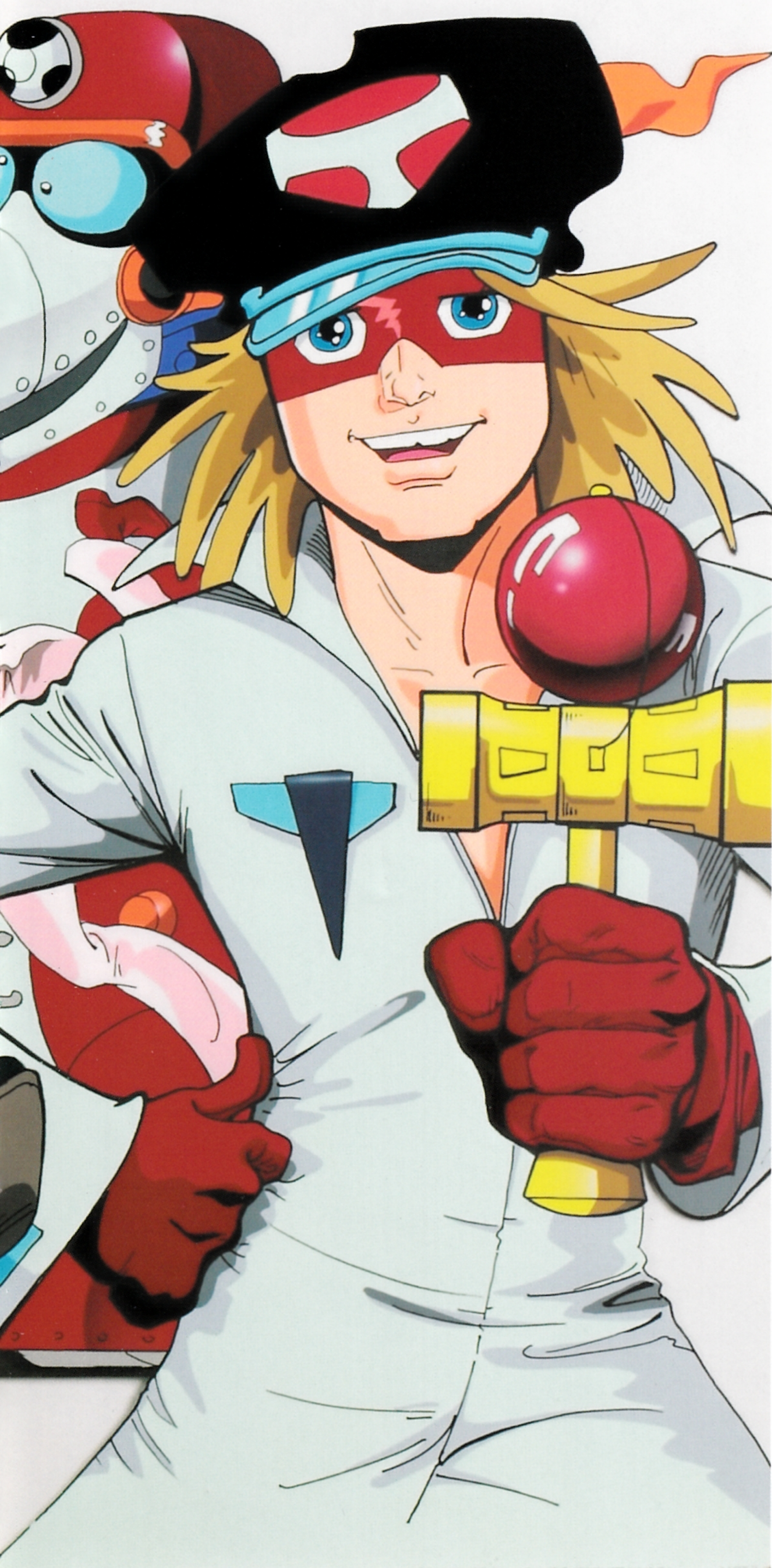
◂ 112

113 ▸

114 ▸

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

98·99



▾ 116

◂ 118

◂ 117

119 ▸

120 ▸

タイムボカンシリーズ ヤッターマン

闘士ゴーディアン 1979

▲121-b

▲ 122

▼ 132

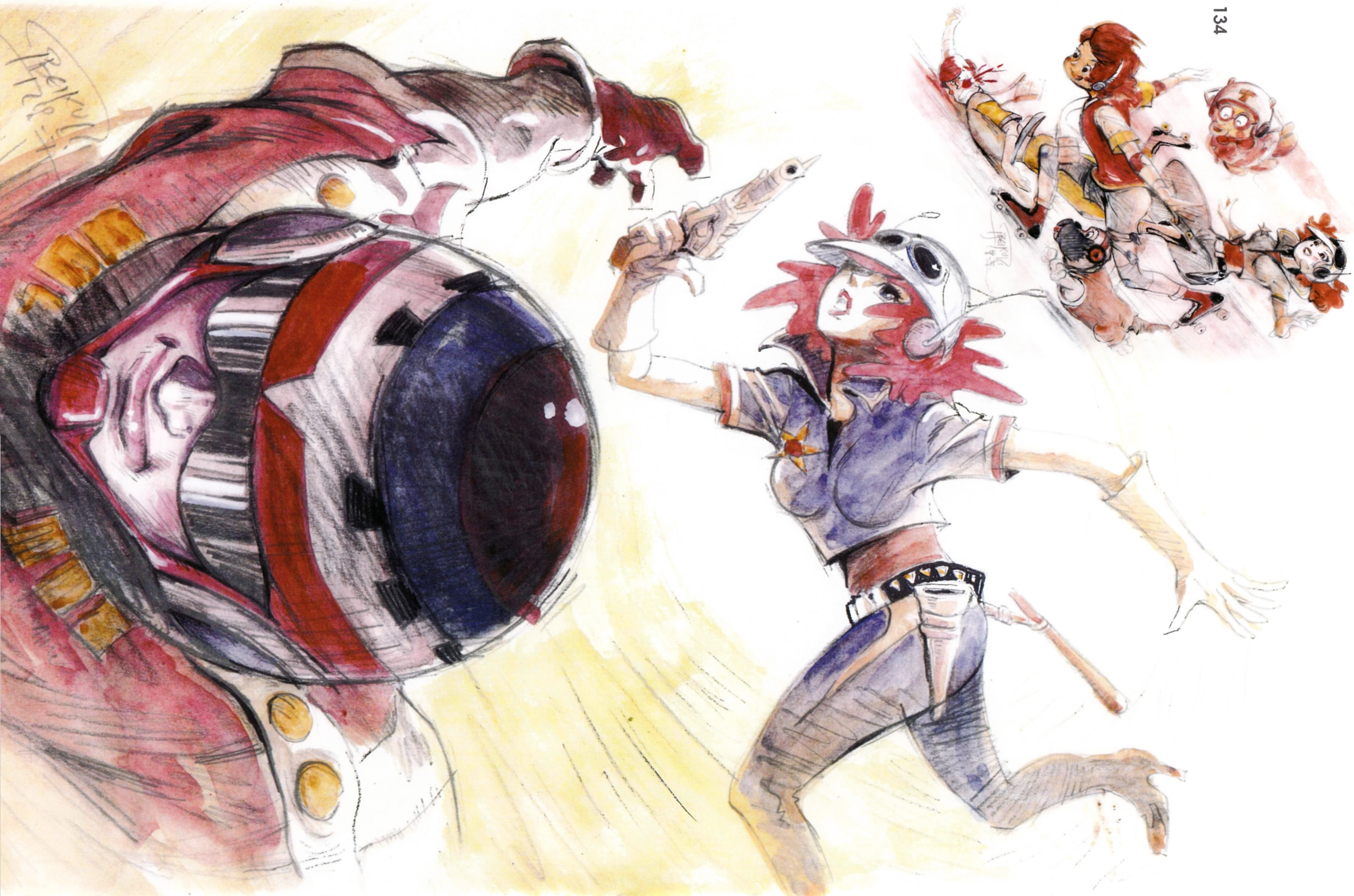
◀ 123-131

森の陽気な小人たち ベルフィーとリルビット 1980

▲133-a

▲ 133-b

とんでも戦士ムテキング 1980

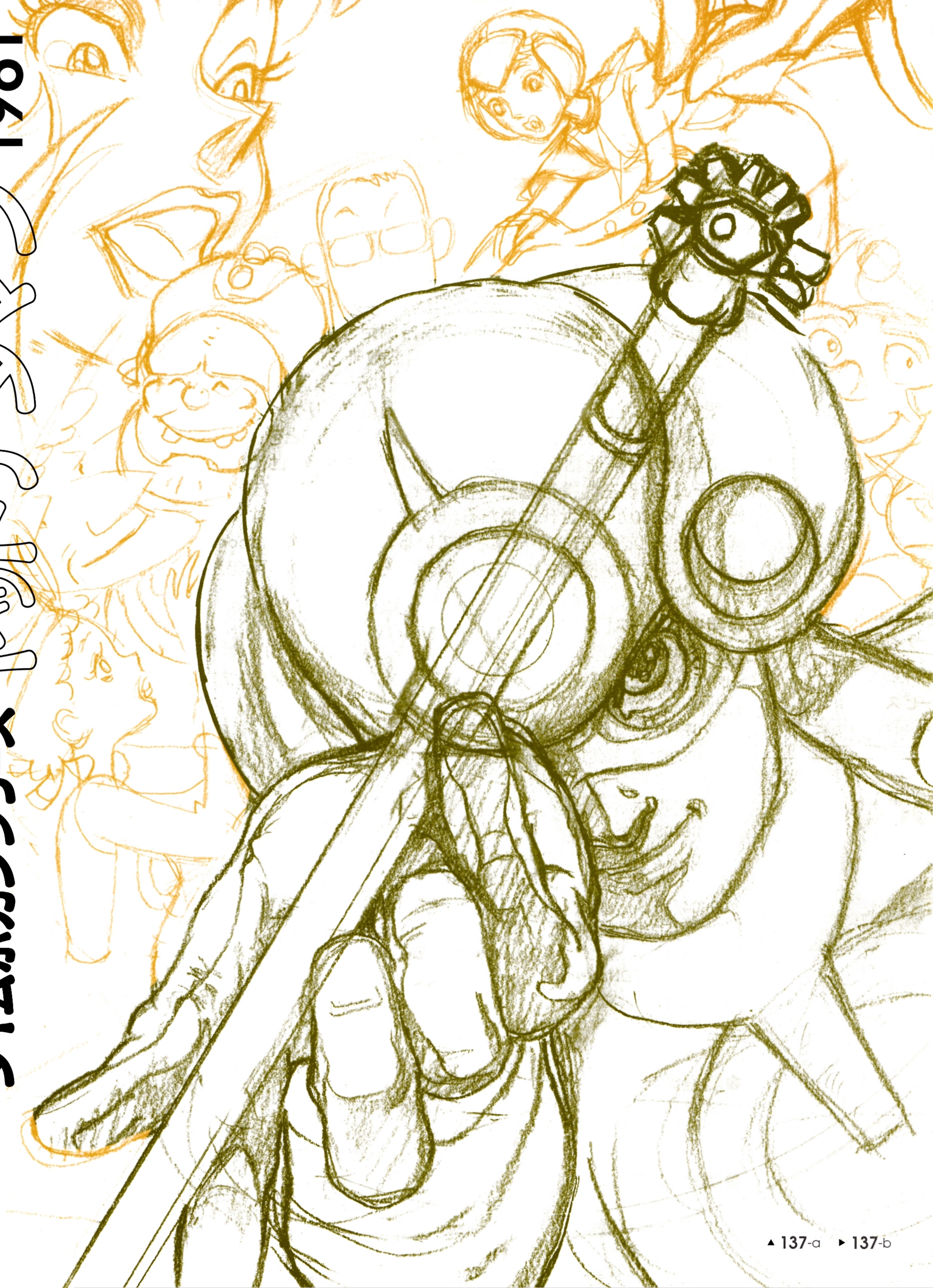


▸ 134

135 ▸

とんでも戦士 ムテキング

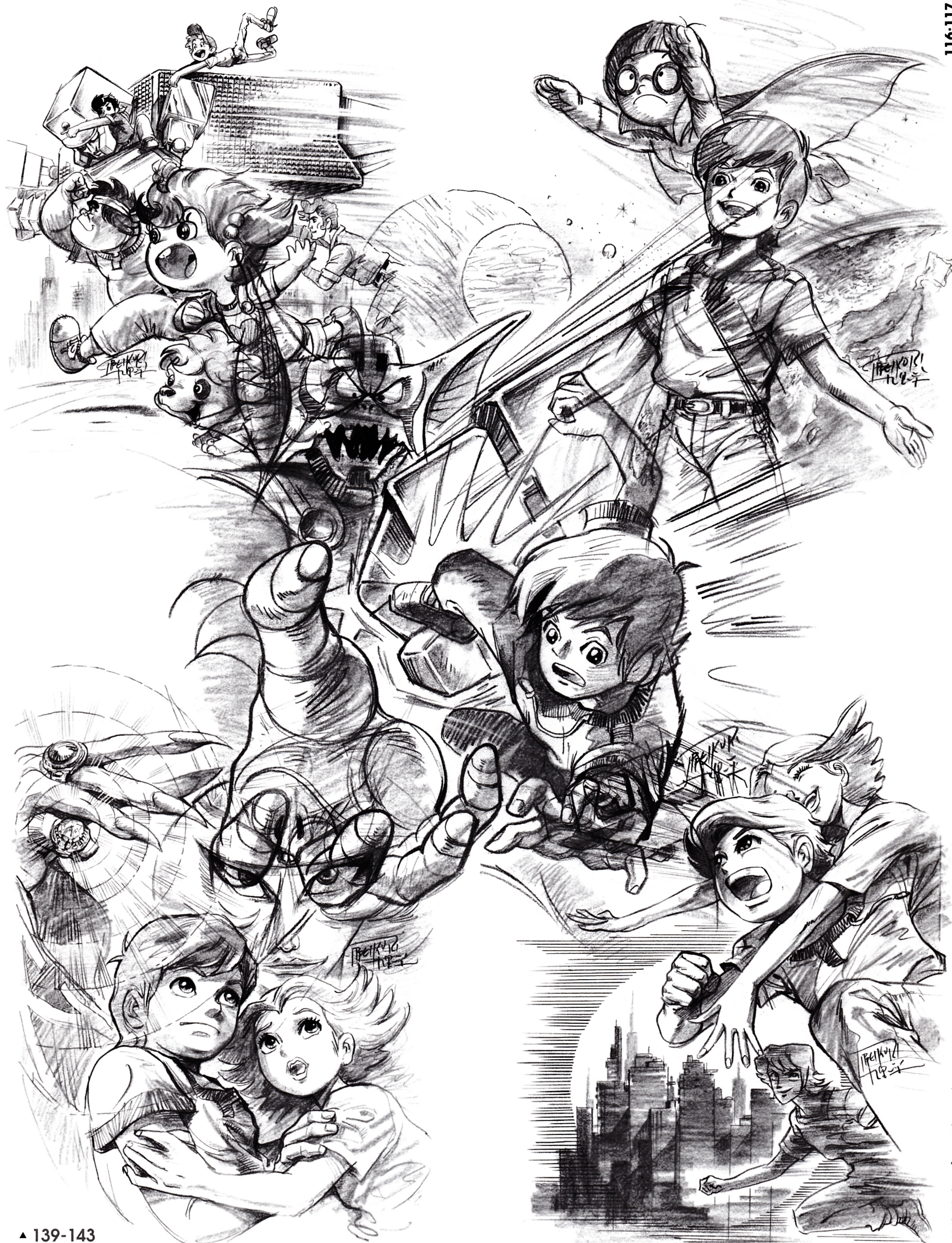
タイムボカンシリーズ ヤットデタマン 1981



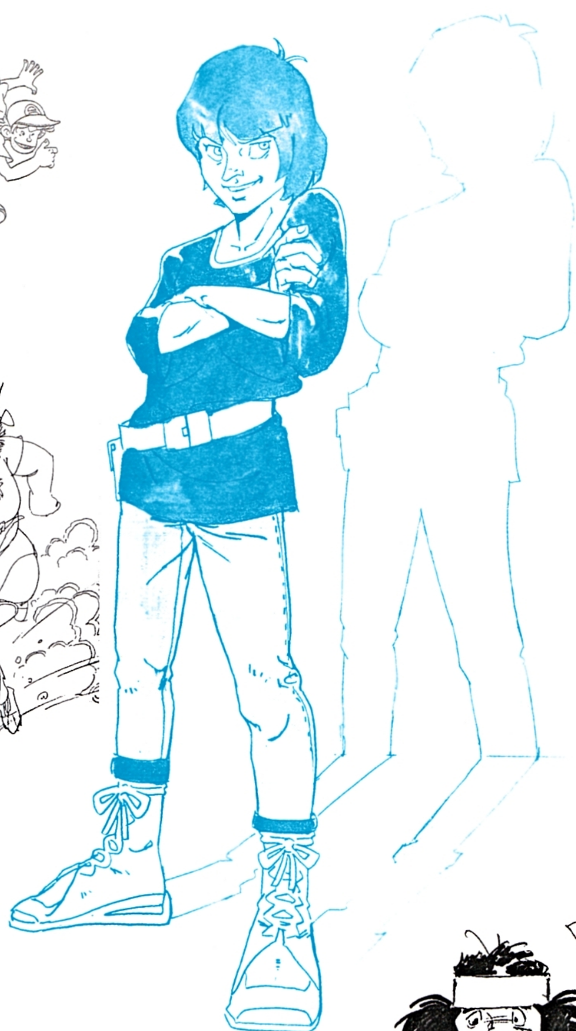
▲ 137-a ▶ 137-b

タイムボカンシリーズ ヤットデタマン

黄金戦士ゴールドライタン 1981

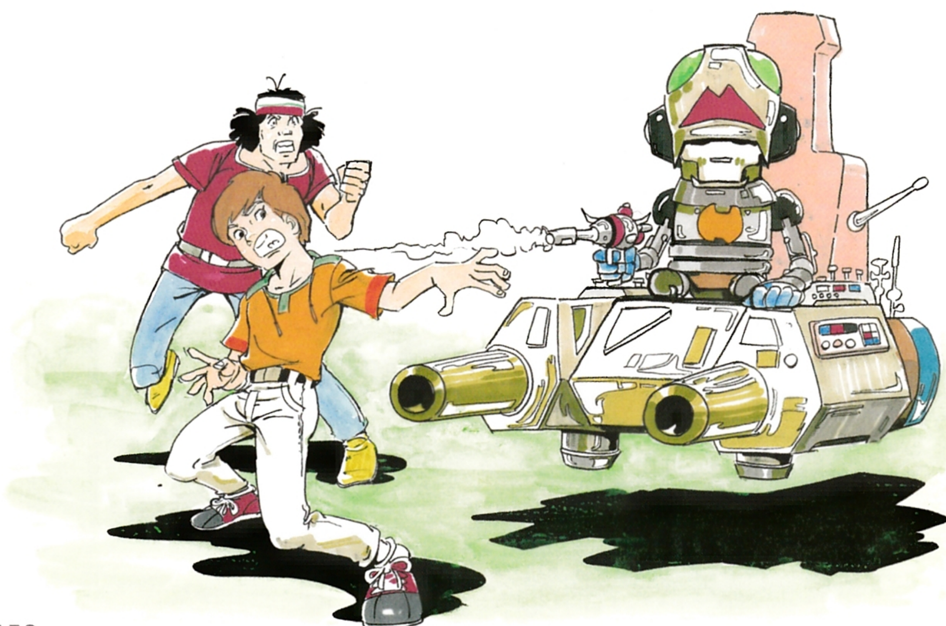


▲ 139-143



▲ 144-148

▲ 149



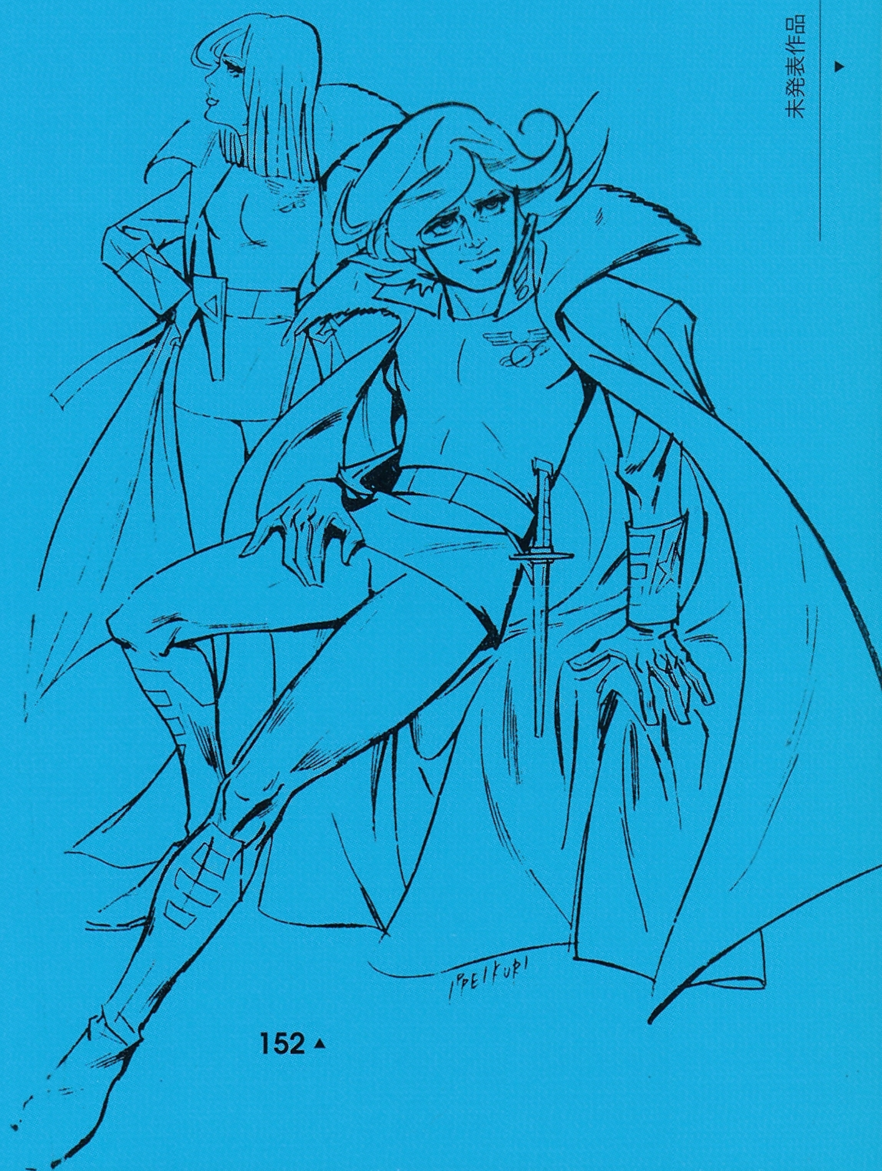
▶ 150

OKAWARI-BOY スターザンS 1984

OKAWARI-BOY スターザンS

未発表作品
キャラクター前夜

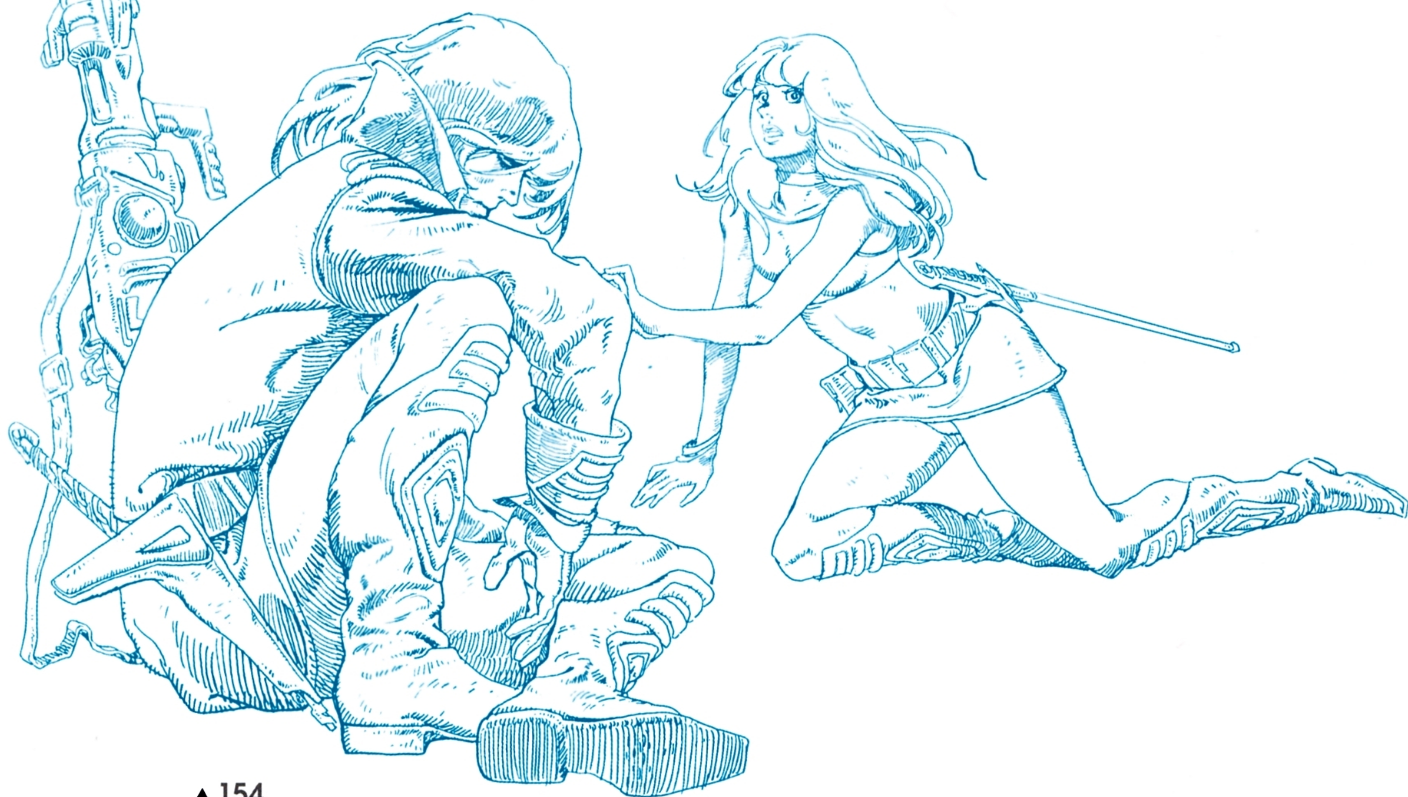
未知のキャラクターは人知れずこの世に生まれる。描き手の、大いなる夢と希望と興奮をもって密やかに生み出されるのだ。キャラクターたちはそれぞれの運命を背負い、物語を紡ぎ出す。
彼らは、漫画として歩き出すときもあれば、やがて紙から飛び出し、アニメーションとなって自由に動き出す者たちもいる。
けれど、同じ情熱の中で生まれながら、運命を背負ったままアトリエの紙の上に留まったキャラクターたちも、数えきれないほどいるのだ。
長い間、描き手の元で温められてきた彼らに、ちょっと登場してもらおうと思う。



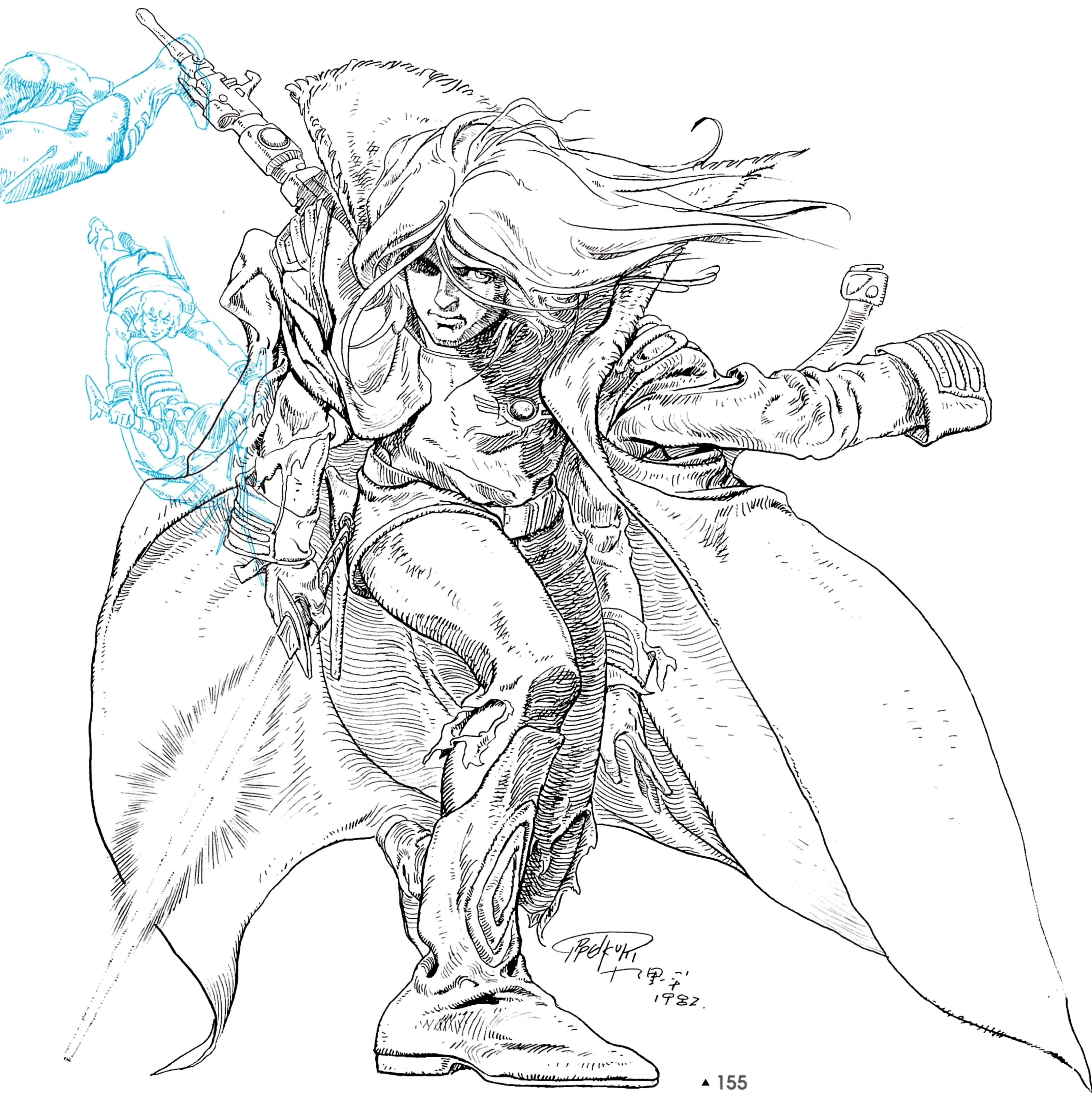
未発表作品 ▼

152▲

▲153



▲154



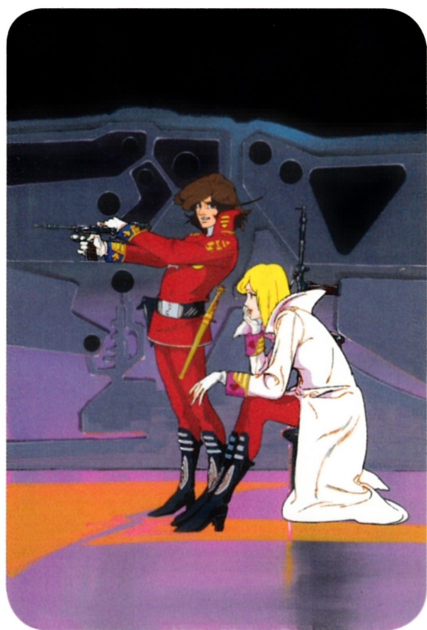
▲155

1982

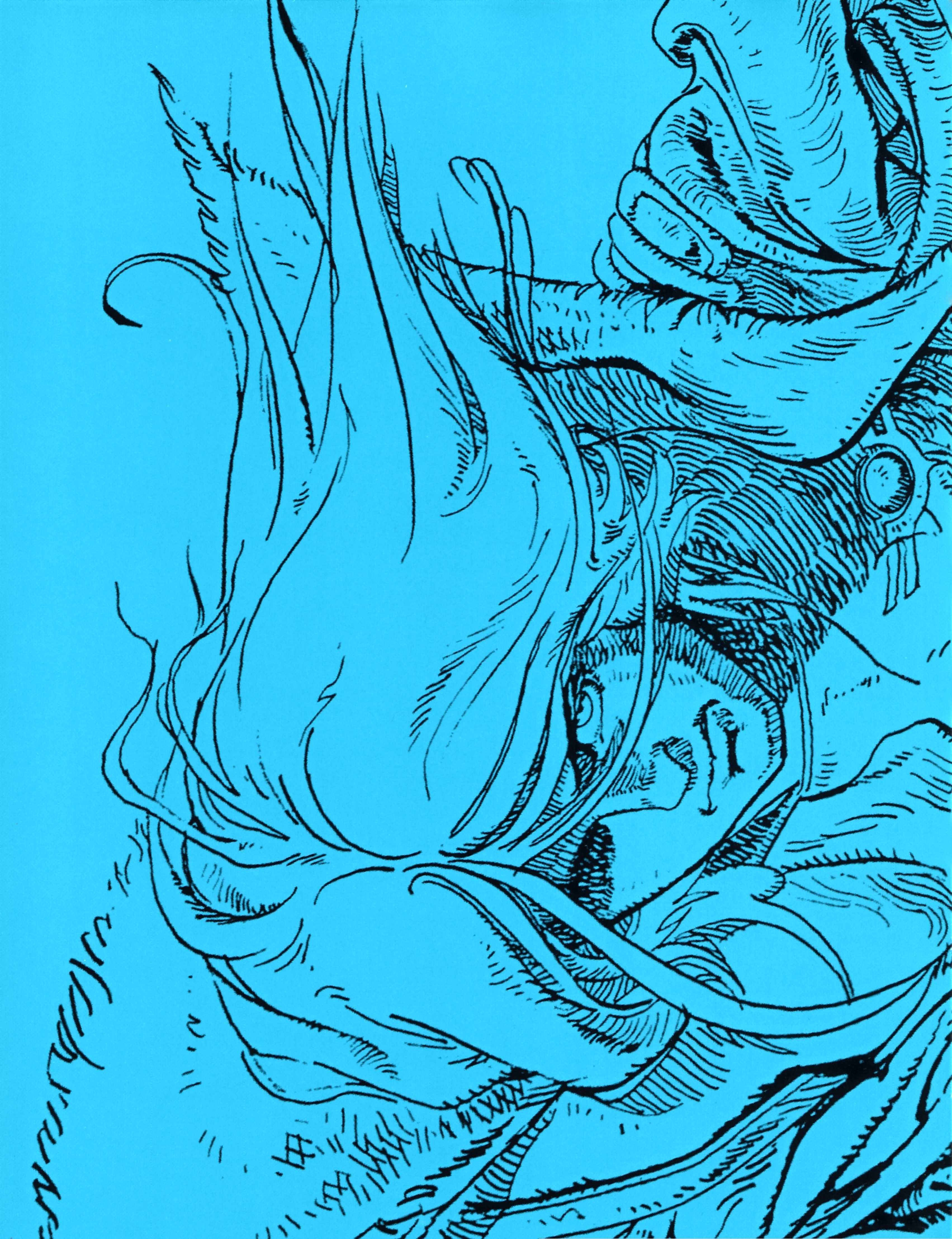
IPPEIKURI
1981

◀ 175

▼ 176



◀ 158-174



神伝説サダメビウス

チャレンジャー

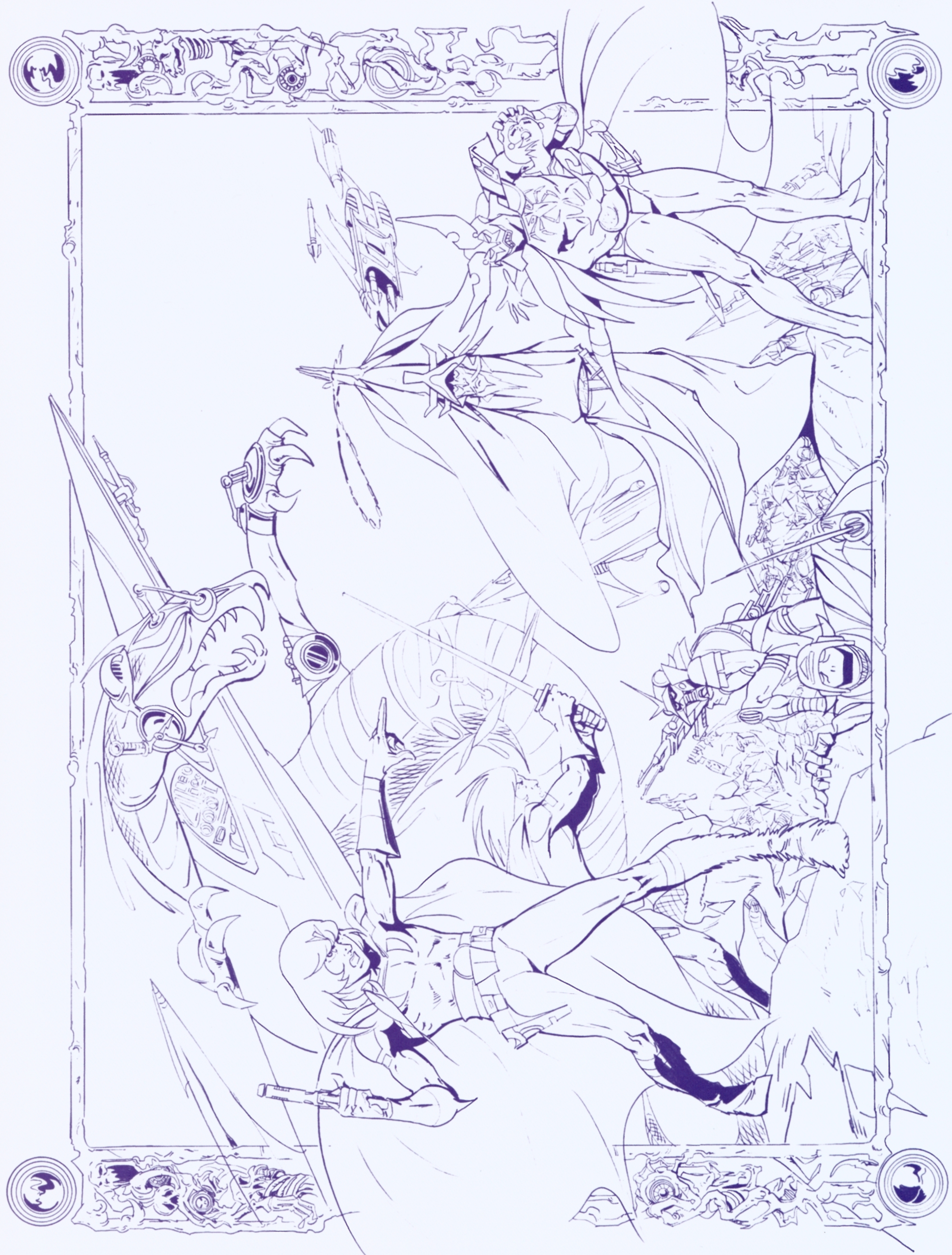
◂ 177

チャレンジャー

IPPEI KURI 1979.

178 ▸

チャレンジャー



IPPEI KURI
九里一平

マイトフィーバー

182 ▸

183 ▴

◂184

◂185

マンタに乗った少年

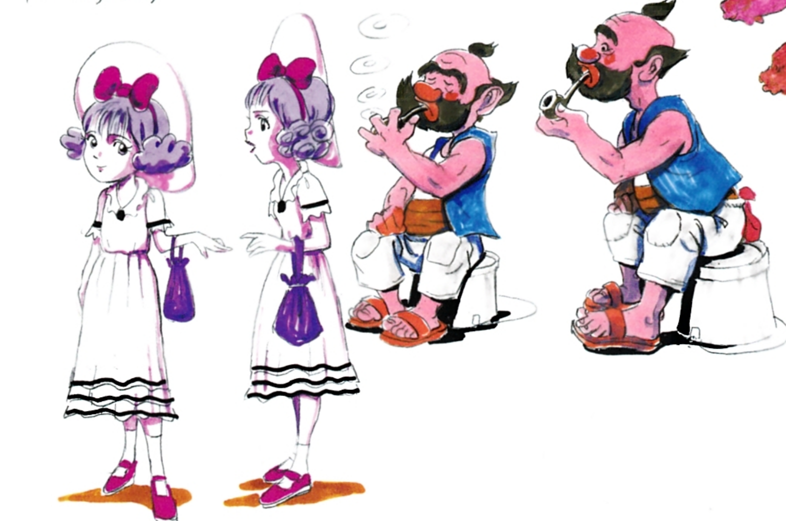
186 ▲

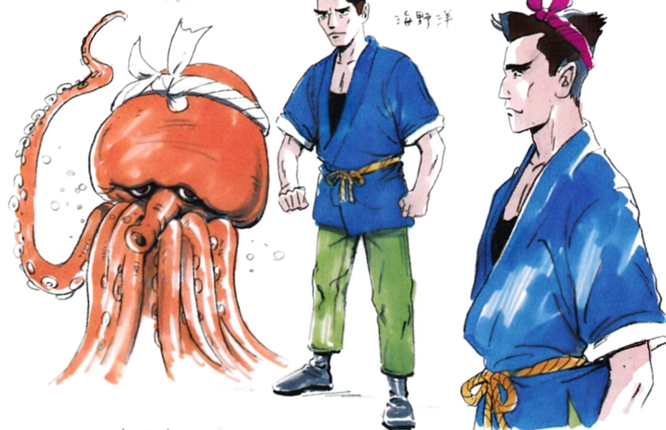
187 ▶

◀ 188

▼ 189

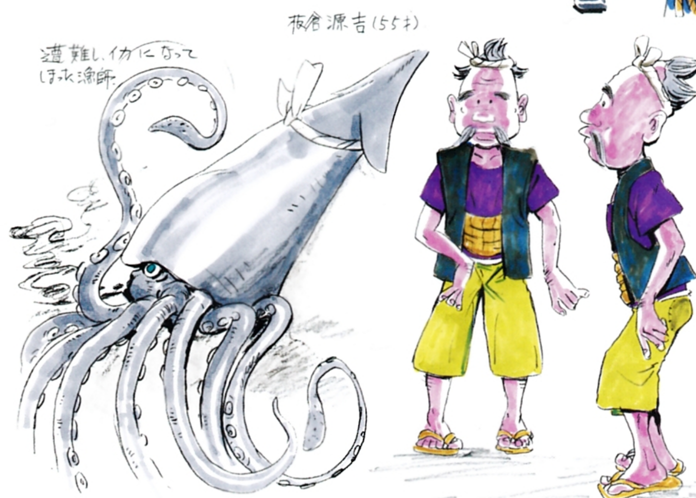
▼ 190





191 ▲

192 ▲



◀ 193

▲ 195

▼ 196

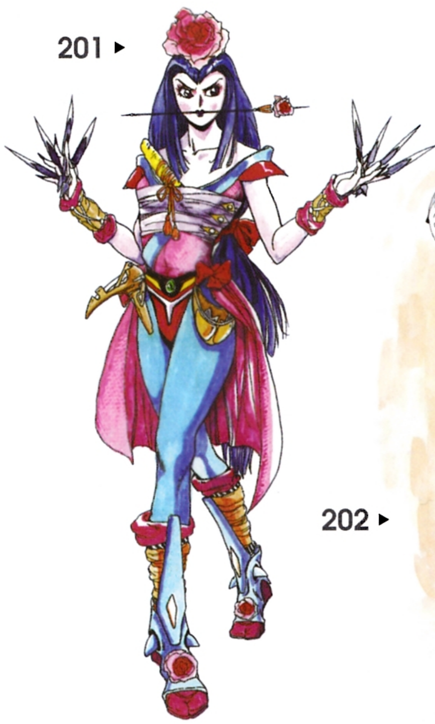
197 ▲

紅拳

199 ▸

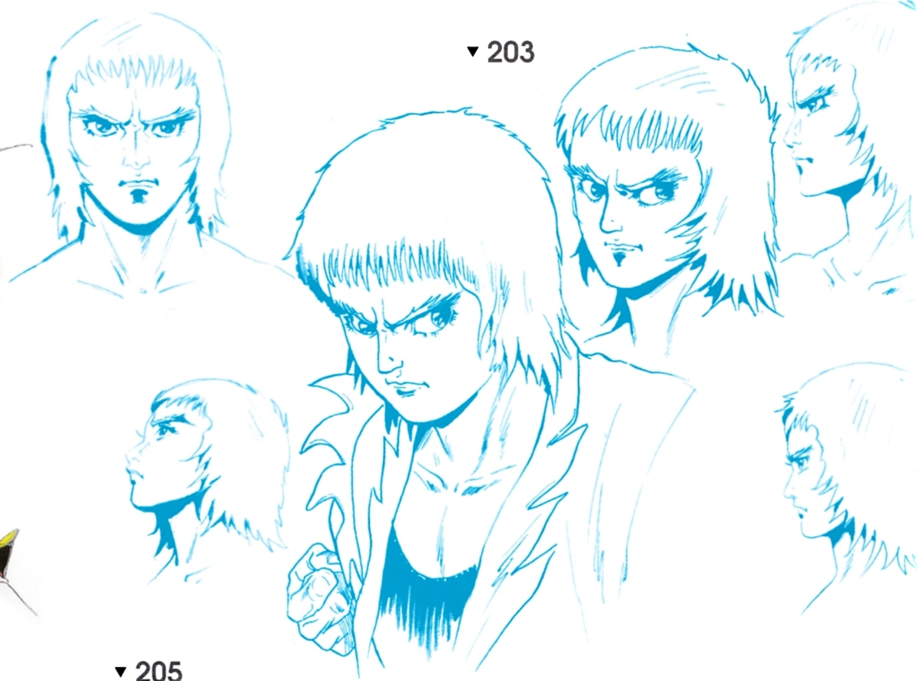
200 ▴

201 ▸

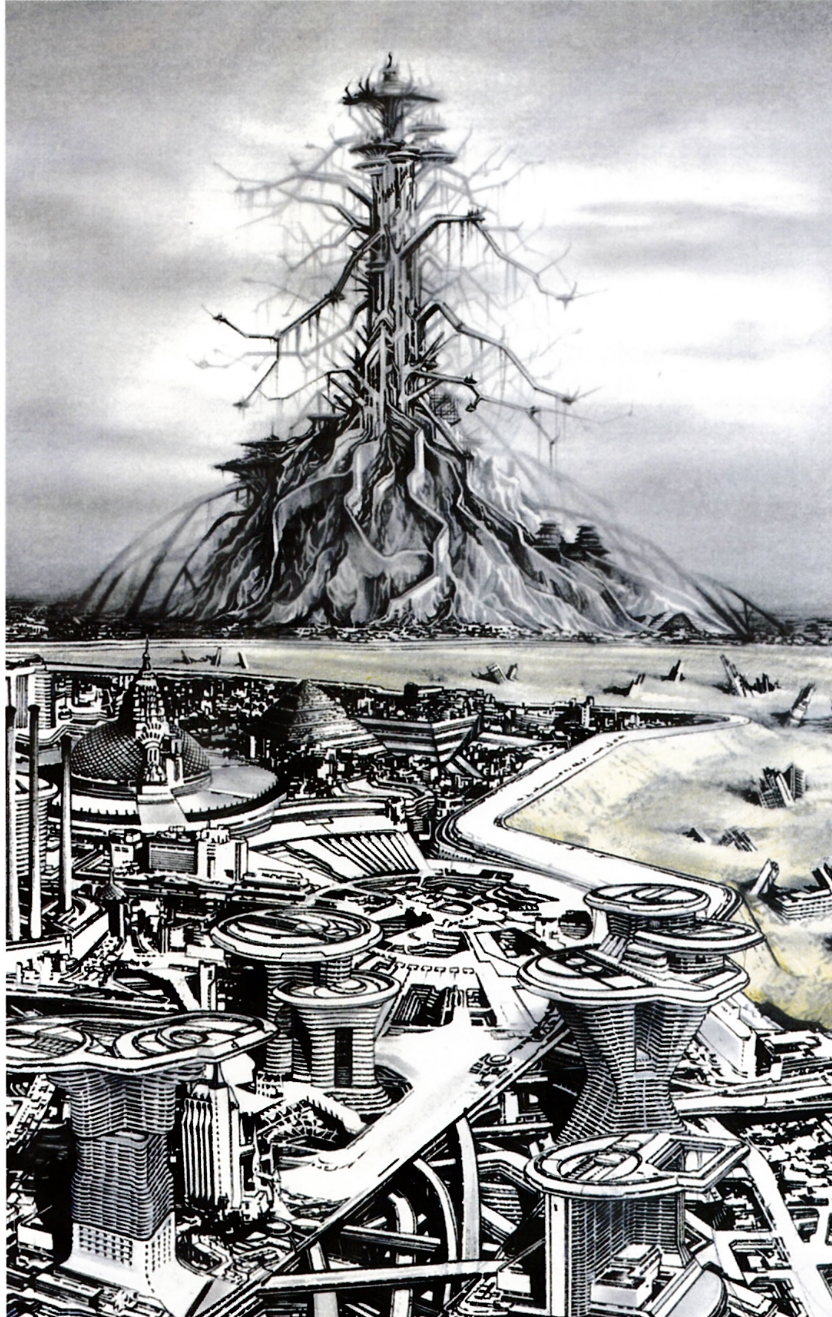


202 ▸

▾ 203



▾ 204



▾ 205

◂ 206

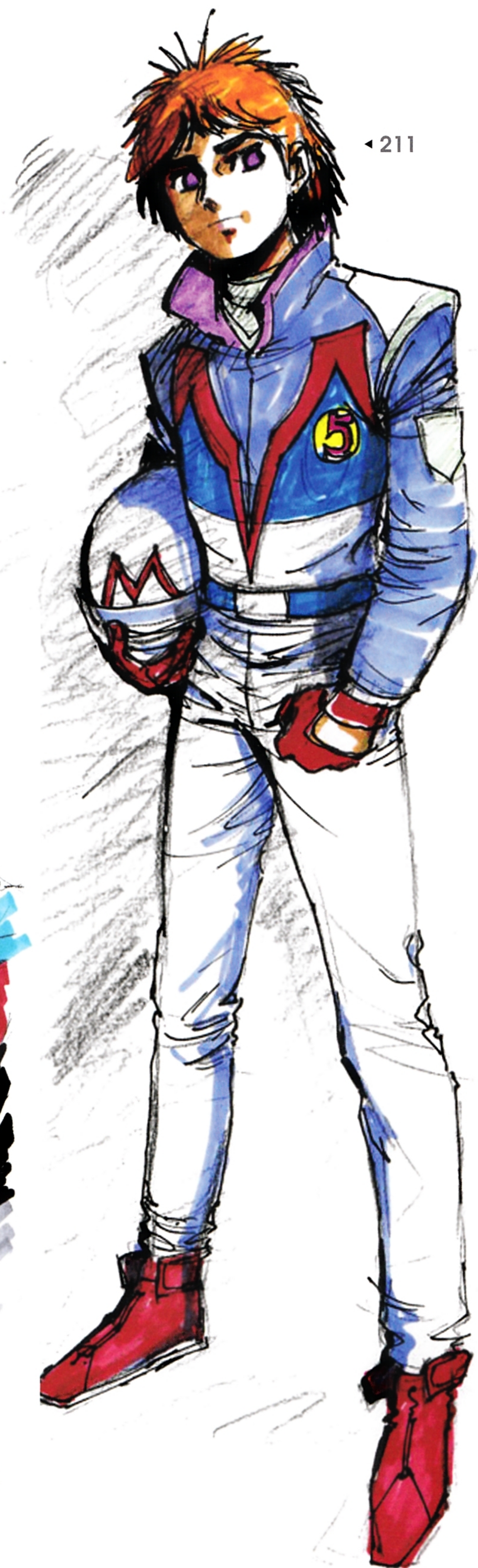
▲207

208▲

▲209

▾ 210

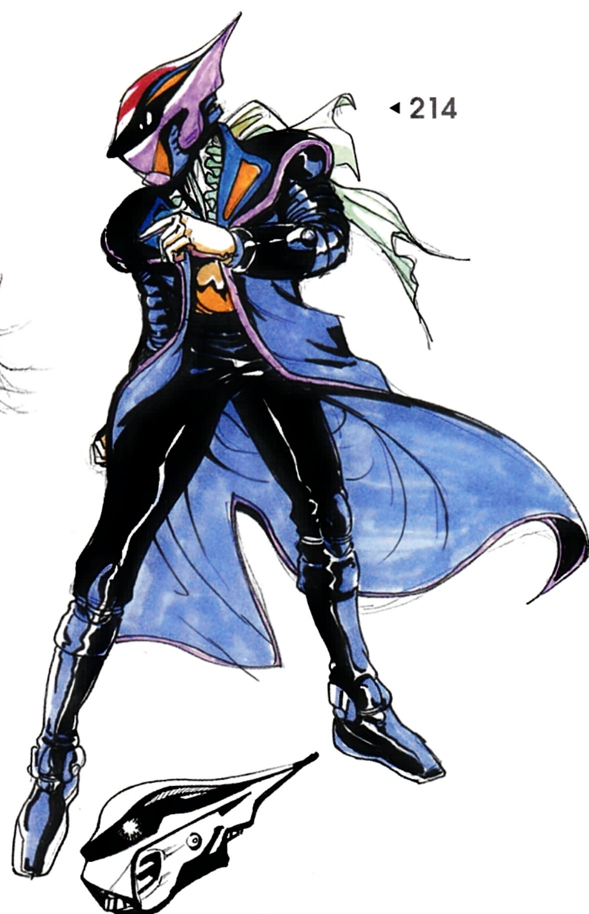
◂ 211



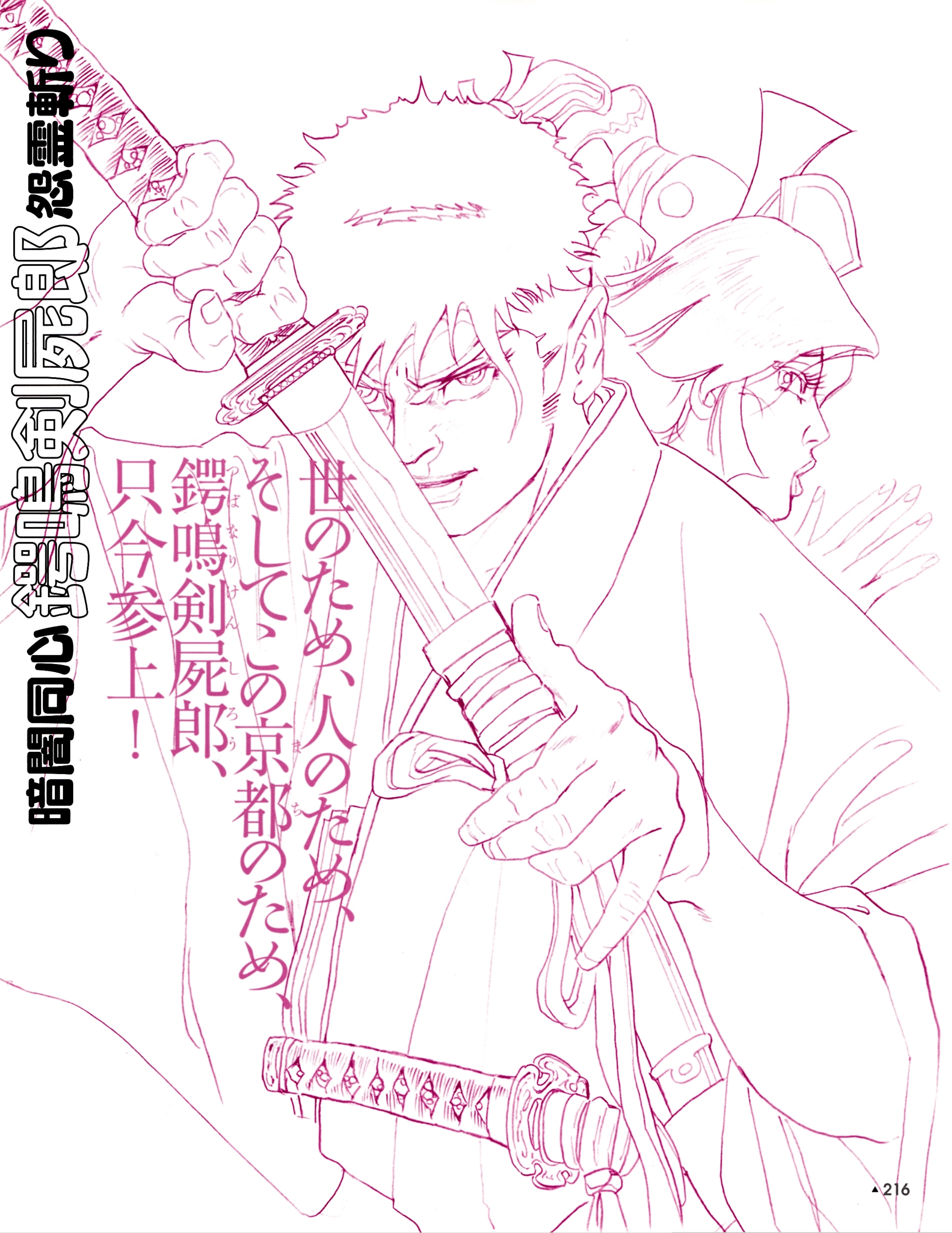
212 ▲

213 ▶

◀ 214



215 ▲


暗闇同心 鍔鳴剣屍郎 怨霊斬り
世のため、人のため、
そして、この京都のため、
鍔鳴剣屍郎、
只今参上！

▲217

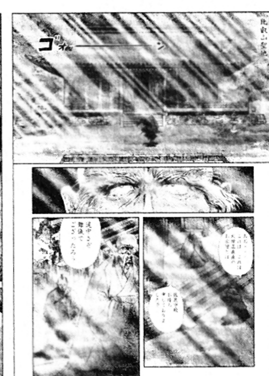
150·151 暗闇同心 鍔鳴剣屍郎 怨霊斬り

あぁっ！！
グギャアアアアア

グエッ!
タァーッ

どこにいる・・・？
母上！・・・

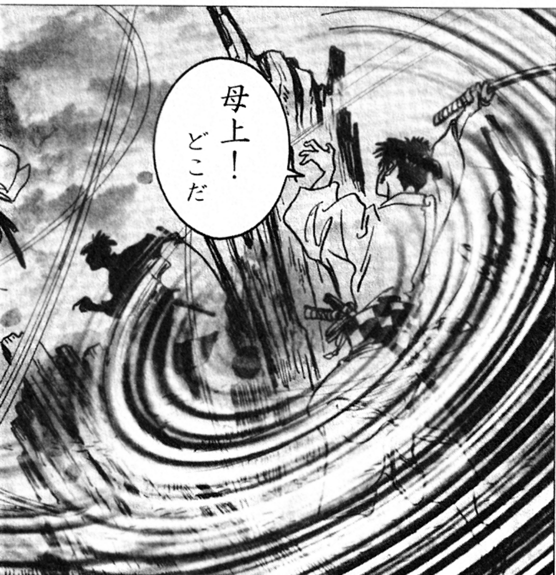
たかッ
除けの彫り物を
はもう冥界には
よき者だ
な
なんと

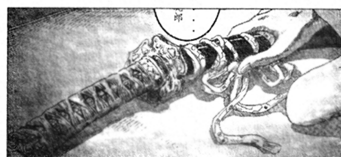


ギエーッ
貴様何奴！？

時は元禄、舞台は京都……。

この世に恨みを遺す悪霊たちが、何者かの手によってつぎつぎとよみがえり、現世に復讐すべく謎の事件を引き起こし、町奉行もほとほと困り果てる……。対策に苦慮した京都所司代の小笠原佐渡守は、隠密裏に比叡山の大僧正の智恵を授かりに行く。大僧正が所司代にひき逢わせたその若者こそ、鍔鳴剣屍郎であった。

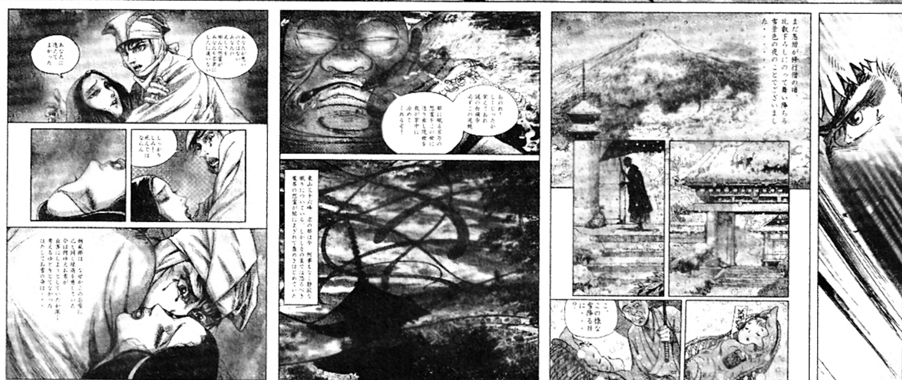




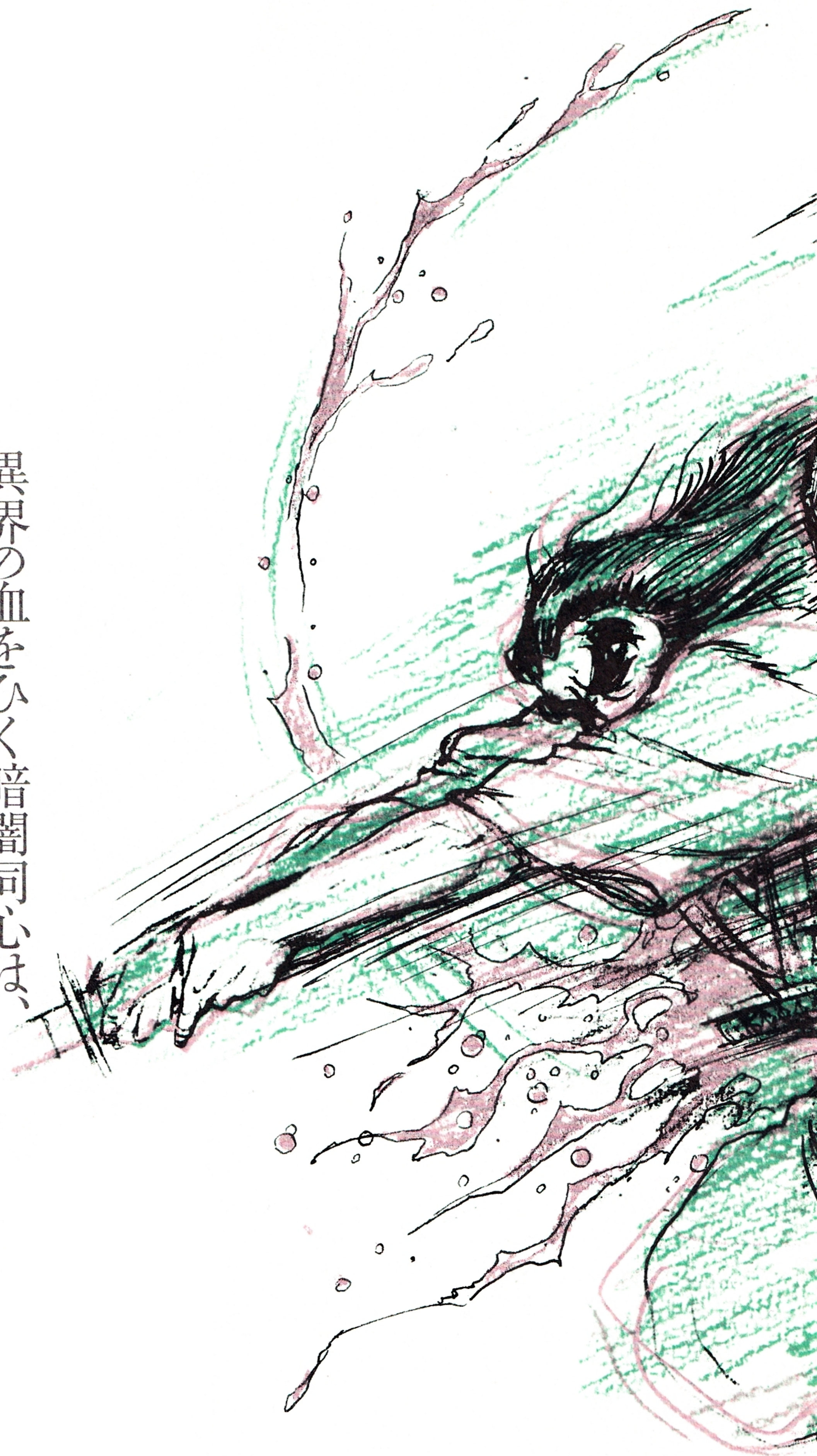
彼を棄てていった母は一体何物か……。

母への思いに
自問自答しながらも、
己に流れる怨霊の血は、
悪霊根絶によってしか洗い流せない。
そう、彼は悪霊を斬るたびに
血の泪を流し続けることになるのだ。
悪霊斬りのために僧から託された刀こそ、
源頼光が鬼の首を刎ねたという妖剣である。
憑依した悪霊に近付くと、
獲物を見つけた獣が舌鼓を打つように
剣はカタカタと鍔鳴りを起こすのである。

怨霊封じの最高峰の山地、比叡山のその寺の山門に、悪霊の子を孕んだ女が棄てていった孤児、それが剣屍郎であった。剣屍郎には悪霊の血が流れており、その血を最大の武器として大僧正に育てられた剣屍郎は、所司代の暗闇同心として、「毒をもって毒を制す」の言葉通り、その一生を全うすることになる。

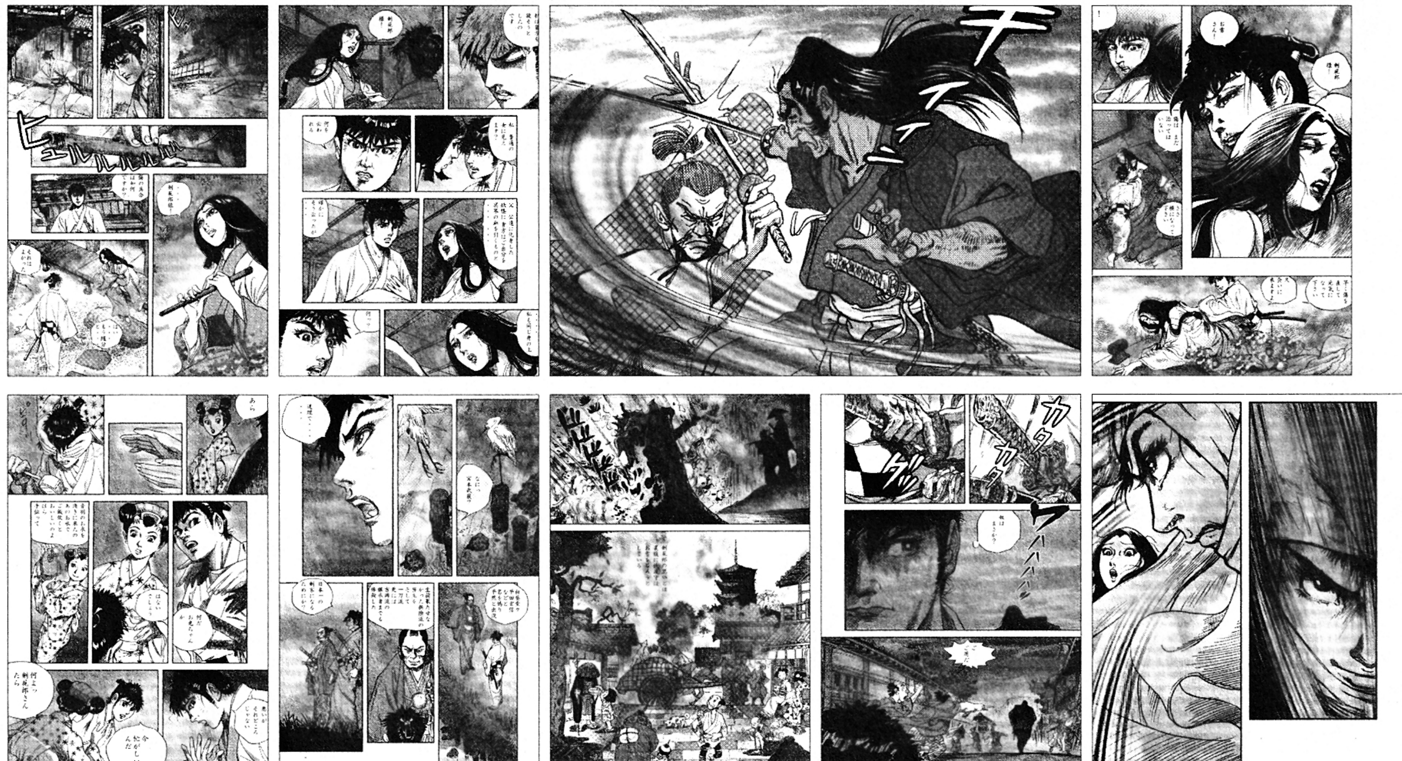


異界の血をひく暗闇同心は、
決して人を愛することを許されない。
彼の前に現れる母の面影にも似た美しい女性。
彼女への秘めた愛と己が背負った宿命との間で、
剣屍郎の心は葛藤する。
人間と怨霊の狭間で、人として生きようとする剣屍郎の、
愛と正義の物語がはじまる。
なんとこの世は儚いことか……。



そんな剣屍郎も恋に心を悩ます。

お前が
暗闇同心かッ
死ね！
パラッ
弓削道鏡
冥界と現世を
繋ぐ冥官なり
その道鏡が
この武蔵に
何用あってかッ
女を助けたければ
ワシを
斃して
みるが
よい
参る！
おのれ
ひきょう
者！
お前を斃せば
ワシは
今度こそ
日本一の
剣客として
歴史に名を
残せる
二天一流
か
この武蔵が
敗れるとは
何かの
間違いだ
ー



グェッ!
タァーッ

妖怪新見武蔵 姿を現わせ この童子切安綱がお前の首を欲しがって・・・・
ふふふ・・・・白頭巾こと暗闇同心よくぞ参った
だがこの武蔵に勝てるかな

怨霊斬り

◂222

ミチキチ
ゴオオオオオ

まてい！その女は殺すな私が許さん！
な何者だ！邪魔立てするやつは

そいつがこの京を騒乱の坩堝に陥れようとしているその内に正体をあばいてやる

心配無用峰打ちだ
パチン

▲223

ドンドン
パッ
いや
近寄らないで
私はあなたを守ると誓ったはず
ン・・・まさか
カタカタ

……そうだな
打ち上げる処観に行きましょうよ！ねえねえ

女は再び左平次の元を訪れる

くたばれ悪霊！

ヒュヒュヒュ

ウオ

▸ 225

▴ 226

▴ 227

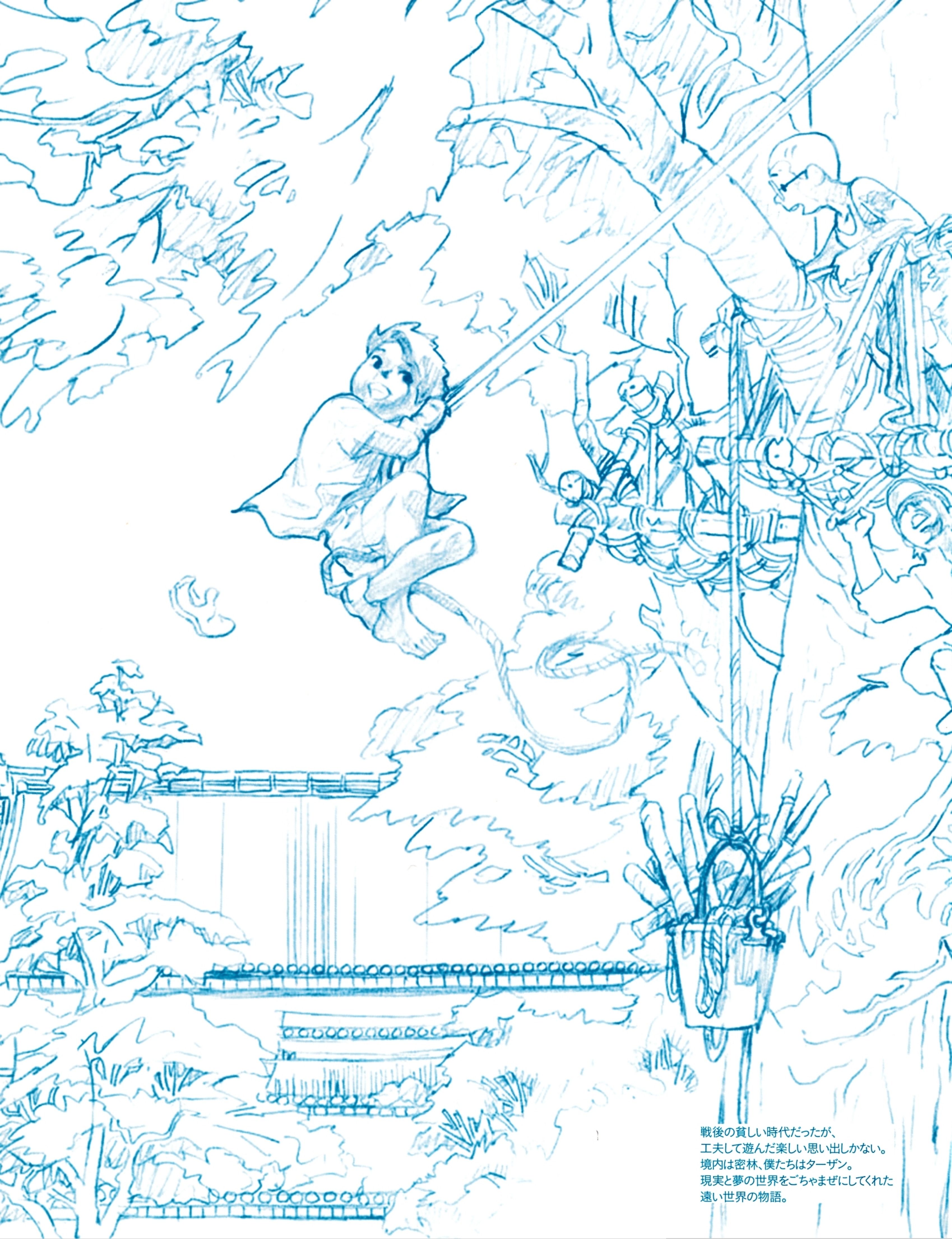
▸228

▸ 229-a

▸ 229-b

暗闇同心 鍔鳴剣屍郎 怨霊斬り

▸231



戦後の貧しい時代だったが、
工夫して遊んだ楽しい思い出しかない。
境内は密林、僕たちはターザン。
現実と夢の世界をごちゃまぜにしてくれた
遠い世界の物語。

僕にとって描くということは

子どものころから、まわりから絵が上手だと言われた。言われていたら、もう下手に描けなくなってしまい、その気になって描いていたら、どんどん上手になっていった。京都は古いお寺や美しい自然が残るところだったので、学校でも写生の時間が多かった。そんなときも、あまり自覚なく描いて、先生に「吉田、うまいな」と言われた。

よく遊ぶお寺では、境内の石にロウ石で落書きしたものだ。あのころは、絵で夢を叶えていた。貧しい時代だったから、ほしいと思ったものを描いては、手に入れた気になっていた。無いものを絵に描く、それは夢のようなことだった。

東寺では、毎月21日に境内で市が開かれる。当時も市はあって、戦後ということもあってか、いろんなものが売られていた。そのなかに米軍が持ち込んだアメリカンコミックがあって、僕は夢中になった。そこには、強くてたくましくて、恰好のいいヒーローたちがいた。今まで見たこともない世界だった。僕は、そんな絵を描きたいと思った。それが画描きを目指すきっかけだ。

それからは、絵を独学で勉強した。アメリカ映画『ターザン』のポスターをペンで忠実に模写した絵が残っている。僕が15歳のときのものだ。骨格や筋肉のつき方、影のつけ方など、描いて描いて身につけた。そして、漫画家を目指して、18歳のときに上京したのだ。それ以来、ずっと描いている。

竜の子プロを引退後、体を壊して入院したことがあった。気持ちがとても沈んだが、心の支えとなったのが、絵を描けるということだった。

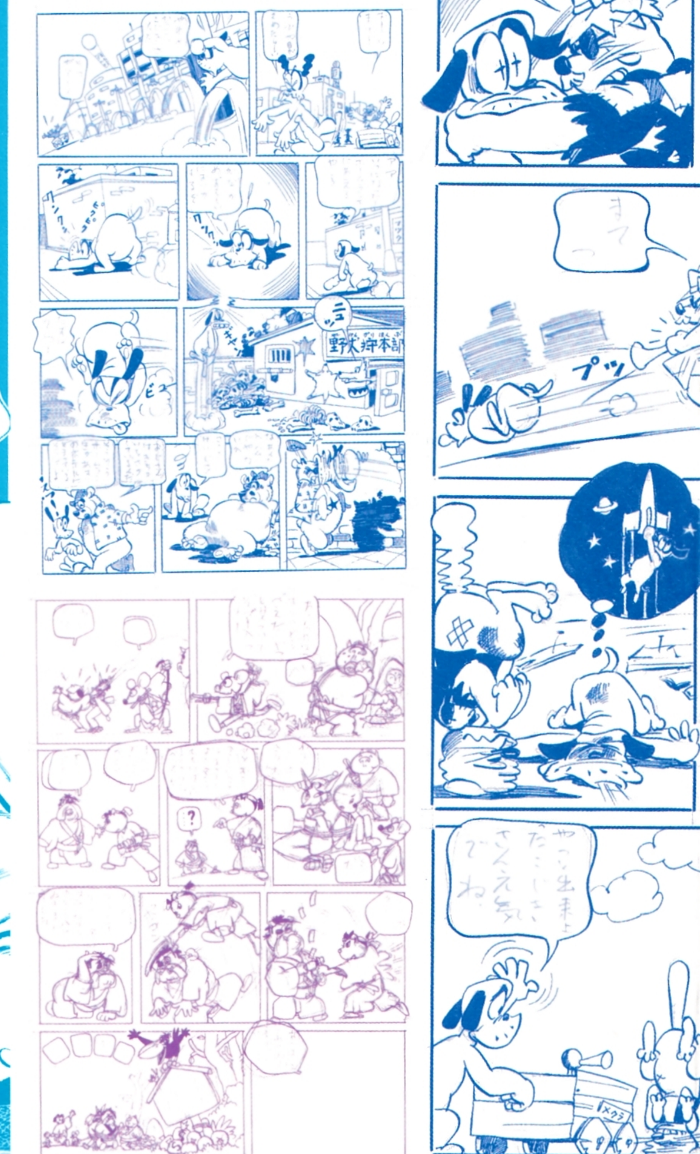
起き上がれるようになったころ、便箋にハッチの絵を描いてみた。手がいうことをきかない。何重にも線を引かないと描けないほどだった。愕然とした。だが、日を追うごとに描けるようになっていった。このとき、自分は絵なんだ、描き続けないとダメなんだと実感した。病室で描いたハッチの絵は、今でも残してある。

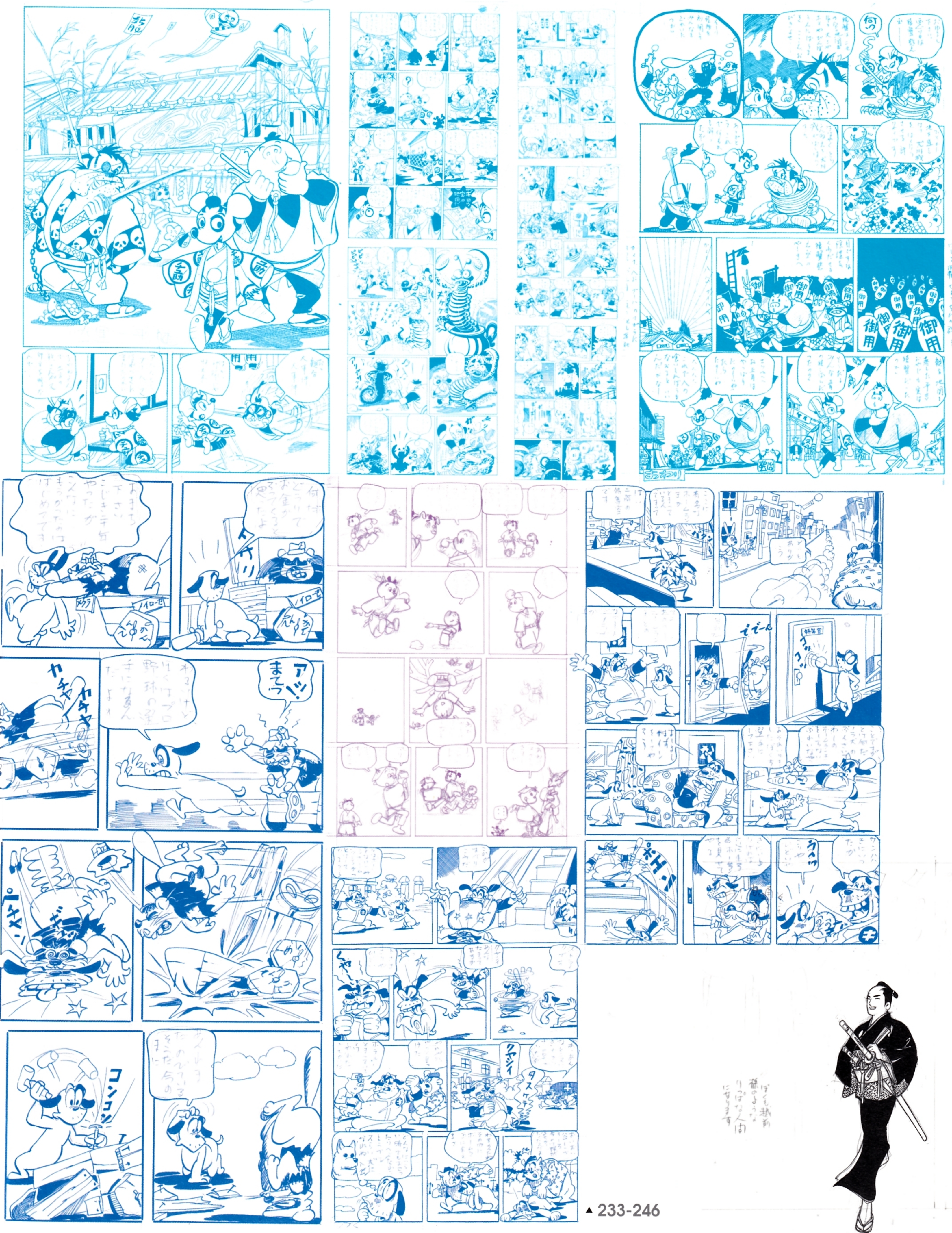
葛飾北斎が臨終を迎えたとき、「天があと5年の間、命保つことを私に許されたなら、必ずやまさに本物といえる画工になり得たであろう」という言葉を残しているが、とても好きな言葉だ。描けるうちに描こう。そう思って、今でも描いている。まだ満足できない。まだやれる。竜の子プロを引退して、今やっと、自由に描き始めた。まだ1年生みたいなものだ。僕はずっと現役でいたいと思っている。

アメコミに夢中になった少年時代。
『京の夢、明日の思い出』
（講談社、2004）より

15歳のときに写真を模写した
ターザンの絵（1955年）。
細部まで丁寧に描き込んでいる。

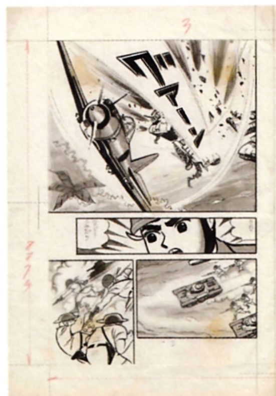
▶「ハリケーンGメン」(原作：梶原一騎)、『冒険王』(秋田書店)連載時の特集ページ。

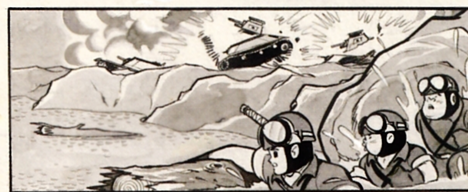


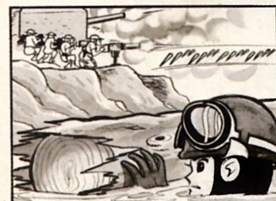


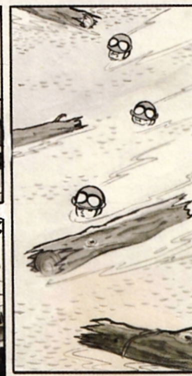
▲233-246

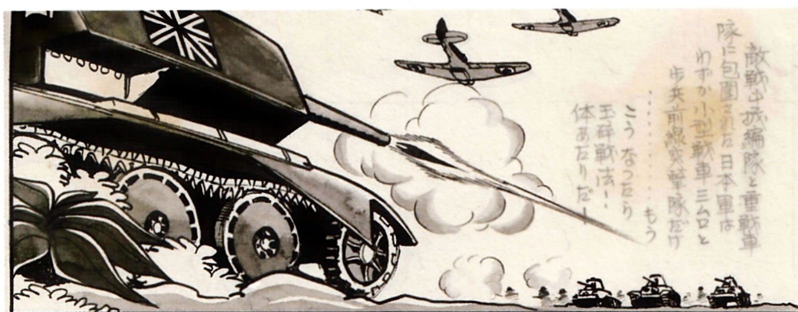
だいひょうばん
大評判!!
ねっけつはやぶさせんとうたい
熱血隼戦闘隊
くりいっぺい
九里一平

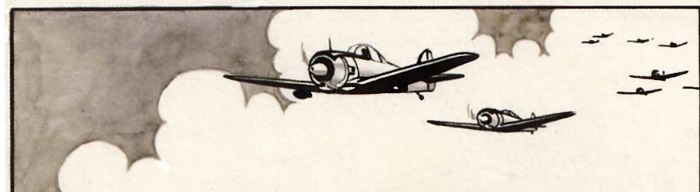


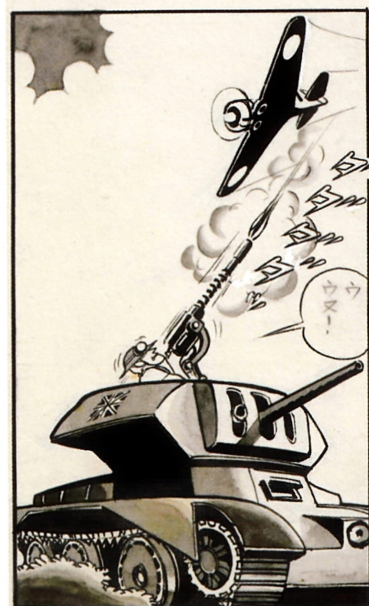




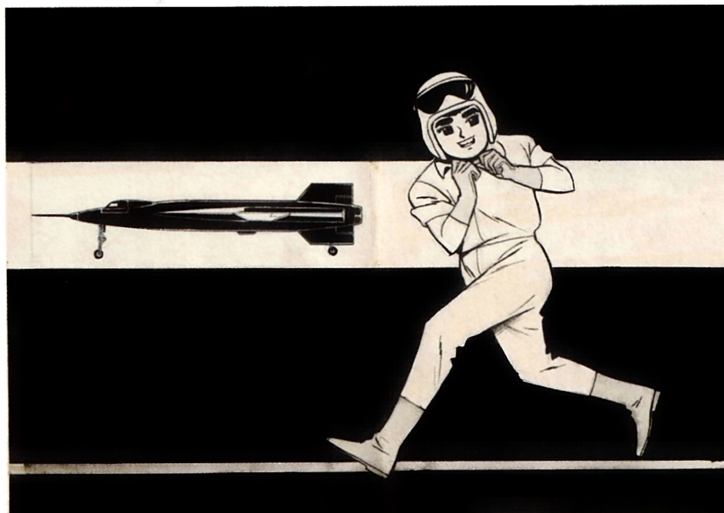


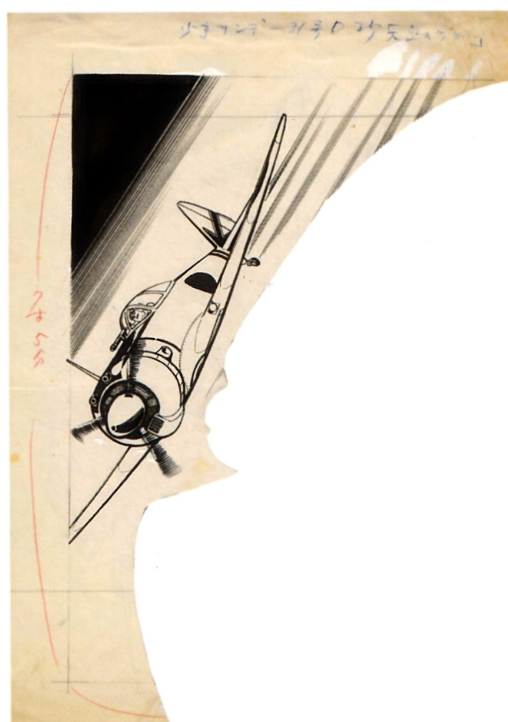

敵戦斗機編隊と重戦車隊に包囲された日本軍はわずか小型戦車三台と歩兵前線突撃隊だけ
……もう
こうなったら玉砕戦法!! 体あたりだ!




ウヌー

おっ 加藤隼戦斗隊!!

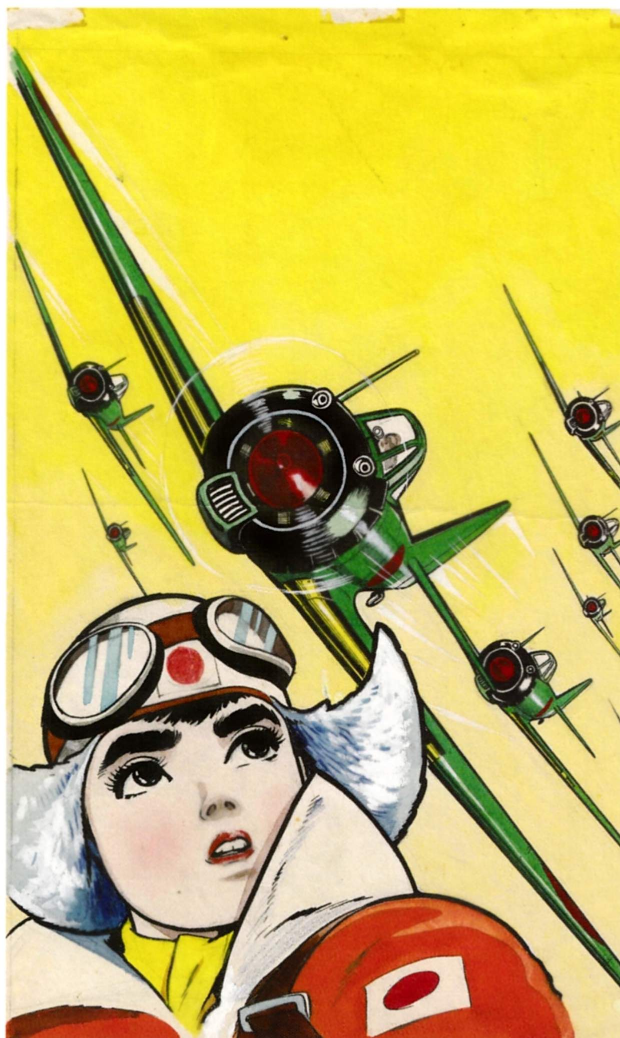




▲ 247-253

▸254

▸ 255-274



海底人8823
アラーの使者
ハリケーンGメン
ジュードー・ボーイ
指令000
弾丸児
少年スピード王
白虎戦車隊
海底人8823
海洋少年隊
アラーの使者
弾丸児
少年エース
大空のちかい
ジュードー・ボーイ
指令000
海洋少年隊
ジュードー・ボーイ
少年スピード王
少年鉄仮面
指令000
ジュードー・ボーイ
ジュードー・ボーイ
指令000
白虎戦車隊
海底人8823
海洋少年隊
ジュードー・ボーイ
白虎戦車隊
少年スピード王
テスターZ
マレー白虎隊
ハリケーンGメン
少年鉄仮面
ジュードー・ボーイ
海底人8823
マレー白虎隊
アローエース
HURRICANE G-MEN
ハリケーンGメン
海洋少年隊
海底人8823
ジュードー・ボーイ
白虎戦車隊
アラーの使者
海洋少年隊
ジュードー・ボーイ
少年ライフル部隊
海洋少年隊
海底人8823
ミサイル金太郎
全国で大評判の痛快スパイまんがです
九里一平
指令0
海底人8823
ミサイル金太郎
白虎戦車隊
九里一平
白虎戦車隊
ジュードー・ボーイ
ハリケーンGメン

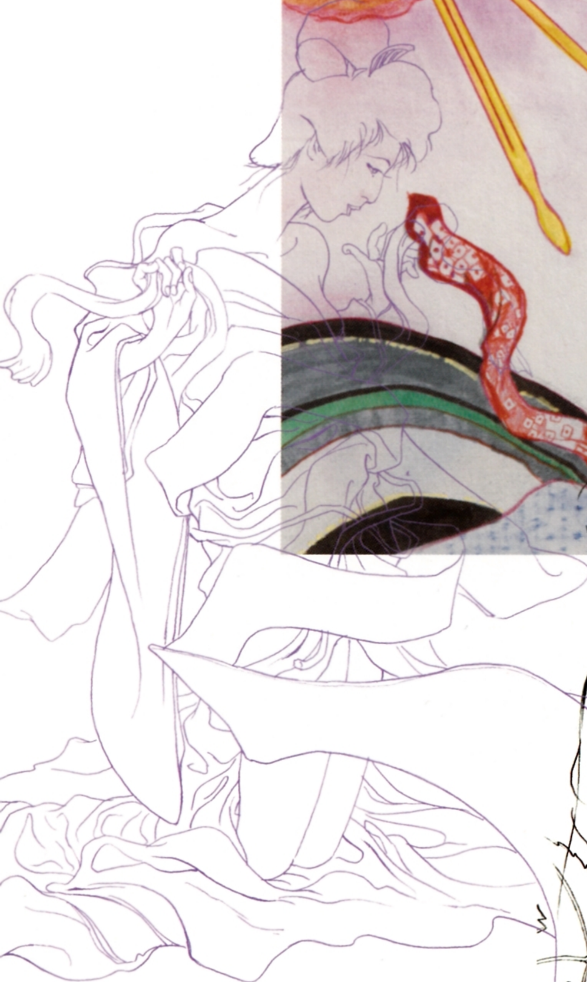
◂ 275-336

描いても、描いても…

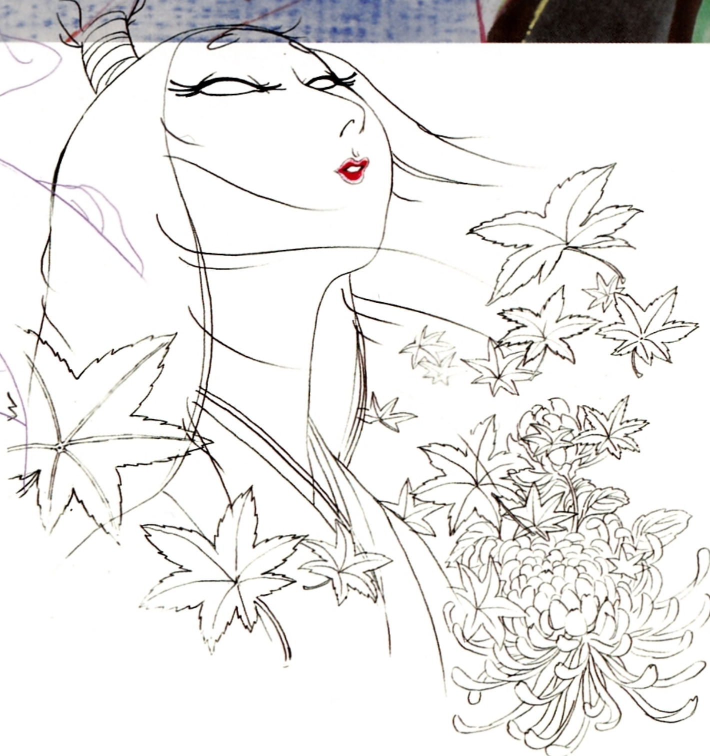
▲337-a

▶337-b

▼ 338



▲ 339-a



◀ 340

◂ 341

◂ 339-b

▾ 342

▴ 344

▴ 343

▲ 346

◂ 345

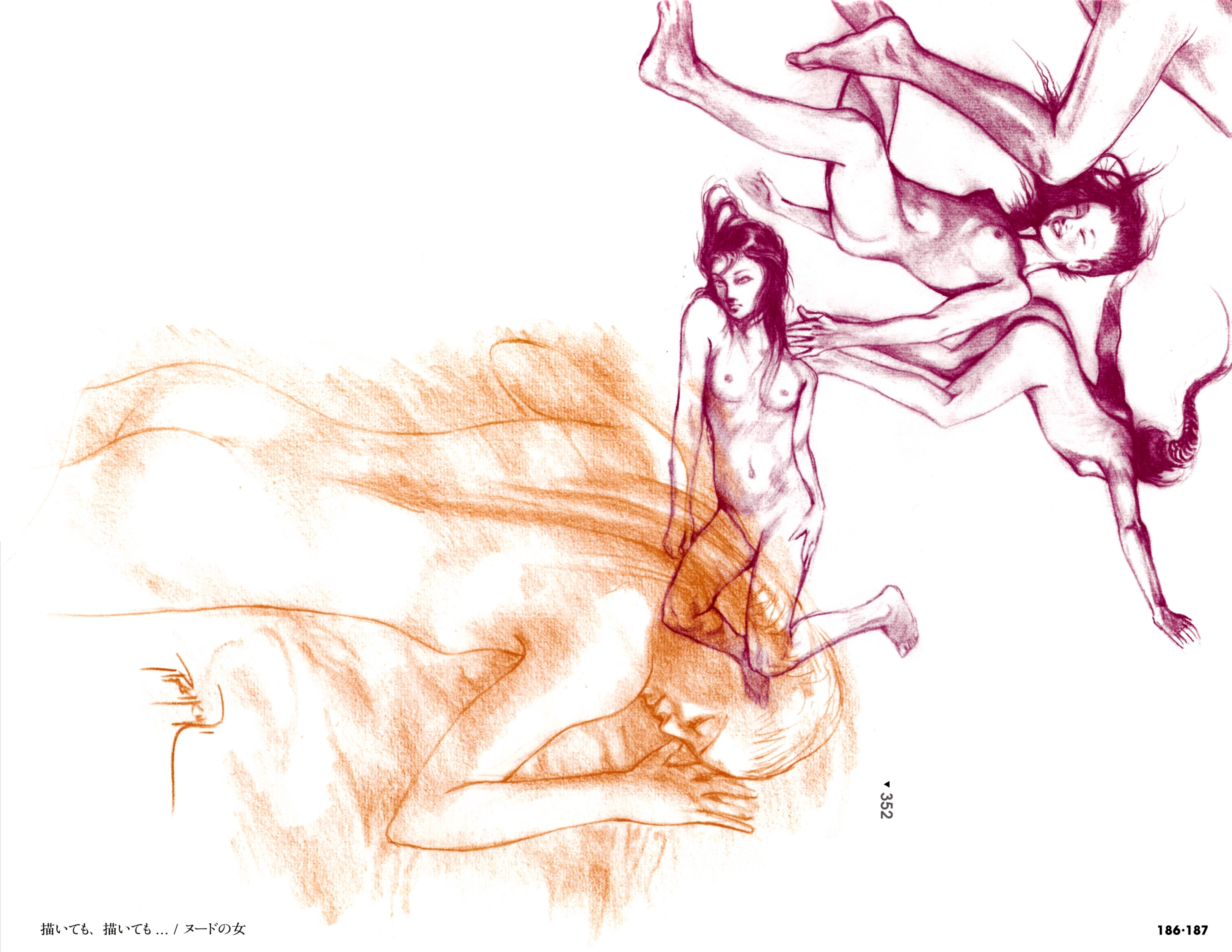
▸ 347

▾ 348

◂ 349

▸ 351

◂ 350



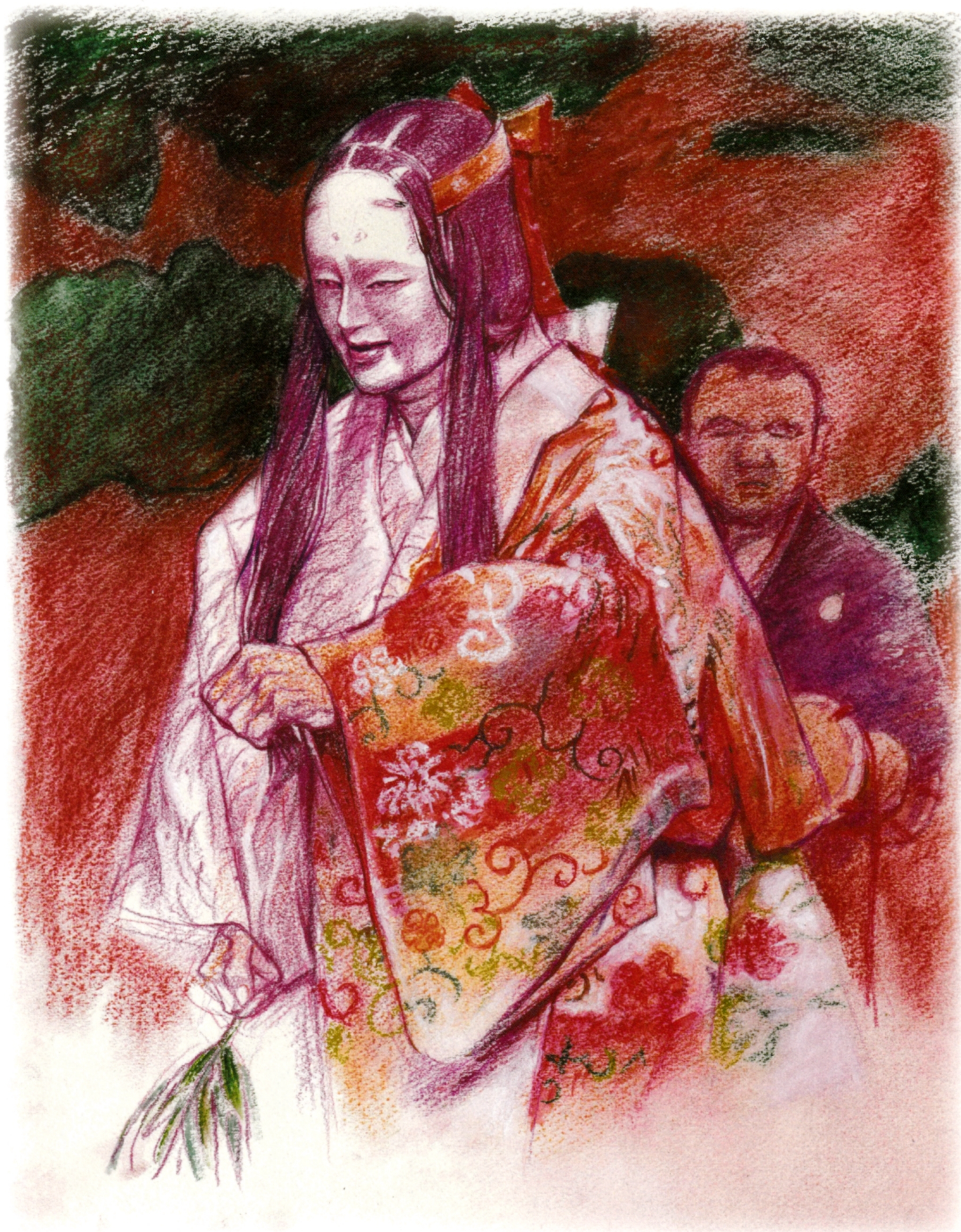
▼352

描いても、描いても … / ヌードの女

▲ 353

▸ 354

▼355



九里一平にとって特別な街である京都の、
今なお愛してやまない風景

▶356

▶357

▲358

▸ 359

▴ 360

▴ 361

▾ 362

▸ 363

▴ 364

▴ 365

長
長
長
長
長
長

▲369

▲370　京都で流れる川で唯一、紫色をした水の川がある。堀川である。後で知ったのだが、その紫は友禅染のときに出る濁り水だ。その堀川の下流が、やがて賀茂川につながる。僕たちはいつも、その近くの田んぼへイナゴとりに行く。ある日、近所の女の子を無理やり誘って、僕たちはイナゴとりに行った。チョット肝試しがしたかったのだ。堀川の横にある、田んぼへ進むあぜ道にさしかかったとき、肝試しのチャンスが来たと思った。生活用水口から流れ出る残飯が、トビにとっては何よりのご馳走なのだ。あぜ道の前方に、1メートルもあろうかと思われる羽を広げたトビが群がり、ご馳走にムシャブリついて食べている姿は、まるでハゲタカのようだった。そのおぞましく凄まじい光景を見て、僕も女の子も足がすくんでしまい、結局、一歩も前に進むことができなかった。

◀371
街頭で将校らしきアメリカ人が、靴磨きのおばさんに靴を磨かせていた。その横には、やたらに赤い口紅を塗ったロングスカートの若い女の人が、やるせなさそうに腰掛けていた。僕はそんなことはどうでもよかった。それよりも、靴を磨くおばさんの手さばきに魅せられてしまった。みるみる光ってゆく靴を見ながら、おばさんがまるで手品師のようにも見えた。しかも楽しそうに片言の英語で将校としゃべっている。ピカピカに光る靴。黒く染まった手。機関車のように走る腕。ぼくはいつの間にか、このおばさんからすごい元気をもらった気がした。

▲372 終戦後、米兵が京都にも進駐してきた。敗戦国家になって、いっそう弱々しく見えた大人たちは職場もなく、街行く人たちがまるで浮浪者に見えた。反面、日本国に勝利した米兵が、僕たちにはとてもたくましく思えたものである。ガムやチョコレートをくれる米兵が大好きになった。大人たちは進駐軍に近寄っては危険だと子どもたちを諭し、奴らは日本の国を占領するために上陸したのだという。でも僕たちは、気が優しく力持ちの米兵とあっという間に友だちになり、アメリカの唱歌を合唱したり、日本の歌を合唱し合ったりしたものである。

九里一平氏との出会いと思い出

酒井あきよし

3年ほど前のことである。突然、何年か振りに電話をいただいた。

「九里です。僕も会社を離れて、君と同じくフリーになった。今後ともよろしく。ついてはやりたいことがあるんだけど、一度会いませんか？」

九里一平氏は、元竜の子プロダクションの社長で、昔の上司でもある。私とは40年近い付き合いになるが、お会いする機会が暫くなかった。九里氏が竜の子プロを退かれたことは新聞などで存じ上げてはいたが、その後は引退し、悠々自適に晩年を優雅に過ごしておられるものだと、なかば羨ましく想っていただけに、何を考えておられるのかと、懐かしさもあって、何はともあれ吉祥寺の喫茶店で再会することにした。

ところが彼は、会社を退いた後も工房「一平舎」を構えて、独自の新境地を拓こうと頑張っておられたようだ。いきなり私の前に、ラフではあるけれども、2、3のキャラクター（時代劇）の線画を差し出された。子供向けのアニメキャラではなく、時代物の世界に興味を持っておられることが、私には意外だった。今まで竜の子プロで描いてこられたキャラクターとは全く異なるリアルな大人向きの画だったからだ。彼の裡に別のセンスを発見した思いがしたが、話を聴いてみると、元々九里氏は挿し絵が志望だったらしく、時代劇の劇画に限らず、これからは残った人生を、竜の子時代に描けなかった好きな画を漫画だけでなく思う存分描き残していくのだと、熱っぽく語られたのである。

吉田三兄弟が漫画家を目差して京都より上京され、竜の子プロダクションを設立。アニメ界屈指の会社に育て上げられるまでのご苦労は大変なものであったろう。今でこそ国内であれば、数時間もしないでどこへでもいけるし、日帰りすら可能だが、昔は夢を抱いて上京するには、そうとうの覚悟がいった。私も九州の出身なので、当時は東京というところが凄く遠くに感じたものである。汽車でも東京に行くのに24時間近くかかった。例えていえば、夢を抱いて知らないニューヨークに旅立つくらいの気持ちだったのかもしれない。一旦故郷（くに）を出たら、そうそう容易く帰郷も儘ならない時代だっただけに、故郷に対する想いは強烈だった。九里氏の場合も郷土愛は人一倍強く、昔で言うところの「故郷に錦を飾る」的な気持ちをずっと胸中にマグマのように鬱積させてこられたに相違ない。

というのも、その時代劇の漫画の舞台は、江戸ではなく、是非「京都」にして欲しいとおっしゃったからである。九里氏は画家で私は脚本家。2人で原作をやろうと言われる。

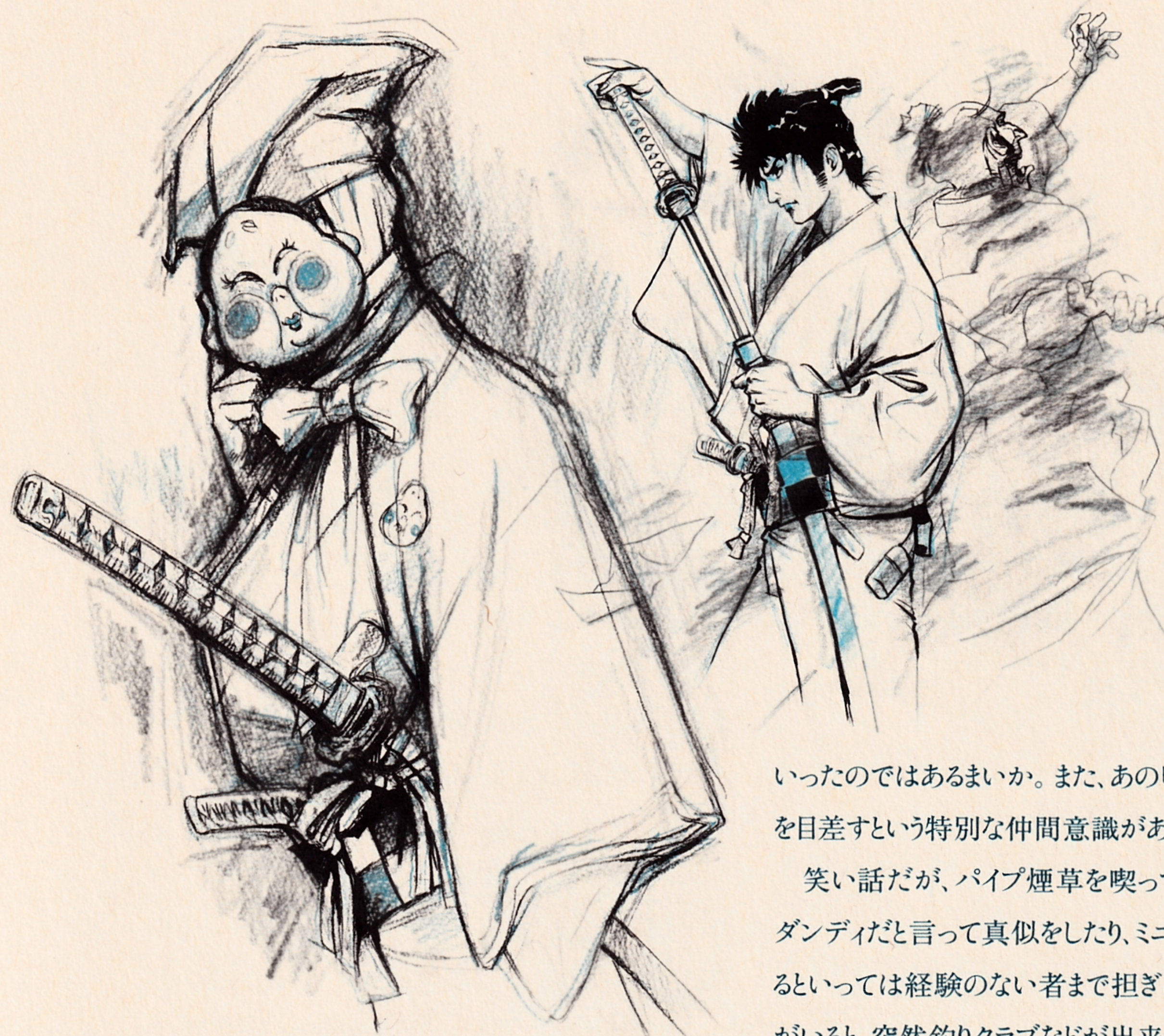
「それぞれに出来ないところを、支えあっていけば、きっと良い作品が出来ると思うよ！」

眸を輝かせて切り出されたとき、私は消えかけていた自分の創作意欲に何か発破を仕掛けられたような気がしたものである。私自身、九里氏より年下とはいえ、そろそろ引退を考えていた時期だったからだ。それなのに、当時70歳にもなろうという御大が、

「酒井さん引退するのはまだまだ早すぎるよ。夢はこれからだ！」

熱く語られたのには、正直脱帽せざるを得なかった。彼は私の消えかけていた作家への情熱に火を点けてくれたのだ。そこで生まれたのが共同原作による「暗闇同心 鍔鳴剣屍郎（怨霊斬り）」である。

話は戻るが、私が竜の子プロに入社したのは、確か27歳頃だったと記憶している。学生時代から物書きを志していた私は、昔の日活（映画会社）で原案などを書いていたが、日活はその後潰れ、スポーツ新聞の嘱託社員やテレビの照明などやりながら、実らぬ本を書き続けていた。その私を拾っ



九里一平と酒井あきよしが
生み出した時代劇ヒーロー、
鍔鳴剣屍郎の原画
(鉛筆、色鉛筆)。

てくれたのが竜の子プロダクションであった。勿論、入社当時の給料は、それまで働いていた仕事先の半分にも満たなかったが、それ以上に遣り甲斐のある職場を提供していただいた。私が物書きとして現在あるのは、竜の子プロの企画文芸部で育てていただいたお陰だと今でも思っている。

私のことはさておき、吉田三兄弟の中で、三男坊であった九里(吉田豊治)氏は、当時常務。だが、社長や専務とは違って、とても気さくで大らかな性格の持ち主だった。天性の人徳とでもいうのだろうか、彼にはどこか子供がやんちゃなまま大人になったようなところがあって、上下の隔たりなく物創りの仲間同士という感覚でいつもみんなと陰日向無く接してくれたのが印象的だった。その人柄は今も変わらない。吉田社長は厳しい中にも情が深く繊細で、営業にも専念され、専務はどちらかと言えば事務的な方で、会社を束ね、九里氏は現場に専念。役割分担がよかったのだろうが、どなたも物創りの気持ちが解る方々で、それぞれの才能を生かす場所を与えてくれた。それ故に、大勢の優秀な人材が集まって育ち、巣立っていったのではあるまいか。また、あの頃を振り返れば、同じ途を目差すという特別な仲間意識があったようにも思う。

笑い話だが、パイプ煙草を喫っている人がいると、それがダンディだと言って真似をしたり、ミニコースのゴルフ場が在るといっては経験のない者まで担ぎ出された。釣り好きの人がいると、突然釣りクラブなどが出来て、何台も車を連ねて悪天候にも拘わらず千葉まで出掛けて、時化(しけ)だというのに掛け合って釣り船をだしてもらい大揺れの船で、海釣りどころではなかったこともある。かと思うと、急に麻雀が流行ったり。企画部長で故人となられたが、その鳥海氏が交通事故に遭ったと聞いた途端に、社員の主だった連中に輸血の指令が出たりとか……。結局、大したことではなかったのだが、結構ハチャメチャな反面、変な連帯意識の強さがあった。まるで会社のみんなが家族のようだった。昭和というよき時代だったのだろう。核家族や派遣切りの平成の世では考えられないことである。私も九里氏とは年齢が近いせいで、よく一緒に飲み歩いたり、作品のことで口論したこともあったように思うが、いつも一歩引いてくれたのは上司である九里氏だったように記憶している。他人には言いにくいチョイ悪なことも一緒になってやった経験もあるが、そのことは伏せておこう。全て若気の至りだと思っている。

新しい企画をたてる時には、「籠り」と称して箱根宮ノ下の鄙びた温泉、あるいは相模湖の旅館、横浜中華街近くのビ

ジネスホテルに、プロデューサー兼キャラクターデザイナーとしての九里氏、監督、それから企画部員総動員で2、3泊逗留、喧々諤々と作品のイメージ創りからやりあったものである。不思議なもので、その3箇所で企画した作品は、必ずヒットしたものだ。

そんな自由な発想が源になって、「ガッチャマン」や「キャシャーン」「みなしごハッチ」「ヤッターマン」「破裏拳ポリマー」「けろっこデメタン」「テッカマン」等々の作品が生まれた。

大らかで自由奔放が許されたことが、換言すれば、竜の子カラーとも言える数々の名作を生み出した所以なのかもしれない。

そして、こうした若き日のノスタルジアにひたれるのも、作品を創る産みの苦しみがあったからこそだろう。実際には苦しい時期もあった。オイルショックの時には、もうアニメが製作できなくなるのではないかという将来に不安を抱きながらも、その時代をみんなで乗り切ってきたのだ。そんな豊富な経験が糧になったからこそ、多くの才能ある人材が竜の子プロで育って巣立ち、その後のアニメ界を背負って業界に貢献している。

私もフリーとなり、紆余曲折があってアニメから遠ざかりテレビドラマ（実写）へと転向したが、竜の子プロは初代社長・吉田竜夫氏亡き後も、九里一平氏が社長となり、次々に大きな仕事を達成してこられた。その功績を思うと、九里氏が竜の子プロを退りぞかれたことはとても残念である。竜の子カラーと言われた当時の作品のイメージと情熱は、現在の竜の子プロに、果たしてどれだけ受け継がれているだろうか……。九里氏の心底に忸怩たるものがあるのではないか……。

だが、久しぶりに再会した九里氏は、依然とは全く変わらず老け込んだりしていない、いや、むしろ昔以上に溌剌として輝いた瞳孔の持ち主だった。時代が如何に変わろうと、人の抱く夢には限りは無いのだろう。

創作に年齢はないとよく言われるが、私はあれは慰めの言葉のように思える。時代が変われば流行も変化するし、新しいものは次々に過去のものとなって、新たに時代の寵児が育ってくる。

業界とはそんな世界である。若さが重宝がられ、歳を経た者は忘れられていく。しかし、いつの世にも表現こそ変われども、普遍的なものは必ず生き遺っていく。永遠に生き続ける作品は数限りなくある。我々は若い世代に途を譲るもよし。が、決して朽ち果ててはならない。昔の栄光に縋って年老いていくことよりも、常に後ろを振り向かず前進し、更に新境地を切り拓こうとする信念を、九里一平氏の裡に見出し、私は刺激と元気をいただいている。

「僕の知り合いでね、もう九里さんは働かなくても充分稼いできたんだし、無理しなくても後は遊んで暮らせるじゃないか、なんて言う人がいるがね。冗談じゃない。僕は生涯画描きだし、まだまだ完成されていない。これからなんだ。一生が勉強だよ」

自分の描いた画を眺めながら、しみじみと呟やかれた時の顔が、私の脳裏に鮮明に焼きついている。九里一平は未だ健在。現役の漫画家である。今まで描けなかった自分の夢の世界をこれからもどんどん展開していってもらいたい。一生勉強という謙虚な姿勢も大切だが、一生が青春であって欲しいと希う。そのよきパートナーになりたいと、私は思っている。

（さかい・あきよし／脚本家）

作品リスト

凡例：

- No.(掲載頁)解説／制作年／技法の順で掲載。
- 作品名は個別にはなく、テーマを●で示した。
- 【　】内の担当とは、アニメ制作にあたり著者が担当した主な役割を示す。
- アニメ作品の解説は、竜の子プロダクションの協力を得た。
- 作品解説において、完成画と同じ構図のものは下絵とし、完成画も掲載されている場合は通し番号を枝番とした。
- 作品解説において、完成画がないもので、著者がデッサンと判断したものはデッサンとした。
- 作品解説において、『科学忍者隊ガッチャマン』のみ、描かれている人物名を記載した。
- 技法は主な材料のみ記載し、記号化した。
  ペン＝p、鉛筆＝pl、色鉛筆＝cpl、水彩＝w、マーカー＝m、ポスターカラー＝pc、パステル＝pt、セル絵具＝s、カラーインク＝ci、エアブラシ＝a、筆＝b、墨＝su、岩絵具＝iw、木炭＝cl
- データが同じものはまとめた。

（編：編集部）

●自画像……▸**1**(pp.2-3) 原画／pl、w

•宇宙エース

放映▷1965年5月〜1966年4月、全52回
【担当：企画、キャラクターデザイン、脚本、演出、作画監督】

家族や仲間とはぐれて地球に迷い込んだパーレム星の王子エースが、地球の平和を守るためわんぱくパワーで大活躍する勇気の物語。九里一平の漫画『Zボーイ』を元に制作されたタツノコプロ初のアニメ作品。

▸**2**(p.8)原画／pl ▸**3**(p.9)『少年ブック』(集英社)漫画原画／pc ▸**4-5**(pp.10-11)タツノコカレンダー原画／2003／pl、w ▸**6**(p.12)タツノコカレンダー原画／2003／pl、m ▸**7**(pp.12-13)『少年ブック』(集英社)漫画原画／pc[逆版使用] ▸**8**(p.13)宇宙エース第1作放送記念セル画／1965／s、a、pc

•マッハGoGoGo

放映▷1967年4月〜1968年3月、全52回　【担当：演出】

天才少年レーサー三船剛が7つの特殊装置をもつマッハ号に乗り、世界各地の過酷なレースに挑み真のレーサーに成長する物語。それまでのアニメの常識にはないリアルな絵で作られた、タツノコプロ初のカラーアニメ。1997年『マッハGoGoGo』(リメイク版)【担当:キャラクター原案】

▸**9**(p.14)原画／2000／pl、cpl ▸**10**(p.14)原画／2000／pl ▸**11**(p.15)タツノコカレンダー原画／2002／pl、w ▸**12**(p.16)販促用原画／2002／pl、p、w ▸**13-14**(p.17)原画／2000／pl、cpl[14は逆版使用] ▸**15**(pp.18-19)原画／pl、w ▸**16-17**(p.19)原画／2000／pl

•紅三四郎

放映▷1969年4月〜9月、全26回　【担当：演出、総監督】

格闘技「紅流」の創始者を父にもつ三四郎が、無念の死を遂げた父の仇を討つために、紅の柔道着を身にまとい世界中をさすらう真の男の物語。実写映像の挿入や本物の炎を撮影するなどの実験が試みられた作品。富士フィルム技術賞受賞。

▸**18-a**(p.20)デッサン／pl ▸**18-b**(p.20)原画(色紙)／pl、w ▸**19**(pp.20-21)『少年サンデー』(小学館)漫画原画／1968／pl、w ▸**20**(p.22)ビデオジャケット原画／1982／pc ▸**21-24**(p.23)DVDジャケット原画／b、w ▸**25**(p.23)LD-BOXジャケット原画／pc

•ハクション大魔王

放映▷1969年10月〜1970年9月、全52回(104話)

クシャミを合図に壷から飛び出るハクション大魔王は、わがままなご主人様カンちゃんの好き放題な願いを叶えようとするが失敗ばかり。ドジな大魔王とカンちゃんの友情を描いたギャグアニメ。名作『アラジンと魔法のランプ』を元に作られた作品。

▸**26**(p.24)デッサン／pl ▸**27**(p.24)原画／2006／w ▸**28**(p.25)原画／w ▸**29-30**(pp.26-27)原画／pc ▸**31**(pp.28-29)原画／w、pc ▸**32**(p.30、カバーそで)フィギュア用原画／pl ▸**33**(pp.30-31)DVD-BOX原画／p、w

•昆虫物語 みなしごハッチ

放映▷1970年4月〜1971年12月、全91回　【担当：演出、総監督】

スズメバチの襲撃で崩壊したミツバチ王国で唯一生き残ったハッチはシマコハナバチの末っ子として育てられるが、自分の出生の秘密を知り、弱肉強食の世界で健気にたくましく離れ離れになった女王蜂のママを捜す旅に出る、母と子の涙の物語。高度経済成長とともに親子の問題が浮き彫りになった時代に作られた作品。1974年『昆虫物語新みなしごハッチ』【担当:プロデューサー】、1989年『昆虫物語みなしごハッチ』(リメイク版)【担当:製作、キャラクターデザイン】

▸**34**(p.32)原画／2012／cpl、w ▸**35**(p.33、カバー裏)タツノコカレンダー原画／1985／pt、w ▸**36**(p.34)原画／w ▸**37**(p.35)原画／2001／w ▸**38**(p.36)原画(色紙)／2003／w ▸**39**(p.37)原画(色紙)／2002／w ▸**40**(p.38)原画／w ▸**41**(p.39)原画(色紙)／w ▸**375**(p.207)テレホンカード原画／w

•樫の木モック

放映▷1972年1月〜12月、全52回　【担当：演出】

妖精の魔法で命を与えられた樫の木の人形モックはいたずら好きの怠け者。失敗の末、心優しいゼペットじいさんの愛情に気付き、本当の人間になりたいと願うようになる。名作『ピノッキオの冒険』を元に作られた作品。

▸**42**(pp.40-41)タツノコカレンダー原画／2003／w ▸**43**(p.41)原画(色紙)／1999／w

•科学忍者隊 ガッチャマン

放映▷1972年10月〜1974年9月、全105回　【担当：プロデューサー】

地球征服を企む悪の秘密結社ギャラクターに立ち向かうため、国際科学技術庁の南部博士は5人の少年少女を集め、科学と忍法を駆使して戦う科学忍者隊を結成。地球の平和を守るため5人はさまざまなメカを使って戦い、友情以上の固い絆を築いていく。それまでのアニメにはない人間ドラマを描き、作画にリアリティを追及し、アニメ史に残る名作となった。1978年『科学忍者隊ガッチャマンII』【担当:プロデューサー、キャラクターデザイン】、『科学忍者隊ガッチャマンF』【担当:企画、プロデューサー】

▸**44**(pp.42-43、カバー表)原画(大鷲の健)／pl、cpl、m ▸**45**(p.44)原画(コンドルのジョー)／2010／p ▸**46**(p.44)原画(コンドルのジョー)／2003／p ▸**47-48**(pp.44-45)パッケージ原画(コンドルのジョー／大鷲の健)／p、cpl ▸**49-50**(p.45)原画(大鷲の健)／2010／p ▸**51-a**(p.46、カバー裏面ポスター)原画(大鷲の健とコンドルのジョー)／w ▸**51-b**(pp.46-47)デッサン(コンドルのジョー)／pl ▸**52**(p.47)原画(大鷲の健、コンドルのジョー)／2012／w ▸**53**(pp.50-51)原画(ベルク・カッツェ、みみずくの竜、白鳥のジュン、大鷲の健、コンドルのジョー、燕の甚平)／pl、m ▸**54-56**(p.50)原画(コンドルのジョー／白鳥のジュン／大鷲の健)／pl ▸**57-59**(p.51)原画(燕の甚平／みみずくの竜／白鳥のジュン)／pl ▸**60-a**(p.52)下絵／pl、cpl ▸**60-b**(p.53)原画(コンドルのジョー、大鷲の健、レッドインパスル隊長)／w ▸**61**(p.54)原画(大鷲の健)／m ▸**62-63**(p.54)原画(コンドルのジョー、燕の甚平／大鷲の健、コンドルのジョー)／pl ▸**64**(p.55)原画(大鷲の健)／pl、w ▸**65**(p.56)原画(大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン、燕の甚平、みみずくの竜)／pl、cpl ▸**66**(p.57)原画(コンドルのジョー)／pl ▸**67**(p.57)原画(コンドルのジョー)／1978／pl ▸**68-69**(p.57)原画(コンドルのジョー、大鷲の健、白鳥のジュン／大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン、燕の甚平、みみずくの竜)／pl ▸**70-71**(p.57)原画(大鷲の健、コンドルのジョー／白鳥のジュン)／pl、cpl ▸**72**(p.57)原画(大鷲の健、白鳥のジュン)／pl ▸**73**(p.59)奈良薬師寺奉納原画(大鷲の健)／w ▸**74**(p.60)原画(大鷲の健、白鳥のジュン、燕の甚平)／2012／pc ▸**75-76**(p.61)原画(大鷲の健／白鳥のジュン)／2010／p ▸**77**(p.64)原画(大鷲の健)／2012／pl、cpl ▸**78**(p.65)原画(大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン、燕の甚平、みみずくの竜、南部博士)／2012／w ▸**79**(pp.66-67)原画(大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン、燕の甚平、みみずくの竜)／2012／w ▸**80**(p.68)下絵(大鷲の健、コンドルのジョー、白鳥のジュン)／2003／p ▸**81**(p.69)原画(色紙、大鷲の健)／m

•タツノコヒーロー

▸**82**(p.69)原画／2012／pl ▸**83**(p.70)原画／w ▸**84**(p.71)原画／pl、cpl ▸**85**(pp.72-73)原画／pc

●けろっこデメタン
放映▷1973年1月〜9月、全39回

イモリに襲われ仲間とともに虹の池に引っ越してきたアマガエルのデメタンは、トノサマガエルのナラタンと出会い仲良くなるが、大人たちはふたりを引き離そうとする。弱虫なデメタンが虹の池を平和な池にするため奮闘し成長していく物語。

▸86(pp.74-75) 原画／2004／w ▸87(p.76) タツノコカレンダー原画／2003／w ▸88(p.77) タツノコカレンダー原画／1985／b、iw

●新造人間 キャシャーン
放映▷1973年10月〜1974年6月、全35回　【担当：プロデューサー】

人間に反旗を翻したロボットBK-1号はアンドロ軍団を組織して世界征服を企む。ロボットの生みの親東博士の息子鉄也は、人類の平和と未来を取り戻すため、生身の肉体を捨て不死身の新造人間キャシャーンとなって戦いを挑む。公害問題に対する社会風刺も込めた作品。

▸89(p.78) 原画／w ▸90(p.79) 原画／2008／w ▸91(p.80) パッケージ原画／p、cpl ▸92(p.80) DVDジャケットデッサン／2004／pl ▸93(p.81) 原画／2002／w ▸94(p.82) 原画／pc ▸95(p.83) 原画／1999／pt

●破裏拳 ポリマー
放映▷1974年10月〜1975年3月、全26回

普段は三流探偵事務所の冴えないアシスタント鎧武士は、事件が起こると、6つの形態に転身を可能にするポリメットを使う正義の味方ポリマーに変身し、新拳法「破裏拳流」を使って悪の組織と戦う。当時のカンフーブームを反映して作られた作品。

▸96(pp.84-85) 原画／w ▸97(p.86) 原画／p ▸98(p.86) 原画／pl ▸99(p.87) 原画／1999／pl ▸100(p.87) 原画／pl

●宇宙の騎士 テッカマン
放映▷1975年7月〜12月、全26回　【担当：演出】

環境破壊と公害によって汚染された地球を捨て新天地を求めて宇宙に旅立つ人類の前に、宇宙征服を企む悪党星団ワルダスターが立ちはだかる。戦いで父を失った南城二はテッカマンに変身し、戦闘ロボットペガスとともに人類の生き残りをかけてワルダスターと戦う。1992年『宇宙の騎士テッカマンブレード』【担当：製作】

▸101-102(p.88) 原画／2000／pl、w ▸103(p.89) 原画／2009／pl ▸104(p.89) 原画／2000／pl、w ▸105(p.90) タツノコカレンダー原画／2002／pl、w ▸106(p.91) LDジャケット原画／1981／pc

●タイムボカン
放映▷1975年10月〜1976年12月、全61回

世界初のタイムマシン「タイムボカン」の試運転中に消息を絶った木江田博士を捜すため、助手の丹平と娘の淳子は、宇宙一高価なダイナモンドを手がかりに旅に出るが、悪玉マージョ一味もダイナモンドを狙って後を追う。タイムボカンシリーズ第1弾。

▸107(p.92) 記念切手原画／pl、cpl ▸108-a(p.92) 下絵／p、cpl ▸108-b(p.93) 原画／pc ▸109-a(p.94) 竜の子プロダクション年賀ポスター原画／1999／w ▸109-b(p.95) タツノコカレンダー原画／2002／pl、w ▸109-c(p.94) 原画(構図：九里一平、画：ロベルト・フェラーリ)／pc ▸110(p.95) テレホンカード原画／w

●ポールのミラクル大作戦
放映▷1976年10月〜1977年9月、全50回　【担当：プロデューサー】

両親からもらった手作りのぬいぐるみパックンに妖精が宿り、ポールとガールフレンドのニーナを不思議な世界に連れていくが、魔王ベルトサタンにニーナをさらわれてしまう。ニーナを助けるため、ポールは不思議な世界へと冒険の旅に出る。

▸111-a(pp.96-97) タツノコカレンダー原画／1985／ci ▸111-b(p.97) 下絵／1985／pl、cpl

●タイムボカンシリーズ ヤッターマン
放映▷1977年1月〜1979年1月、全108回

玩具店の息子ガンちゃんとガールフレンドのアイちゃんはロボット犬ヤッターワンとともに、泥棒の神様ドクロベエから黄金のありかを示すドクロストーンを探すよう命じられたドロンボーたちの計画を阻止すべく、ドクロストーンの争奪戦を繰り広げる。タイムボカンシリーズ第2弾。

▸112(p.98) 原画(色紙)／2006／w ▸113(p.98) テレホンカード原画／pl、w ▸114(p.99) 商品用セル画／1996／s ▸115(pp.100-101) 商品用セル画／1996／s ▸116-119(pp.102-103) 原画／pl、cpl ▸120(p.103) 原画／w

●闘士ゴーディアン
放映▷1979年10月〜1981年2月、全73回　【担当：企画、キャラクターデザイン】

天変地異で文明が破壊された地球で、人々が暮らすタウンを次々と侵略する悪の秘密結社マドクターを阻止するため、ダイゴは亡き父が設計した3体のロボットが分身合体したゴーディアンと合体し、戦いを挑む。

▸121-a(pp.104-105) 下絵／1994／pl、cpl ▸121-b(pp.104-105) 原画／1994／pc ▸122(p.106) LDジャケット原画／1994／w ▸123-131(p.107) キャラクターラフ原画／pl ▸132(p.107) LDジャケット原画／1994／w

●森の陽気な小人たち ベルフィーとリルビット
放映▷1980年1月〜7月、全26回

温厚で陽気な小人ファニット族のみなし子ベルフィーとわんぱく坊主リルビットが、動物たちと楽しく暮らす森の中で繰り広げる冒険物語。

▸133-a(p.110) 下絵／1985／pl、cpl ▸133-b(pp.110-111) タツノコカレンダー原画／1985／w

●とんでも戦士 ムテキング
放映▷1980年9月〜1981年9月、全56回　【担当：企画、プロデューサー、キャラクターデザイン】

地球に侵入した悪の一味クロダコブラザーズを追ってやってきたタコ星の保安官助手のタコローにパワーを与えてもらった地球人の少年遊木リンは、ムテキングとなってクロダコブラザーズが引き起こす犯罪を取り締まる。当時のローラースケートブームを反映して作られた作品。

▸134-136(pp.112-113)原画／pl、w

●タイムボカンシリーズ ヤットデタマン
放映▷1981年2月〜1982年2月、全52回　【担当：プロデューサー】

未来からやってきたナンダーラ王国のカレン姫は王位継承の証である伝説の鳥ジュジャクを探すため、ワタルにヤットデタマンに変身できる力を授ける。ワタルはコヨミとともに、時空を超えてやってきた王位を狙う悪玉ミレンジョ一味とジュジャクの争奪戦を繰り広げる。タイムボカンシリーズ第5弾。

▸137-a(p.114) 下絵／pl ▸137-b(p.115) 原画／pc

●黄金戦士 ゴールドライタン
放映▷1981年3月〜1982年2月、全52回　【担当：企画、キャラクターデザイン】

地球を侵略するためメカ次元からやってきた悪のイバルダ大王を追ってきたメカ次元の戦士ゴールドライタンは、地球人の少年ヒロシや、ライターから変身するライタン軍団とともにイバルダ大王と戦う。

▸138-143(pp.116-117) 原画／2001／pl ▸144-146(p.118) 原画／p ▸147(p.118) 原画／1981／p ▸148(p.118) 原画／p ▸149-150(p.119) 原画／w

●OKAWARI-BOY スターザンS
放映▷1984年1月〜8月、全34回

理想郷パラトピア探索中に消息を絶った父を捜すため宇宙に旅立った八神ジュンとジュンを追う狩上一家は、キラキラ星に不時着する。ジュンを助けた友好的なセノビ族と、狩上一家が遭遇したロボット族は対立を繰り返す。そのたびに、森の中から超人的な身体能力をもつ地球人の少年スターザンSが現れて、ジュンとセノビ族を救う。

▸151(pp.120-121) タツノコカレンダー原画／1985／p、w

未発表作品

•神伝説サダメビウス

西暦2031年、地球は第五惑星マドメシア人と戦っていた。世界宇宙局のドクター聖は地球を守るため、超能力をもつ3人の若者たちでサダメビウスを組織した。探索に出たサダメビウスはかつて地球人とマドメシア人が同一の種族であったことを知る。生まれながらにして重い運命を背負った主人公たちを描いたSF作品。1981年『マイアニメ』(秋田書店)で、挿絵入りの小説『神伝説サダメビウス』として1年間連載、テーマソングが作られEPが発売された。【担当:イラスト】

▸**152-156** (pp.123-126) 原画/1982/p ▸**157** (p.127) ポスター原画(『マイアニメ』秋田書店。当初、原画にトランプが貼られていた。) /1981/w ▸**158-176** (pp.128-129) セル画/s、pc

•チャレンジャー

こういう時代やコスチュームを描いてみたいと思い、生み出したキャラクター。当時話題になったハリウッドのSF映画に影響された部分もある。

▸**177-178** (p.132) 原画/1979/p ▸**179** (p.133) 原画/1979/p、w ▸**180-181**(pp.134-135) 原画/1979/p

•マイトフィーバー

ポリマーやテッカマンの頃に生まれたヒーローもののキャラクター。主人公の履いている靴は、超伝導、高速で滑る特殊装置。アイスホッケーのゴールキーパーのマスクが魅力的で、そこからヒントを得た。

▸**182-183**(p.136) 原画/p、cpl ▸**184-185**(p.137) 原画/p

•マンタに乗った少年

1時間くらいの中編ものをやりたくて考えた作品。公害問題をテーマにしている。海を汚しているのは人間だということを魚たちが教えてくれる物語。「海の日」の施行に合わせて作られた作品。

▸**186** (p.138) 原画/w ▸**187** (p.138) 原画(キャラクター) /w ▸**188** (p.139) 原画/w ▸**189** (p.139) 原画(キャラクター)/p、w ▸**190** (p.139) 原画(キャラクター) /m ▸**191**(p.139) 原画(キャラクター) /m ▸**192**(p.139) 原画(キャラクター) /w ▸**193**(p.139) 原画(キャラクター) /m ▸**194-195**(pp.140-141) 原画/w ▸**196-197** (p.141) 原画(キャラクター) /pl

•紅拳

社長業をやりながら考えていたキャラクター。現場を離れてからも欠かさなかったのがキャラクター作り。紅三四郎とは少しちがう、奇想天外でSFっぽさもあるような格闘技ものを作りたくて考えた作品。

▸**198** (p.142)原画/w ▸**199** (p.143)原画/pl ▸**200** (p.143)原画/w ▸**201-202** (p.144) 原画(キャラクター)/w ▸**203** (p.144) 原画/p ▸**204** (p.144) 原画/pc ▸**205-206** (p.144) セル画/s、p ▸**207** (p.145) 原画(キャラクター設計図) /w ▸**208**(p.145) 原画/p ▸**209**(p.145) 原画/m

•M Go

オリジナルのレーサーヒーローもののキャラクター。

▸**210-215**(pp.146-147) 原画(キャラクター) /2002/m

漫画作品

•暗闇同心 鍔鳴剣屍郎 怨霊斬り

(原作:九里一平、酒井あきよし)

▸**216** (p.148) 原画/pl ▸**217** (p.149) 原画/2011/w ▸**218-220** (pp.150-152) 原画/w ▸**221** (pp.158-159) 原画/pl、cpl ▸**222** (p.161) 原画/pl ▸**223** (p.163) 原画/2009/pl、cpl ▸**224** (p.164) 原画/pl ▸**225-228** (pp.166-167) 原画/pl、cpl ▸**229-a**(p.168) 下絵/pl、cpl ▸**229-b**(p.168) 下絵/pl ▸**229-c** (p.169) 原画/w ▸**230-231** (pp.170-171) 原画/w ▸ (pp.153-157,160-162,164-165) 漫画原稿

初期漫画作品

▸**232** (p.175)「ハリケーンGメン」(原作:梶原一騎、『冒険王』秋田書店) /1961/p ▸**233-246** (pp.176-177) 漫画試作/1958/pl、p ▸**247** (p.178)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p ▸**248-251**(p.178)「マレー白虎隊」(『少年ブック』集英社) /1963/p ▸**252** (p.178)「少年スピード王」(原作:久米みのる、『少年』光文社) /1961/p ▸**253** (p.178)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p ▸**254** (p.179)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p、w ▸**255** (p.180)「ハリケーンGメン」(原作:梶原一騎、『冒険王』秋田書店) /1961/p、w ▸**257** (p.180)「海洋少年隊」(『まんが王』秋田書店) /1961/p、w ▸**258** (p.180)「ハリケーンGメン」(原作:梶原一騎、『冒険王』秋田書店) /1961/p、w ▸**260** (p.180)「大空のちかい」漫画巻頭カラー頁(『少年サンデー』小学館) /1962/ ▸**261-263** (p.180)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p、w ▸**264** (p.180)「指令000(スリー・ゼロ)」(『冒険王』秋田書店) /1961/p、w ▸**265** (p.180)「マレー白虎隊」(『少年ブック』集英社) /1963/p、w ▸**266** (p.180)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p、w ▸**267,270-271**(p.180)「マレー白虎隊」(『少年ブック』集英社) /1963/p、w ▸**272-274,287** (p.180)「大空のちかい」(『少年サンデー』小学館) /1962/p、w

初期漫画表紙

▸**256,259,268-269,275-286,288-336** (pp.180-181)「ミサイル金太郎」(『まんが王』昭和34年11月特大号、昭和35年新年号、4月号、秋田書店) /「海底人8823(ハヤブサ)」(原作:黒沼健、『少年』昭和35年新年号、3月号、4月号、5月号、7月号、9月号、11月号、光文社) /「白雪剣之助」(原作:長谷公二、『冒険王』昭和35年4月号、秋田書店) /「アラーの使者」(原作:川内康範、脚本:松原佳成、『冒険王』昭和35年8月号、10月号、昭和36年新年特大号、秋田書店) /「少年鉄仮面」(原作:川内康範、脚色:武田知之、『少年』昭和36年新年号、2月号、光文社) /「ジュードー・ボーイ」(原作:新井豊、構成:吉田竜夫、『少年ブック』昭和36年新年特大号、2月特大号、4月特大号、6月号、8月号、9月特大号、10月号、11月号、12月号、昭和37年新年特大号、集英社) /「少年快速王」(『冒険王』昭和36年お正月増刊号、秋田書店) /「指令000(スリー・ゼロ)」(『冒険王』昭和36年2月号、3月号、5月号、7月号、8月号、9月号、秋田書店) /「アロー・エース」(原作:赤塚五郎、『まんが王』昭和36年3月号、秋田書店) /「少年スピード王」(原作:久米みのる、『少年』昭和36年4月号、9月号、10月号、光文社) /「海洋少年隊」(『小学生画報』昭和36年8月号、9月号、10月号、『まんが王』昭和37年新年特大号、4月号、5月号、10月号、秋田書店) /「ハリケーンGメン」(原作:梶原一騎、『冒険王』昭和37年新年特大号、2月特大号、3月号、5月号、6月号、秋田書店) /「テスター Z」(原作:丸山健二、『少年』昭和37年4月号、光文社) /「少年ライフル部隊」(原作:久米みのる、『小学四年生』昭和37年5月号、小学館) /「マレー白虎隊」(『少年ブック』昭和38年7月号デラックス漫画ブック、9月特大号、10月号、12月号、集英社) /『すっとび力丸』①(構成:竜の子プロ、青林堂、昭和38年) (昭和38年『少年マガジン』講談社連載の単行本化) /「白虎戦車隊」(『少年ブック』昭和39年新年特大号、2月号、3月号、4月号、5月号、6月号、集英社) /『大空のちかい』⑥『週刊少年エース』新光社、昭和41年) (昭和37年『少年サンデー』小学館連載の転載) /『弾丸児』上下(ゴールデン・コミックス、小学館、昭和43年) (昭和42年『少年サンデー』小学館連載の単行本化)

描いても、描いても…

●和装の女…… ▸**337-a**(p.183) 原画/2010 ▸**337-b**(p.183) 原画/2010/p ▸**338**(p.184) 原画/2007/cpl ▸**339-a**(p.184) 原画/2007/pl[逆版使用] ▸**339-b**(p.185) 原画/2007/cpl ▸**340**(p.184) 原画/2007/pl ▸**341-342** (p.185)原画/2007/cpl ▸**343**(p.185)原画/2007/pt、cpl ▸**344**(p.185)原画/2005/w

●ヌードの女…… ▸**345-349**(pp.186-187)原画/2010/cl ▸**350-352**(pp.188-189) 原画/2010/cpl

●舞…… ▸**353**(p.190) 原画(能「乱」)/pt ▸**354**(p.190) 原画(能面)/pt ▸**355** (p.191) 原画(能「蝉丸」) /pt

●京の夢…… ▸**356**(p.192) 原画/w ▸**357**(p.192) 原画、節分会2月(2日、3日、聖護院)/su ▸**358**(p.192) 原画、伏見の酒蔵/2002/w ▸**359**(p.193) 原画/w ▸**360**(p.193) 原画、都おどり(4月)/su ▸**361**(p.193) 原画、蹴鞠始め1月(4日、下鴨神社) /su ▸**362**(p.193) 原画/pl ▸**363**(p.193) 原画、竹伐り会式(20日、鞍馬寺) /su ▸**364**(p.193) 原画、寒中托鉢1月(8日～ 18日、聖護院) /su ▸**365**(p.193) 原画/pl、w ▸**366-373**(pp.194-201) 原画/w

●愛犬たち…… ▸**374**(p.206)原画/2003/w

九里一平より

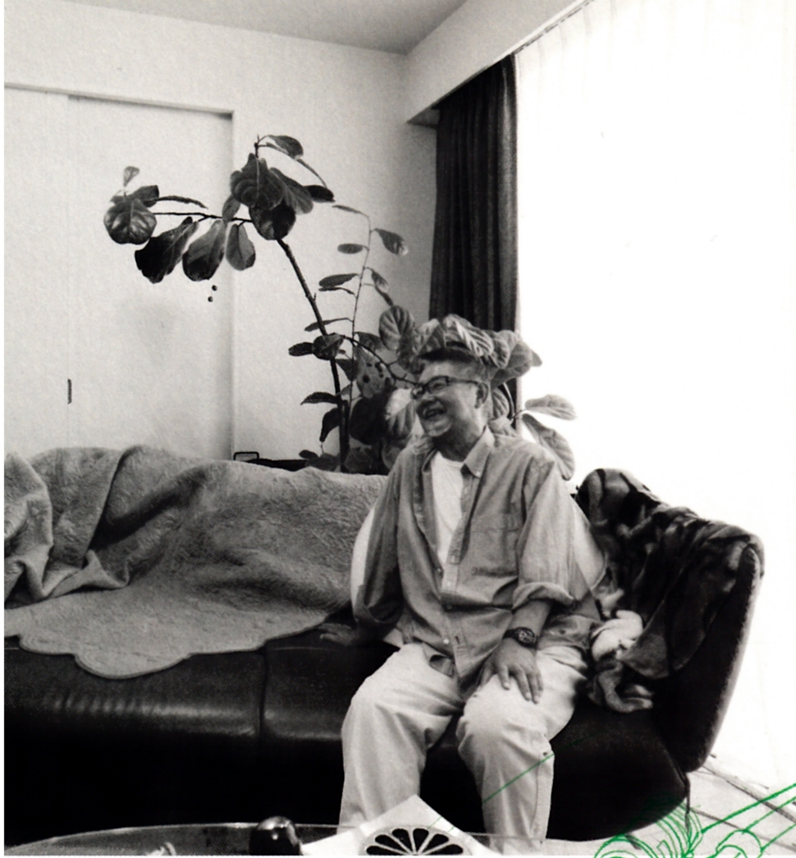
この度、僕の作品集にご尽力くださった多くの方々に、心よりお礼申し上げます。

竜の子プロには大変お世話になりました。ありがとうございました。文章を寄せてくださった酒井あきよしさんにもお礼申し上げます。

そして、求龍堂の皆様に多大なご理解を賜ったことを感謝するとともに、この場をお借りして、恥かしながら、苦しく貧乏なマンガ家時代を何ひとつ文句もいわず黙って支えて従ってきてくれた妻へ、一言「ありがとう！」の言葉を述べさせてください。この言葉は100回くり返しても足りないくらいです。口下手で、絵しか描けない僕ですが、これからも末永くよろしくお願いします。

皆様、重ねてありがとうございました。

▸ **374**
歴代の飼い犬たち。
家族の一員の肖像。



九里一平（くり・いっぺい）

１９４０年、京都市生まれ。本名は吉田豊治。
１９５９年、漫画家デビュー。60年代の少年漫画誌に多くの漫画を発表。１９６２年、アニメーション制作会社「竜の子プロダクション」を三兄弟で設立。漫画家としての力を発揮し活躍する。作画のほか、プロデューサー・企画・監督などの重責を約40年に亘って担い、『科学忍者隊ガッチャマン』『昆虫物語みなしごハッチ』『新造人間キャシャーン』『タイムボカンシリーズ』など、数々の名作アニメを生み出した。１９８７年には第三代社長に就任。２００５年に退任するまで、ほぼすべてのタツノコアニメに携わっている。竜の子プロダクションを離れてからも精力的に作家活動を続け、現在、初の時代劇漫画にも挑戦している。

▲32

★カバー裏が初版限定ポスターになっています。

ISBN978-4-7630-1234-0
C0079　￥2800E

定価（本体2,800円＋税）